

幼兒教育学科

2024 年 4 月 1 日 更新

科目名	日本国憲法		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	わたなべ のぶひさ 渡辺 演久
ナンバリングコード	PUL11101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	憲法はなぜ存在するのかを理解し、憲法は国家権力を縛ることによって、人権を保障していることを説明していく。また子どもの権利条約などの国際法や教育基本法との関連性についても講義していく。最終的には子どもにまつわる憲法上の諸問題について考えられる講義とする方針である。							
到達目標	1. 憲法の制定目的について説明できる。 2. 主権者として政策を選択する力を身につけている。 3. 子どもの人権について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2,3,4 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス、憲法はなぜあるのか（立憲主義）			予習	憲法の前文を読む	
					復習	憲法の目的を理解する		
	第2回	内容	憲法は素晴らしいが、何の役に立つのだろうか？（憲法は誰に遵守義務があるのか）			予習	憲法は誰を縛っているのか調べる	
					復習	憲法尊重擁護義務について理解する		
	第3回	内容	戦後の日本はへそによって作られた（日本国憲法の制定過程）			予習	民間の憲法案を調べる	
					復習	民間の憲法案がどう反映されたかを理解する		
	第4回	内容	天皇の給料はお仕事にみあっているか（象徴天皇制）			予習	女性天皇、女性宮家について調べる	
					復習	現在の皇室をとりまく状況を理解する		
	第5回	内容	ウルトラマンは地球を守るために戦う？（平和主義と自衛隊）			予習	平和のための戦いはありうるのか考える	
					復習	平和主義について理解する		
	第6回	内容	自由が先か、平等が先か（法の下での平等）			予習	一票の格差とは何か調べる	
					復習	選挙制度について理解する		
	第7回	内容	大岡政談にみる黙秘権と無罪の推定（刑事司法における人権保障）			予習	冤罪事件について調べる	
					復習	無罪推定の意義について理解する		
	第8回	内容	言論の自由は「言いたいことを言う権利」ではない（言論の自由）			予習	民主政治には何が必要か調べる	
					復習	言論の自由の意義を理解する		
第9回	内容	教育の主体は国家？それとも国民？（教育を受ける権利）			予習	学校教育の誕生について調べる		
				復習	教育を受ける権利について理解する			
第10回	内容	幸福追求権の中身と自己決定（幸福追求権）			予習	トランスジェンダーについて調べる		
				復習	幸福追求権が人権の源になりうることを理解する			
第11回	内容	参政権があるだけでは民主主義とはいえない（参政権と民意）			予習	自分の選挙区の選挙結果を調べる		
				復習	多数が民意とは限らないことを理解する			
第12回	内容	統治機構は人権を守る手段である（法の支配）			予習	国家を支配しているのは誰か考える		
				復習	法の支配について理解する			
第13回	内容	国会と国会議員の実像（立法機関）			予習	国権とは何か調べる		
				復習	三権分立について理解する			
第14回	内容	内閣と議員内閣制の不思議（内閣）			予習	憲法の行政について読んでおく		
				復習	行政権の範囲について理解する			
第15回	内容	まとめとレポート作成			予習	憲法にまつわる新聞記事を調べる		
				復習	憲法の視点から政治問題を考える			
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	レポート作成後にまとめと講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（ 90%）、授業態度【積極的参加】（ 10 %）							
教科書	『憲法のおもしろさ第3版』（山本聡・渡辺演久、北樹出版）							
参考文献	授業内で適宜紹介する							
補足事項	新聞記事等を通じて子どもをとりまく人権状況を取り上げるので、新聞などの報道に興味をもってほしい。							

科目名	体育実技		単位数	1	授業時間数	44	担当教員 きたほら っだ 北洞・津田
ナバリングコード	DMB11101		授業形態	実技	実務経験		
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技術の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。また、将来幼児教育者として必要な幼児の運動あそびに関する知識、技能、さらに子どもの指導や援助の技術について理解を深めることを目的としている。						
到達目標	1. 運動・ダンス・スポーツに親しむための基礎的技術を習得している。 2. 自己の身体に関心を持ち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 3. 運動・ダンス・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 4. 幼児教育者として必要な幼児の運動遊びに関する基本的な知識と技術を習得している。						
学位授与方針	幼児教育学科(3,4) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	からだの調整力を育むからだ遊びといろいろなハイハイ(四足移動)	予習	乳幼児期におけるハイハイの必要性を調べる		
				復習	授業内容をGoogle クラスルームで復習する		
	第2回	内容	マット遊びⅠ: マットを道具とした遊び	予習	教科書等でマット遊びを調べる		
				復習	授業内容をレポートにまとめて提出する		
	第3回	内容	マット遊びⅡ: 回転遊び	予習	回転遊びを教科書等で調べる		
				復習	授業内容をレポートにまとめて提出する		
	第4回	内容	レクリエーションスポーツⅠ: ソフトバレーボール	予習	ソフトバレーボールのやり方を調べる		
				復習	授業で体験したことをレポートにまとめる		
	第5回	内容	跳び箱遊びⅠ: 台として遊ぶ	予習	跳び箱遊びについて教科書等で調べる		
				復習	台として遊ぶ跳び箱遊びの内容をまとめる		
	第6回	内容	跳び箱遊びⅡ: 腕立て開脚跳び越し	予習	腕立て開脚跳び越しの跳び方を調べてくる		
				復習	腕立て開脚跳び越しのポイントをまとめる		
	第7回	内容	ボール遊びⅠ: 一人遊び	予習	ボール遊びの遊び方を教科書等で調べる		
				復習	ボールの一人遊びをまとめる		
	第8回	内容	ボール遊びⅡ: ペアでパス、転がしドッジボール	予習	子どものボールゲームを調べる		
				復習	ボールもペア遊び・ドッジボールをまとめる		
	第9回	内容	レクリエーションスポーツⅡ: バasketボール	予習	Basketボールのルールについて調べる		
				復習	Basketボールで使う体力をまとめる		
	第10回	内容	縄遊びⅠ: 短縄遊び	予習	短縄を使った遊びを調べる		
				復習	授業で行った短縄遊びをまとめる		
	第11回	内容	縄遊びⅡ: 長縄遊び	予習	長縄を使った遊びを調べる		
				復習	授業で行った長縄遊びをまとめる		
	第12回	内容	身近なものを使った遊びⅠ: 新聞紙、レジ袋	予習	新聞紙とレジ袋を使った遊びを調べる		
				復習	授業で行った遊びをまとめる		
	第13回	内容	レクリエーションスポーツⅢ: バドミントン	予習	バドミントンのルールを調べる		
				復習	バドミントンで使う体力をまとめる		
	第14回	内容	巧技台遊びⅠ: 器具の名称を覚える、基本の動き	予習	巧技台の器具の名称を教科書で調べてくる		
				復習	巧技台の基本の動き方をまとめる		
	第15回	内容	巧技台遊びⅡ: 色々な使い方	予習	巧技台の使い方を教科書で調べてくる		
				復習	授業で行った動きをまとめる		
	第16回	内容	さまざまな動きについて	予習	幼児期の運動の意義について教科書を読んでおく。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第17回	内容	幼児の運動あそび① 遊びの工夫について	予習	幼児期の運動発達について調べておく。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第18回	内容	幼児の運動あそび② 幼児指導の想定、実践	予習	指導法について教科書を読み、要点を確認する。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。		
第19回	内容	いろいろな用具を使った運動あそび ボール、フープ、縄を使った運動あそび	予習	用具を使う遊びについての留意点を調べておく。			
			復習	授業内容をノートにまとめる。			

	第20回	内容	リズムカルなダンス① グループワーク：作品創り	予習	幼児期のダンスの意義について教科書を読んでおく。
				復習	授業内容をノートにまとめる。
	第21回	内容	リズムカルなダンス② グループワーク：作品のブラッシュアップ	予習	前回の授業内容を思い出し、アイデアをまとめる。
				復習	授業内容をノートにまとめる。
	第22回	内容	リズムカルなダンス③ グループワーク：発表	予習	発表に向け練習。
				復習	創作過程を振り返り、感想や反省を記入する。
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	課題に対するレポートや小テストの解答提出に関しては、Google classroom 上で評価をフィードバックする				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（10%）、レポート・課題（50%）、作品・発表（ %）、実技（20%）、授業態度【積極性】（20%）				
教科書	乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび～からだところを育む指導法（宮下恭子・茗井香保里編、大学図書出版）				
参考文献	脳を鍛えるじゃれつき遊び（正木建雄・井上高光・野尻ヒデ、小学館）				
補足事項	授業の資料を Google classroom にアップするので、Google classroom を使える環境を整えること。実技の際は、指定のジャージを着用すること。また実技はレクリエーション以外、基本的に「裸足」で行うので、ストッキングを脱いでくること。第1回の②③野外環境実習（夏・冬）に参加する際に関わる各諸経費については、全額学生負担となる。				

科目名	体育実技		単位数	1	授業時間数	44	担当教員	しおぎき 塩崎 みづほ
ナバリングコード	DMB11101		授業形態	実技	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他()							
授業の内容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技術の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。また、将来幼児教育者として必要な幼児の運動あそびに関する知識、技能、さらに子どもの指導や援助の技術について理解を深めることを目的としている。							
到達目標	1. 運動・ダンス・スポーツに親しむための基礎的技術を習得している。 2. 自己の身体に関心を持ち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 3. 運動・ダンス・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 4. 幼児教育者として必要な幼児の運動遊びに関する基本的な知識と技能を習得している。							
学位授与方針	幼児教育学科(1・2・5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	次にあげる3つのコースから選択できる。(第10時 限までは共通) ① 平常コース ② スキー実習(3月下旬3日間) (②に係る費用は全額学生負担。) 履修方法、受講上の注意事項等について説明	予習	シラバスを読み、本授業のねらい、内容について把握する。			
				復習	授業をもとに履修方法を定める			
	第2回	内容	いろいろなウォーミングアップの実践と検討 幼児の体操、オリジナルウォームアップづくり	予習	幼児期の体操について1つ以上調べてくる			
				復習	本時の内容をノートに記入する			
	第3回	内容	鬼あそびについて考えよう	予習	鬼あそびについて3つ以上あげ、ルールを記入してくる			
				復習	鬼あそびの意義についてまとめる			
	第4回	内容	米袋を使った遊び	予習	米袋を作成してくる			
				復習	米袋の遊びをまとめ、一つ新しい遊びを考えてくる			
	第5回	内容	ダンス①「走るー止まる」	予習	ストレッチをする			
				復習	本時の内容の振り返りとまとめノートを作成する			
	第6回	内容	ダンス②「集まるーとび散る」	予習	前時のウォームアップの実践をする			
				復習	本時の内容の振り返りとまとめノートを作成する			
	第7回	内容	ダンス③「リズムカルな動き」 歌詞と曲のリズムをとらえたダンス	予習	童謡の曲について調べてくる			
				復習	本時の内容を、意義とステップ、感想にまとめる			
	第8回	内容	縄を使った遊び	予習	縄遊びの箇所を教科書を読み、1つ以上遊びを選んでくる			
				復習	本時の内容を、年齢ごとに遊びを分ける			
	第9回	内容	マットを使った遊び	予習	マット遊びの箇所の教科書を読み、安全面の配慮についてまとめる			
				復習	本時の内容をもとに予習の箇所を見直す			
	第10回	内容	巧技台を使った遊び	予習	巧技台の歴史、使い方について調べてくる			
				復習	本時の内容をノートにまとめる			
第11回	内容	跳び箱を使った遊び	予習	幼児期の跳び箱遊びについて調べる				
			復習	本時の内容をノートにまとめる				
第12回	内容	フープを使った遊び	予習	フープの特性についてまとめる				
			復習	本時の内容を年齢ごとに遊びを分ける				
第13回	内容	ボールを使った遊び①幼児期の遊び	予習	幼児期のボール遊びの意義について調べる				
			復習	本時の活動内容をまとめる				
第14回	内容	バドミントン	予習	バドミントンのルールについて調べる				
			復習	本時の内容をノートにまとめる				
第15回	内容	バスケットボール	予習	バスケットボールの歴史、ルールについて調べる				
			復習	本時の内容をまとめる				
第16回	内容	ソフトバレーボール	予習	バレーボールの歴史、ルールについて調べる				
			復習	本時の内容をノートにまとめる				
第17回	内容	ダンス④「曲に合わせたダンスの創作」	予習	幼児と一緒に踊りたい曲を探す				
			復習	本時の活動、動きをまとめる				
第18回	内容	ダンス⑤「ダンス発表の練習」	予習	動きを考えてくる				
			復習	本時の活動、動きをまとめる				
	内容		予習	発表のリハーサルをする				

補足事項	授業は 11 月頃より開始（詳細は掲示にて知らせる） 毎回教科書を持参し、復習課題を提出すること
------	---

科目名	カレッジリテラシー	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しおぎき とねがわ ほりうち 塩崎・利根川・堀内
ナバリンクコード	SEM11109	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	(対面)・遠隔・その他()						
授業の内容	この授業は、広い意味での「教養」を身につけるためのものである。授業を通して、短期大学の教育に必要となる基礎学力や学ぶための姿勢、レポートの書き方、プレゼンテーションの工夫等について講義、およびグループワークを行う。また、本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を描くための講義を行う。						
到達目標	1. 短期大学における基礎学力、学ぶ姿勢を身につけている。 2. 本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を身につけている。 3. 社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけることができている。						
学位授与方針	幼児教育学科(2・3・5) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	【塩崎①】 授業ガイダンス 自己紹介スライドを作成する	予習	シラバスを読み、授業の概要を捉える		
				復習	本時の活動を振り返り、まとめる		
	第2回	内容	【塩崎②】 自己&他己紹介、交流会ワーク スライドの発表、学科交流会のグループワーク	予習	スライドを完成させる		
				復習	交流会で必要な事柄をまとめる		
	第3回	内容	【塩崎③】 大学での学び1 レポート作成について レポート作成の仕方について学ぶ	予習	関心のあるニュースを見つけ、そのニュースの要旨をまとめる		
				復習	本時の学びを参考にレポートをまとめる		
	第4回	内容	【塩崎④】 大学での学び2 文献検索 図書室の利用方法と文献検索、引用の書き方について	予習	文献検索の仕方について調べてくる		
				復習	レポートを完成させる		
	第5回	内容	【塩崎⑤】 大学での学び3 レポート発表とグループディスカッション	予習	自分のレポートの発表の仕方を練習する		
				復習	仲間の意見から自分が学んだことをまとめる		
	第6回	内容	【堀内①】 言葉遣いと人間関係のマナー	予習	社会人として必要な基礎力について考えてみる		
				復習	授業内で見つけた課題について取り組むこと		
	第7回	内容	【堀内②】 電話のマナー、手紙・はがきのマナー	予習	言葉遣いについて自分を顧みる		
				復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみる		
	第8回	内容	【堀内③】 職場のルール、来客対応・席次のマナー	予習	社会人として働く姿を想像してみる		
				復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみる		
第9回	内容	【堀内④】 箸使い・食事のマナー	予習	箸を準備、持ち方を確認する			
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみる			
第10回	内容	【堀内⑤】 立ち居振る舞い	予習	鏡に姿を映し、姿勢や歩き方を確認する			
			復習	全5回を振り返り社会人としての基礎力をつける			
第11回	内容	【利根川①】 女性の生き方・働き方とジェンダー① 著名な女性の半生を学ぶ	予習	女性の生き方・働き方について考える			
			復習	講義で取り上げた人物をまとめ、『建学の心』に目を通す			
第12回	内容	【利根川②】 女性の生き方・働き方とジェンダー② 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	『建学の心』を読む			
			復習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する			
第13回	内容	【利根川③】 女性の生き方・働き方とジェンダー③ 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する			
			復習	スライド内容を作成する、発表の準備をする			
第14回	内容	【利根川④】 女性の生き方・働き方とジェンダー④ 建学の心と保育をテーマにスライドを発表する	予習	スライド内容を作成する、発表の準備をする			
			復習	スライド発表の振り返りをする			
第15回	内容	【利根川⑤】 女性の生き方・働き方とジェンダー⑤ スライド発表を振り返る	予習	スライド発表の振り返りをする			
			復習	授業を振り返り、自分の保育観について考える			
予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う 演習時に模範解答を示し説明・指導する。レポートは添削をして返却する。発表については講評をする。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法：筆記試験()%、レポート・課題(50%)、作品・発表(30%)、実技()%、授業態度【積極的参加】(20%)						
教科書	『建学の心』冊子 『大学生の学習テクニック第3版』森靖雄、大月書店						
参考文献	『新生活教養』(近喰晴子他、建帛社)『保育のマナーと言葉』(長島和代編、わかば社) 『大学1年生からの社会を見る眼のつくり方』森靖雄、大月書店						

補足事項	卒業および資格取得のための必修科目なので、全員が履修すること。 塩崎 5 回、利根川 5 回、堀内 5 回
------	--

科目名	カレッジリテラシー	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	せき とねがわ ほりうち 関・利根川・堀内
カバリングコード	SEM11109	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	この授業では、短期大学の教育に必要な基礎学力や学ぶための姿勢、レポートの書き方、プレゼンテーションの工夫等について講義、およびグループワークを行う。また、本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を描くための講義を行う。						
到達目標	1. 短期大学における基礎学力、学ぶ姿勢を身につけている。 2. 本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を身につけている。 3. 社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけることができている。						
学位授与方針	幼児教育学科(2・3・5) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	【関①】 授業ガイダンス 自己紹介スライドを作成する	予習	シラバスを読み、授業の概要を捉える		
				復習	本時の活動を振り返り、まとめる		
	第2回	内容	【関②】 自己&他己紹介、二部生交流会ワーク スライドの発表、学科交流会のグループワーク	予習	スライドを完成させる		
				復習	交流会で必要な事柄をまとめる		
	第3回	内容	【関③】 大学での学び1 レポート作成について レポート作成の仕方について学ぶ 交流会振り返り	予習	関心のあるニュースを見つけ、そのニュースの要旨をまとめる		
				復習	本時の学びを参考にレポートをまとめる		
	第4回	内容	【関④】 大学での学び2 文献検索 図書室の利用方法と文献検索、引用の書き方	予習	文献検索の仕方について調べてくる		
				復習	レポートを完成させる		
	第5回	内容	【関⑤】 大学での学び3 レポート発表とグループディスカッション	予習	自分のレポートの発表の仕方を練習する		
				復習	仲間の意見から自分が学んだことをまとめる		
	第6回	内容	【堀内①】 言葉遣いと人間関係のマナー	予習	社会人として必要な基礎力について考えてみる		
				復習	授業内で見つけた課題について取り組むこと		
	第7回	内容	【堀内②】 電話のマナー、手紙・はがきのマナー	予習	言葉遣いについて自分を顧みる		
				復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること		
	第8回	内容	【堀内③】 職場のルール、来客対応・席次のマナー	予習	社会人として働く姿を想像してみる		
復習				授業で学んだ事を日常生活で活用してみること			
第9回	内容	【堀内④】 箸使い・食事のマナー	予習	箸を準備、持ち方を確認する			
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること			
第10回	内容	【堀内⑤】 立ち居振る舞い	予習	鏡に姿を映し、姿勢や歩き方を確認する			
			復習	全5回を振り返り社会人としての基礎力をつける			
第11回	内容	【利根川①】 女性の生き方・働き方とジェンダー① 著名な女性の半生を学ぶ	予習	女性の生き方・働き方について考える			
			復習	講義で取り上げた人物をまとめ、『建学の心』に目を通す			
第12回	内容	【利根川②】 女性の生き方・働き方とジェンダー② 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	『建学の心』を読む			
			復習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する			
第13回	内容	利根川③ 女性の生き方・働き方とジェンダー③ 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する			
			復習	スライド内容を作成する、発表の準備をする			
第14回	内容	【利根川④】 女性の生き方・働き方とジェンダー④ 建学の心と保育をテーマにスライドを発表する	予習	スライド内容を作成する、発表の準備をする			
			復習	スライド発表の振り返りをする			
第15回	内容	【利根川⑤】 女性の生き方・働き方とジェンダー⑤ スライド発表を振り返る	予習	スライド発表の振り返りをする			
			復習	授業を振り返り、自分の保育観について考える			
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う 演習時に模範解答を示し説明・指導する。レポートは添削をして返却する。発表については講評をする。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/(O)しない 成績評価の方法：筆記試験(%)、レポート・課題(50%)、作品・発表(30%)、実技(%)、授業態度【授業参加】(20%)						
教科書	『『建学の心』冊子 『大学生の学習テクニック第3版』森靖雄、大月書店						
参考文献	『新生活教養』(近喰晴子他、建帛社) 『保育のマナーと言葉』(長島和代編、わかば社) 『大学1年生からの社会を見る眼のつくり方』大学初年次教育研究会、大月書店						
補足事項	卒業および資格取得のための必修科目なので、全員が履修すること。 関5回、利根川5回、堀内5回						

科目名	キャリアデザイン	単位数	1	授業時間数	30	担当教員
ナンバリングコード	SEM11110	授業形態	講義	実務経験		
授業方式	○対面・遠隔・その他()					
授業の内容						
到達目標	1. 2. 3.					
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科()					
授業計画	第1回	内容		予習		
				復習		
	第2回	内容		予習		
				復習		
	第3回	内容		予習		
				復習		
	第4回	内容		予習		
				復習		
	第5回	内容		予習		
				復習		
	第6回	内容		予習		
				復習		
	第7回	内容		予習		
				復習		
	第8回	内容		予習		
				復習		
第9回	内容		予習			
			復習			
第10回	内容		予習			
			復習			
第11回	内容		予習			
			復習			
第12回	内容		予習			
			復習			
第13回	内容		予習			
			復習			
第14回	内容		予習			
			復習			
第15回	内容		予習			
			復習			
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。						
課題へのフィードバック						
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する／()しない 成績評価の方法：筆記試験()%、レポート・課題()%、作品・発表()%、実技()%、授業態度【 】()%					
教科書	『書名』(著者名、出版社名)					
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)					
補足事項						

科目名	キャリアデザインⅡ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	めい かおり 若井 香保里
ナンバリングコード	SEM11106		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	本授業では、自らのライフキャリア（人生生活全般）を形成するための智慧、それをキャリアデザイン（人生設計）することに関する内容を扱う。また、ライフキャリアに関する基礎知識、キャリア発達理論を学び、自らの課題を発見して実践的に活用できる力の育成をめざす。							
到達目標	1. 自己理解、他者理解を深めることができる。 2. キャリアデザインの基本と方法について理解できる。 3. 修得した知識を実践的に活用できる							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2, 3, 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション、キャリアデザインとは 構成的グループエンカウンターの実践	予習	シラバスを熟読する	復習	本時のグループ活動についてノートにまとめる	
	第2回	内容	自己紹介とハンセンの4L理論	予習	自己紹介の内容を考える	復習	授業での学びをノートに書き、4Lと人生をまとめる	
	第3回	内容	自己分析とライフラインチャート	予習	自分の人生の出来事をノートに書いておく	復習	ライフラインチャートから、自分の考える幸福についてノートにまとめる	
	第4回	内容	シャインのキャリアアンカー8分類	予習	教科書や参考資料からキャリアアンカーの言葉の意味を調べておく	復習	シャインについて調べノートにまとめる	
	第5回	内容	キャリア教育の基礎理論 パーソンズ、スーパー、サビカス	予習	代表的なキャリア教育の基礎理論について調べておく	復習	教科書の該当ページを熟読する	
	第6回	内容	キャリアプラン、キャリアパス、ライフキャリア発達	予習	言葉の意味を調べておく	復習	授業を振り返り自分の課題としてノートにまとめる	
	第7回	内容	ライフキャリア発達課題	予習	教科書の該当頁を熟読する	復習	授業を振り返り自分の発達課題についてノートにまとめる	
	第8回	内容	外的キャリア、内的キャリア	予習	job と work の違いについて調べておく	復習	自分の仕事の価値をどこに置くか、ノートにまとめる	
	第9回	内容	クランボルツの計画的偶発性学習理論	予習	クランボルツについて調べておく	復習	自分のブランドハプスタンスをノートにまとめる	
	第10回	内容	トランジションとシュロスバーグの4S理論	予習	一般的な人生の転機の兆候や特徴について調べておく	復習	自分の人生の転機を振り返りノートに書く	
	第11回	内容	リアリティーショックとキャリアショック	予習	リアリティーショックとキャリアショックの言葉の意味を調べておく	復習	これらのショックから立ち直る方法を考える	
	第12回	内容	卒業生から聞く保育の仕事	予習	自分の働く理由をノートに書いておく	復習	自分の社会での役割は何なのかというテーマから、ディスカッションの内容をまとめる	
	第13回	内容	自己課題とキャリアプランニング	予習	キャリア形成における自己課題をノートに書いておく	復習	大学での学びを活用して自己課題を解決するためのアイデアをノートにまとめる	
	第14回	内容	人生設計のまとめ、 行動し、失敗を重ねて前進する力	予習	これまでのマイ講義ノートを読み返しておく	復習	これまでの授業を振り返り、学びと感想をマイ講義ノートに書きまとめる	
	第15回	内容	健康に生きること、人生、命	予習	教科書とこれまでのマイ講義ノートを読み返しておく	復習	これまでの授業を振り返り、学びと感想をマイ講義ノートに書きまとめ、その考えを第三者に伝えられるようにする	
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。								
課題へのフィードバック	マイ講義ノートを集め、コメントを書き入れて返却する							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（60%）、授業態度【 積極的参加】（40%）							
教科書	『大学生のキャリアデザイントレーニング』（稲本恵子、晃洋書房）							
参考文献	『大学生のための実践キャリア・デザイン』（藤木清、くろしお出版）							
注意事項	必修科目の為全員が履修すること							

科目名	基礎教養講座		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	せき ほか 関 他
ナバリンクコード	SEM11107		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	この授業では、短期大学での学修に必要な学力の向上を図りつつ、社会人として求められるスキルと教養を身につける。そして、多様な価値観に触れることで、広い視野で物事を捉え、考える力を養う。保育者養成にかかわる幅広い領域から横断的なアプローチを行い、専門的な学びに対するモチベーションを高めていく。							
到達目標	1. 主体的に大学生生活を送る姿勢を身につけている。 2. 自分の関心領域について、具体的に説明することができる。 3. 社会人として生きていくために必要な基礎教養を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	授業ガイダンス/classroomの使い方【関】 短大保育者養成課程での学びと資格取得の概要【関】	予習	学生便覧及びシラバスを読んでおく	復習	学生便覧を読む	
	第2回	内容	幼児の音楽とピアノ・学園歌について【鹿戸】	予習	子どもの歌について調べる	復習	授業で取り上げた曲の練習をしておく	
	第3回	内容	入学前ワークブックの振り返り【丸橋】	予習	ワークブックを見直す	復習	ワークブックを完成させる	
	第4回	内容	ニュースを読み解く/入学前ワークブックの振り返り【伊澤】	予習	興味を持ったニュースについて自分なりの考えをまとめる	復習	授業を振り返り、ワークブックで取り上げた新聞記事について自分の考えをまとめる	
	第5回	内容	心理学への招待【三好】	予習	心理学とはどのような学問か調べる	復習	授業前後でどのようにイメージが変わったか考える	
	第6回	内容	人と関わる～対人関係の心理学【大熊】	予習	自分が人と関わるときに大切にしていることについて考えておく	復習	自身の対人関係について、振り返る	
	第7回	内容	入学前ワークブックの振り返り【丸橋】	予習	ワークブックをよく読み、復習をする	復習	間違えた箇所を見直して覚える	
	第8回	内容	メディアで学ぶ社会福祉【志濃原】	予習	社会福祉に関するマンガや映画を調べる	復習	関心のあるマンガやDVD等を鑑賞する	
	第9回	内容	マチスの絵画に学ぶ幼児の造形【小口】	予習	幼児の表現（造形）に関する文献を読み、要旨をまとめる	復習	マチスやピカソなど、授業で取り扱った芸術家の作品を鑑賞する	
	第10回	内容	道徳教育について考える【松木】	予習	自分が受けた道徳授業について振り返る	復習	授業で学んだことをまとめ、更に調べる	
	第11回	内容	体を動かす楽しさを感じよう～エクササイズ色々【塩崎】	予習	事前に配信された資料に目を通しておく	復習	運動効果についての記録をまとめる	
	第12回	内容	作ってみよう！手作りおもちゃ【丸橋】	予習	伝統的な昔のおもちゃについて調べる	復習	製作したおもちゃの遊び方をまとめる	
	第13回	内容	欧米の保育の紹介・保育の質について【小山】	予習	欧米の保育について調べる	復習	保育の質の向上に向けた取り組みについてまとめる	
	第14回	内容	絵本から学ぶインクルージョン【関】	予習	好きな絵本を1冊図書館で借りて読んでおく	復習	借りた絵本についてインクルーシブの視点でまとめる	
	第15回	内容	授業の振り返りとまとめ/グループディスカッション【関】	予習	これまでの授業でやったことを見直す	復習	後期に向けた心構えをまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う。授業内で提出及び発表するものは授業内で講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する/（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（10%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、実技（ %）、授業態度【積極性】（30%）							
教科書	『大学1年生からの社会を見る眼のつくり方』（大学初年次教育研究会、大月書店）							
参考文献	『大学生の学習テクニック第3版』（森靖雄、大月書店） 『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語 改訂版』（永島和代編 わかば社）							
補足事項								

科目名	保育教養講座		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸橋 聡美
ナバリングコード	SEM11108		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	本科目は、保育者に求められる語彙力、読解力、保育の基礎用語、文章表現力を身につけ、保育の実践記録の記入や読み取り、指導計画案の作成、レポートの書き方など演習を通じて学ぶ。グループワーク等に参加し、AL（アクティブ・ラーニング）補習を活用しながら、学習する意欲・態度を身につける。							
到達目標	1. 専門科目を理解するための読解力が身につけている。 2. 保育分野の基礎的な用語を説明できる。 3. 実習日誌や指導案の作成の基礎となる文章表現力を身につけている。 4. レポートの書き方を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション/実習に向けてのワーク/AL補習の説明	予習	シラバスを読んでおく	復習	ワークブックを見て復習する	
	第2回	内容	保育の実践記録の文章表現方法/保育の基礎用語	予習	幼稚園のディリープログラムを確認する	復習	課題を行う。基礎用語の説明を要約する	
	第3回	内容	保育の実践記録（幼稚園①年少・解説）/保育の基礎用語	予習	課題①を読んでおく	復習	課題①を行う。基礎用語の説明を要約する	
	第4回	内容	保育の実践記録（幼稚園②年中・解説）/保育の基礎用語	予習	課題②を読んでおく	復習	課題②を行う。基礎用語の説明を要約する	
	第5回	内容	保育の実践記録（幼稚園③年長・解説）	予習	課題③を読んでおく	復習	課題③を行う。	
	第6回	内容	保育の実践記録（保育園①乳児・解説）/保育の基礎用語	予習	保育園の乳児クラスのディリープログラムを確認する/課題①を読んでおく	復習	課題①を行う。基礎用語の説明を要約する	
	第7回	内容	保育の実践記録（保育園②幼児・解説）/保育の基礎用語	予習	保育園の幼児クラスのディリープログラムを確認する/課題②を読んでおく	復習	課題②を行う。基礎用語の説明を要約する	
	第8回	内容	レポート・考察・エピソード記録の書き方/文章表現	予習	教科書 p48～57 を読む	復習	課題を行う。	
	第9回	内容	手紙の書き方（お礼状）/文章表現	予習	手紙の書き方を確認する/実習を振り返る	復習	お礼状を完成させる	
	第10回	内容	部分実習指導案①説明/文章表現	予習	教科書（p66～）を読む	復習	指導案の作成の仕方をまとめる	
	第11回	内容	部分実習指導案②絵本の読解/文章表現	予習	子どもの発達にあった絵本を選ぶ	復習	教科書 p 82, 83 を参考に指導案を完成させる	
	第12回	内容	部分実習指導案③手遊びについて/文章表現	予習	教科書（p72～）を読む	復習	教科書 p 80, 81 を参考に指導案を完成させる	
	第13回	内容	主活動の指導案作成①教材研究/文章表現（グループワーク）	予習	教科書 p 88, 89 を読む	復習	教材研究を行う	
	第14回	内容	主活動の指導案作成②指導案作成/文章表現	予習	指導案を作成するポイントを確認する	復習	指導案を完成させる	
	第15回	内容	主活動の指導案作成③解説・まとめ（グループワーク）	予習	課題プリントを読んでおく	復習	指導案作成を理解する	
	予習に要する学習時間：概ね 10分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 40分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題作成後、解説をする							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート（30%）、課題（40%）、授業態度【積極的な課題への取り組み】（30%）							
教科書	『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』（小櫃智子編、わかば社） 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』							
参考文献	『改訂版 わかる・書ける・使える 保育の基本用語』（長島和代編、わかば社）							

補足事項

必修科目のため、全員が履修すること。

各自意欲をもって取組み、基礎学力の向上を図ること。AL（アクティブ・ラーニング）補習を活用すること。

科目名	情報機器操作		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	ほしのおさむ 星野 治
ナンバリングコード	EDT11101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	Microsoft Office に含まれる事務処理系ソフトウェア群のうち、文書作成用ソフトウェア (Word)、表計算用ソフトウェア (Excel) およびプレゼンテーション用ソフトウェア (PowerPoint) の基本的な取り扱い方を学ぶ。 第2回～第14回の授業では、相隣り合う2～3コマずつの授業をペアとして進行する。各ペアの前半ではソフトウェアの基本操作を主に講義形式で、同じく後半ではソフトウェアの応用操作を主に自習形式で学びつつ、2～3コマの授業時間を使って1つの課題を仕上げる。							
到達目標	1. 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用方法を習得している。 2. パソコン初心者は、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 3. パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科 (1, 3) 地域保育学科 () 文化表現学科 ()							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス 情報リテラシー、サインイン・サインアウト、Windows の基礎知識、日本語入力、Gmail、Classroom、その他	予習	シラバスを読んでおく。			
				復習	パソコンの基本操作を確実に行う。			
	第2回	内容	Word の学習(1a) やさしい文書の作成、その他	予習	Word の編集画面の内容を理解する。			
				復習	教科書を用いて入力練習をする。			
	第3回	内容	Word の学習(1b) 表の取り扱い、文章の修飾(フォント、下線、網かけ、レイアウト、等々)、その他	予習	表の取り扱い (Word の場合) について確認する。			
				復習	指定された課題 (表付き文書) を作成する。			
	第4回	内容	Word の学習(2a) 文章の修飾 (クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線)、その他	予習	文書の基本的な修飾機能について確認する。			
				復習	指定された課題 (修飾付き文書) を作成する。			
	第5回	内容	Word の学習(2b) やや高度な文書加工 (ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換)、その他	予習	文書の応用的な修飾機能について確認する。			
				復習	指定された課題 (応用修飾付き文書) を作成する。			
	第6回	内容	Excel の学習(1a) 基本的な表 (数表) の作成、その他	予習	Excel の編集画面の内容を理解する。			
				復習	表作成を通して Word の操作との違いを理解する。			
	第7回	内容	Excel の学習(1b) 表 (数表) の作成 (関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、等々)、その他	予習	教科書などを通して組み込み関数を確認する。			
				復習	指定された課題 (計算付き数表) を作成する。			
	第8回	内容	Excel の学習(2a) データ処理の応用 (条件判定、セル参照、グラフ)、その他	予習	条件判定の指定方法について確認する。			
			復習	指定された課題 (条件付き数表) を作成する。				
第9回	内容	Excel の学習(2b) より高度なデータ処理 (簡単なデータベース、フィルタリング)、その他	予習	入力値の並べ替え方法について確認する。				
			復習	指定された課題 (入力値の抽出処理) を作成する。				
第10回	内容	PowerPoint の学習(1) スライド作成の基本 (文字入力、スライドの編集(挿入・削除・置換))、その他	予習	PowerPoint の編集画面の内容を理解する。				
			復習	指定された課題 (簡単なスライド) を作成する。				
第11回	内容	PowerPoint の学習(2) スライド作成の応用 (図表・画像の挿入、マルチメディア効果)、その他	予習	スライドの応用的な修飾方法について確認する。				
			復習	指定された課題 (前回の成果物の改良) を作成する。				
第12回	内容	ソフトウェアの応用(1) 長文レポート (鑑賞文など) の作成、その他	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。				
			復習	指定された課題 (両ソフトの同時利用) を作成する。				
第13回	内容	ソフトウェアの応用(2) Excel を用いた数学問題の求解、その他	予習	各ソフトウェアの応用操作を再確認する。				
			復習	指定された課題 (数学問題の求解など) を作成する。				
第14回	内容	ソフトウェアの応用(3) Word や Excel を併用したスライドの作成、その他	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。				
			復習	指定された課題 (授業時に指示する) を作成する。				
第15回	内容	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報リテラシーに関する各自の見解のまとめ	予習	これまでの課題全般に目を通しておく。				
			復習	授業時に指定された内容のレポートを作成する。				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補された成果物の再提出を求める。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法： レポート・課題 (50%)、授業態度【積極的参加】(50%)							
教科書	『Windows10 対応 30 時間でマスター Office2019』(実教出版企画開発部、実教出版株式会社)							
参考文献	必要に応じて紹介する。							

補足事項	<p>授業の進行状況に応じて、授業計画の内容を適宜変更する場合がある。</p> <p>パソコンの操作はピアノの演奏と同様に、触れる機会が多ければ多いほど早く上達する。また、パソコンとスマートフォンとは、用途も使い勝手も互いに全く異なるIT機器同士である。スマートフォンの操作はできる反面パソコンに対して苦手意識があるという人は、時間の許す限り、たとえば授業時間外にネットサーフィンを行う等して、パソコンの取り扱いに慣れ親しむようにしてほしい。</p>
------	---

科目名	英語	単位数	2	授業時間数	60	担当教員	なかじま なおき 中島 尚樹
ナンバリングコード	ENL11101	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して、英語で理解し、表現できるようになることを目指して、基本的な文法と語彙の学習から英作文に至るまで発信型の練習をしていきます。また、英語の歌や月の名前の由来などの文化的な話題にも触れたいと思っています。						
到達目標	1. Be動詞の構文(現在と過去)を正しく使うことができる。 2. 一般動詞の構文(現在と過去)を正しく使うことができる。 3. 日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけている。						
学位授与方針	幼児教育学科(2、5) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	授業説明 (年間の授業の流れ、評価方法、履修上の注意点など)	予習	シラバスを読む。	復習	1年間の授業の流れを確認する。
	第2回	内容	Pre-Unit 品詞と語順 (英語の品詞と基本語順)	予習	Pre-Unitの部分を読んで、問題をやる。	復習	各品詞の例を自分で考えてみる。
	第3回	内容	文法: 名詞と代名詞 (名詞と代名詞の種類、主格の代名詞)	予習	代名詞の分類を試みる。	復習	指示に沿って代名詞についてまとめる。
	第4回	内容	文法: Be動詞の現在形(肯定文) (Be動詞+名詞句/形容詞句/前置詞句)	予習	プリント1の説明部分を読み、例文を訳す。	復習	プリント1の練習問題の訳をノートに書く。
	第5回	内容	文法: Be動詞の現在形(否定文と疑問文) (Be動詞+名詞句/形容詞句/前置詞句)	予習	プリント2の説明部分を読み、例文を訳す。	復習	プリント2の練習問題の訳をノートに書く。
	第6回	内容	文法: Be動詞の過去形 (肯定文、否定文、疑問文)	予習	プリント3の説明部分を読む。	復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
	第7回	内容	Unit 1 First Day of Class (be動詞の構文)	予習	テキストU1のGrammar Aidの部分を読む。	復習	U1のConversationのBを聞いて音読する。
	第8回	内容	文法: There構文 (人やモノの存在を表す表現)	予習	プリント4の説明部分を読み、例文を訳す。	復習	これまで出てきたBe動詞の構文をまとめる。
	第9回	内容	文法: 一般動詞の現在形(肯定文) (主語によって変わる現在形の動詞の形)	予習	プリント5の説明部分を読む。	復習	プリント5の練習問題の訳をノートに書く。
	第10回	内容	文法: 一般動詞の現在形(否定文) (don't/doesn'tの区別と使い方)	予習	プリント6の説明部分を読み、例文を訳す。	復習	プリント6の練習問題の訳をノートに書く。
	第11回	内容	文法: 一般動詞の現在形(疑問文) (Do/Doesの区別と使い方)	予習	プリント7の説明部分を読み、例文を訳す。	復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
	第12回	内容	Unit 2 I love Bread (一般動詞の現在形)	予習	テキストU2のGrammar Aidの部分を読む。	復習	U2のConversationのBを聞いて音読する。
	第13回	内容	Unit 3 Pizza Time (可算名詞と不可算名詞)	予習	テキストU3のGrammar Aidの部分を読む。	復習	U3のConversationのBを聞いて音読する。
	第14回	内容	Unit 4 Not Just a Baker (代名詞: 所有格、目的格)	予習	テキストU4のGrammar Aidの部分を読む。	復習	U4のConversationのBを聞いて音読する。
	第15回	内容	まとめ: be動詞と一般動詞の現在形など (文法問題の練習と英作文)	予習	これまで学んだ構文を自分で整理する。	復習	これまで出てきた単語を整理し、まとめる。
	第16回	内容	文法: 時点を表す副詞的な表現 (基本的な時間表現と前置詞の有無)	予習	これまで出てきた時間表現を書き出してみる。	復習	プリント8の時間表現を自分でまとめる。
	第17回	内容	文法: 文型と前置詞 (文型と位置や移動を表す前置詞)	予習	これまでの空間関係の前置詞をまとめる。	復習	学んだ文型の具体例を書き出して整理する。
	第18回	内容	Unit 7 I Feel Healthy Already! (時と場所を表す前置詞)	予習	テキストU7のGrammar Aidの部分を読む。	復習	U7のConversationのBを聞いて音読する。
	第19回	内容	文法: 一般動詞の過去形(肯定文) (規則動詞と不規則動詞)	予習	プリント9の説明部分を読み、例文を訳す。	復習	リストにある不規則動詞の過去形を覚える。
	第20回	内容	文法: 一般動詞の過去形(疑問文・否定文) (Did... と didn'tの使い方)	予習	プリント10の説明部分を読み、例文を訳す。	復習	プリント10の練習問題の訳をノートに書く。

第21回	内容	Unit 5 What's Wrong with Hitomi? (一般動詞の過去形)	予習	テキストU5のGrammar Aidの部分を読む。
			復習	U5のConversationのBを聞いて音読する。
第22回	内容	Unit 11 Hitomi Wants a New Look (接続詞)	予習	テキストU11のGrammar Aidの部分を読む。
			復習	U11のConversationのBを聞いて音読する。
第23回	内容	文法: Wh 疑問文 (疑問詞が主語の場合とそれ以外の場合のWh 疑問文)	予習	知っている疑問詞をまとめる。
			復習	出てきた疑問詞を整理し、例文を作る。
第24回	内容	Unit 13 I'm Meeting a Friend (疑問詞)	予習	テキストU13のGrammar Aidの部分を読む。
			復習	U13のConversationのBを聞いて音読する。
第25回	内容	文法: 現在進行形 (現在時の動作の進行を表す表現)	予習	プリント11の説明を読む
			復習	プリント11の練習問題の訳をノートに書く。
第26回	内容	文法: 現在進行形と現在形 (現在進行形と現在形の違い)	予習	プリント12の説明部分の例文を訳す。
			復習	現在進行形と現在形の違いについてまとめる。
第27回	内容	文法: 過去進行形 (過去のある時点の動作の進行を表す表現)	予習	プリント13の説明部分を読む。
			復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
第28回	内容	Unit 6 It Won't Hurt (進行形)	予習	テキストU6のGrammar Aidの部分を読む。
			復習	U6のConversationのBを聞いて音読する。
第29回	内容	Unit 8 Small Talk (未来形)	予習	テキストU8のGrammar Aidの部分を読む。
			復習	これまでの語彙と構文を整理して総復習する。
第30回	内容	まとめ: 一般動詞の過去形、現在・過去進行形など。 (文法問題の練習と英作文)	予習	これまでの構文を整理し、疑問点をまとめる。
			復習	試験に出る英作文を覚える。
予習に要する学習時間: 概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間: 概ね45分を目安とする。				
課題へのフィードバック	試験は、試験後に解答についての解説をし、達成度に関するコメントを加えます。			
成績評価	試験期間における定期試験: 実施(○)する/()しない 成績評価の方法: 筆記試験(90%)、授業態度【積極的な参加や真摯な学習態度】(10%)			
教科書	<i>English Aid</i> (Robert Hickling・臼倉美里、金星堂)			
参考文献				
補足事項	初回の授業でテキストの音声のダウンロードの仕方を説明しますので、教科書を持参してください。			

科目名	英語	単位数	2	授業時間数	60	担当教員	まつき ひさこ 松木 久子
ナバリングコード	ENL11101	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	保育の現場で必要とされるであろう実践的な英語力の基礎を養うことを目的とし、英語の基礎学力と基本的な英語のコミュニケーション能力を身に付けられるように指導します。さらに、英語の歌や絵本の読み聞かせができることや、季節のイベントを英語で説明できるようになるような力をも養うことを目標とします。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場で必要とされる英語の基本的な語彙を理解している。 2. 英語の基本的な文法を理解した上で、簡単な英語の会話ができる。 3. 英語の基礎学力（読む・書く・聞く・話す）が身に付いている。 						
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・4・5 ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項	予習	シラバスをよく読んでおく		
				復習	1年間の授業の流れを確認していく		
	第2回	内容	挨拶・自己紹介	予習	挨拶・自己紹介について調べまとめておく		
				復習	授業内容をまとめておく		
	第3回	内容	幼稚園や保育所（園）についての英語の単語を理解する	予習	就学前教育に関する単語を調べておく		
				復習	理解できる・できない単語を明確にしておく		
	第4回	内容	子どもの遊び・遊具・玩具に関する英単語	予習	遊び遊具・玩具に関する単語を調べておく		
				復習	理解できる・できない単語を明確にしておく		
	第5回	内容	リスニング：世界のおとぎ話（裸の王様・北風と太陽）	予習	日本語で2つの話を読んで、内容を確認する		
				復習	聞き取れる・取れない箇所を明確にしておく		
	第6回	内容	時間・季節・天候についての英単語	予習	時間・季節・天候についての単語を調べる		
				復習	理解できない単語をまとめておく		
	第7回	内容	顔や体の部位そしてけがや病気などの英単語	予習	事前に単語を調べてまとめておく		
				復習	理解できない単語を明確にしておく		
	第8回	内容	DVD鑑賞：日本の昔話（桃太郎等）	予習	日本語で昔話を読んで、内容を確認しておく		
				復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる		
	第9回	内容	自分の家族や友人について英語で語る	予習	自分の家族や友人について英語でまとめておく		
				復習	英語で述べられるように練習する		
	第10回	内容	動物やペットについての英単語	予習	動物やペットに関する単語を調べておく		
				復習	理解できる・できない単語を明確にしておく		
第11回	内容	リスニング：グリム童話（赤ずきん・シンデレラ）	予習	日本語で2つの話を読んで、内容を確認する			
			復習	聞き取れる・取れない箇所を明確にしておく			
第12回	内容	衣服・食べ物についての英単語	予習	衣服・食べ物についての単語を調べておく			
			復習	理解できない単語をまとめる			
第13回	内容	色・形・数字についての英単語	予習	色・形・数字についての単語を調べておく			
			復習	理解できない単語をまとめる			
第14回	内容	DVD鑑賞：日本の昔話（一休さん等）	予習	日本語で昔話を読んで、内容を確認しておく			
			復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる			
第15回	内容	前期授業全体のまとめ（文法問題の練習と英作文）	予習	理解できない単語や表現についてまとめておく			
			復習	自分の弱点について明確にしてまとめておく			
第16回	内容	幼児向けDVD・音楽を鑑賞する（1）	予習	地域性とシーンの関係性を調べる			
			復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる			
第17回	内容	規則動詞と不規則動詞	予習	保育現場で必要となる単語を調べまとめておく			
			復習	理解できない単語についてまとめる			
第18回	内容	可算名詞と不可算名詞	予習	保育現場に必要な名詞について調べまとめる			
			復習	理解できない単語についてまとめる			
第19回	内容	保護者に用意してもらった所持品について学ぶ	予習	所持品について調べてまとめておく			
			復習	理解できない単語についてまとめる			
第20回	内容	リスニング：アンデルセン童話（おやゆび姫・人魚姫）	予習	日本語で2つの話を読んで、内容を確認する			
			復習	聞き取れる・取れない箇所を明確にしておく			

	第 21 回	内容	登園・降園に関する英語表現	予習	
				予習	登園・降園に関する単語を調べてまとめておく
	第 22 回	内容	保育者の仕事に関する英語表現	復習	理解できない単語についてまとめる
				予習	保育者の仕事について英語で書き出しておく
	第 23 回	内容	食べ物に関する英語表現	復習	理解できない表現についてまとめておく
				予習	保育現場における食べ物について調べておく
	第 24 回	内容	リスニング：イソップ物語（アリとキリギリス・狼少年）	復習	理解できない単語についてまとめる
				予習	日本語で 2 つの話を読んで、内容を確認する
	第 25 回	内容	園への道順・案内や周辺に関する英語表現	復習	聞き取れる・取れない箇所を明確にしておく
				予習	道順・案内についての表現について調べておく
	第 26 回	内容	遠足や園外活動に関する英語表現	復習	理解できない表現についてまとめておく
				予習	交通手段についての単語を調べておく
	第 27 回	内容	ネイティブの先生との打ち合わせに挑戦してみる	復習	理解できない表現についてまとめておく
				予習	必要とされる英語表現について調べておく
	第 28 回	内容	幼児向け DVD：音楽を鑑賞する（2）	復習	理解できない表現についてまとめておく
				予習	地域性とシーンとの関係性を調べる
	第 29 回	内容	【発表】自分自身について英語で語ってみよう	復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
				予習	発表内容を英語でまとめておく
	第 30 回	内容	全体のまとめ	復習	他の人の内容も踏まえてまとめ直しておく
				予習	理解できなかった事柄をまとめておく
予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	小テストを数回にわたって実施し、解答についての解説を行い理解度について把握していきたいと思います。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ 50 %）、課題・発表（ 30 %）、授業態度【発言の頻度等】（ 20 %）				
教科書	特に指定はしません。 授業中に必要に応じて、資料を配布します。				
参考文献	授業中に必要に応じて、紹介していこうと思います。				
注意事項	わからない・知らない単語は貪欲に辞書を引いて調べてほしいと思います。英語は便利な外国語であることを理解してください。				

科目名	表現とアート	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	おくち しおぎき はせがわ 小口・塩崎・長谷川
ナバリンクコード	ARE11101	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	領域「表現」に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや音環境、造形表現の効果的な使い方について学ぶ。また、総合的な表現をグループで検討・実践することで、保育者として必要な知識・技能やコミュニケーション力を高め、豊かな感性と表現力を身に付ける。さらに ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。						
到達目標	1. 見る・聴く・動く・作るなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2. 生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができている。 4. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。						
学位授与方針	幼児教育学科(2・5) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：総合的な表現について理解する。	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる		
				復習	本時の内容についてノートにまとめる		
	第2回	内容	発表の方法を理解し、グループの意見を集約して共通テーマに沿った構成を考える。	予習	テーマに沿った構成を自分なりに考えてくる		
				復習	テーマに沿った歌や動き、造形についてまとめる。		
	第3回	内容	テーマに合った表現を考えグループごとに発表内容を構成用紙にiPadへ入力する。	予習	テーマにあった表現方法を考える。		
				復習	iPadで入力した授業内の話し合いを確認しながら、発表内容の概要をまとめる		
	第4回	内容	テーマにあった動きを考え、グループ創作する。創作した作品を動画で撮影し、振り返りに活用する。	予習	テーマに合わせた身体表現の題材について考えてくる		
				復習	本時の活動を動画にまとめる		
	第5回	内容	音や音楽の表現の効果について理解し、グループごとに計画をする。	予習	第1回の授業を確認しておく		
				復習	本時の内容についてノートにまとめ、音楽を扱うことを理解する		
	第6回	内容	大道具、小道具などについての視覚的表現効果について理解し、グループごとに計画をする。	予習	造形物制作の道具、材料について調べ理解しておく		
				復習	発表内容に合わせた制作分担について共有しておく		
	第7回	内容	発表内容に合わせ、身体表現や音楽表現、造形表現を工夫し、全体の流れを動画や画像で記録する（ICTの活用）。	予習	発表内容の概要をふまえ、身体表現や音楽、造形表現の案を考えたり、関連する楽曲を調べたりする		
				復習	動画を確認し、身体表現や音楽表現の方法をノートにまとめ、動画を活用しながら練習する（ICTの活用）		
	第8回	内容	リハーサル（第1回）	予習	発表の内容を確認し、練習する		
復習				各自で振り返り、修正箇所を考える			
第9回	内容	リハーサル（第1回）をふまえ、表現内容の修正点などについて検討する。道具などの作成を進める。	予習	発表の修正箇所をまとめる			
			復習	検討した内容をノートにまとめる			
第10回	内容	表現の再検討をふまえ、発表内容をブラッシュアップして最終案を検討する。	予習	練習のスケジュールを考える			
			復習	本時の動画等を活用しながら練習する（ICTの活用）			
第11回	内容	リハーサル（第2回）	予習	前時までの内容を確認し、発表の進行について理解を深める			
			復習	表現内容の修正点とその理由をノートにまとめる			
第12回	内容	発表会の準備：発表会の運営について理解し、計画する。	予習	前時までの授業内容を確認し、表現内容の修正案を考える			
			復習	本時の動画等を活用しながら練習する（ICTの活用）			
第13回	内容	発表会	予習	最終案を確認し、自分の役割を覚える			
			復習	発表の振り返りをふまえ、総合的な表現の要点をノートにまとめる			
第14回	内容	振り返り：発表会を振り返り、グループディスカッションをする。	予習	前時までのノートを確認し、総合的な表現についてまとめておく			
			復習	グループ討議をふまえ、総合的な表現の意義について、ノートにまとめる			
第15回	内容	まとめ：発表作品を動画にまとめる（グループ活動）	予習	発表作品を動画にまとめる素材を考える			
			復習	各グループの動画作品を見て感想を記入する			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	学生の振り返りにコメントをする。 作品について、指導、講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法：筆記試験(%)、レポート・課題(30%)、作品・発表(30%)、実技(20%)、授業態度【積極的参加】(20%)						
教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』(塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推叡舎)						

参考文献	
補足事項	活動しやすい服装で参加してください。 人数を50名定員とします。超えた場合は、抽選などで調整をする場合があります。 塩崎（15回）、小口（15回）、長谷川（15回）

科目名	データサイエンス		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
カンパリコード	STS11101		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面 ・ <u>遠隔</u> ・ その他 ()							
授業の内容	本授業では、教科書を通してデータサイエンスの基本を学習するとともに、パソコンの表計算ソフトウェアを使用して実データ（学外事業者が公開提供している集計データなど）の数値処理業務の一端を模擬的に体験し、情報リテラシー（情報倫理や情報セキュリティなどを前提とする、業務上の判断能力）の在りかたを具体的に考察する。 この授業は各年度一年生（学科不問）向けの選択科目として開講されるが、在学生（二年生以上／学科不問）も履修することができる。							
到達目標	1. テキスト読解やデータ処理演習を通して、データが内包する様々な情報の意味を理解している。 2. パソコンを積極的に活用する作業について、その利便性や問題点を理解している。 3. 今後の社会に必要とされる基本的な数理的思考や、データの分析・活用ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 3,4,5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス：ようこそデータサイエンスへ	予習	シラバスを読み、授業全体の流れを把握する。			
				復習	教科書第1章の内容を再度精読して理解し、授業全体の学習に向けた心構えを行う。			
	第2回	内容	AIにサポートされる社会	予習	教科書第2章を通読する。			
				復習	教科書第2章の内容を再度精読し理解する。			
	第3回	内容	情報をめぐる世の中の潮流	予習	教科書第3章を通読する。			
				復習	教科書第3章の内容を再度精読し理解する。			
	第4回	内容	広がるデータ活用の幅	予習	教科書第4章を通読する。			
				復習	教科書第4章の内容を再度精読し理解する。			
	第5回	内容	AI開発の歴史といま	予習	教科書第5章を通読する。			
				復習	教科書第5章の内容を再度精読し理解する。			
	第6回	内容	情報倫理とセキュリティ	予習	教科書第6章を通読する。			
				復習	教科書第6章の内容を再度精読し理解する。			
	第7回	内容	データの種類とその活用	予習	教科書第7章を通読する。			
				復習	教科書第7章の内容を再度精読し理解する。			
	第8回	内容	データリテラシー （パソコンを用いた数値処理演習①）	予習	教科書第8章を通読する。			
				復習	教科書第8章の内容を再度精読し理解する。			
第9回	内容	データの収集と視覚化 （パソコンを用いた数値処理演習②）	予習	教科書第9章を通読する。				
			復習	教科書第9章の内容を再度精読し理解する。				
第10回	内容	データの解析方法 （パソコンを用いた数値処理演習③）	予習	教科書第10章を通読する。				
			復習	教科書第10章の内容を再度精読し理解する。				
第11回	内容	情報の利活用と方法	予習	教科書第11章を通読する。				
			復習	教科書第11章の内容を再度精読し理解する。				
第12回	内容	AIによる生活のアップデート	予習	教科書第12章を通読する。				
			復習	教科書第12章の内容を再度精読し理解する。				
第13回	内容	AIによる社会のアップデート	予習	教科書第13章を通読する。				
			復習	教科書第13章の内容を再度精読し理解する。				
第14回	内容	秩序あるデータの重要性	予習	教科書第14章を通読する。				
			復習	教科書第14章の内容を再度精読し理解する。				
第15回	内容	全体のまとめ：これからの学びに向けて	予習	教科書第15章を通読する。				
			復習	教科書第15章の内容を再度精読して理解し、情報リテラシーに関する今後の学びに備える。				
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業開講期間中、授業内容に関するリアクションペーパーを作成し提出する。 授業開講期間中、実在の集計データに対する統計処理を行い、その処理結果から得られる解釈・考察の内容をレポート化する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（75%）、授業態度【積極的参加】（25%）							
教科書	『大学基礎 データサイエンス』（伊藤 大河ほか、実教出版株式会社）							
参考文献	『やさしく学ぶ データ分析に必要な統計の教科書』（羽山 博、株式会社インプレス刊）							
補足事項	1. この授業は新入生向けの授業であるが、履修計画に余裕のある在学生も受講することができる（実習期間中の授業の開講については、別途指示する）。 2. 本授業で取り上げる数値処理演習では、Microsoft Excelの標準搭載機能を利用する。 3. 上記「授業計画」の内容は、授業の実際の進行具合などに応じて、適宜変更されることがある。 4. 担当教員の業務都合などの理由により授業の開講日時が変更される場合、教務課掲示板等にて通知する。							

科目名	SDGs 入門		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	ほしの おさむ 星野 治他
ナバリングコード	SES11101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	この授業は、所属学科を問わず、誰でも履修することができる。 SDGs (Sustainable Development Goals/日本語訳「持続可能な開発目標」)の具体的な内容の学習を通して、日本および世界の現状を知るとともに、社会の一員としての自己啓発意識を育てる。この授業では全17個ある目標のうち、特に本学の学生に必要な14個の目標について学ぶ。							
到達目標	1. SDGsの提唱意義および内容を理解している。 2. SDGsへの理解を通して、日本および世界の現状を見抜く洞察力を習得している。 3. SDGsの学習を通して、社会人としての自覚を持ち、社会への貢献に係る考察力を身に付けている。							
学位授与方針	幼児教育学科（3,4,5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	総論（授業の進め方、MDGsからSDGへ、SDGs制定の歴史的背景、MDGsとSDGsの相違、その他）[北野・星野]	予習	シラバスに目を通しておく。	復習	授業の目的を理解する。	
	第2回	内容	目標1：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる [加賀谷]	予習	SDGsの「目標1」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第3回	内容	目標2：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する [橋本]	予習	SDGsの「目標2」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第4回	内容	目標3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する [関]	予習	SDGsの「目標3」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第5回	内容	目標4：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する [伊澤]	予習	SDGsの「目標4」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第6回	内容	目標5：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る [信田]	予習	SDGsの「目標5」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第7回	内容	目標6：すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する [北野]	予習	SDGsの「目標6」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第8回	内容	目標7：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する [北野]	予習	SDGsの「目標7」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第9回	内容	目標8：すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する [信田]	予習	SDGsの「目標8」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
復習				配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第10回	内容	目標11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする [河崎]	予習	SDGsの「目標11」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第11回	内容	目標12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する [北野]	予習	SDGsの「目標12」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第12回	内容	目標13：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る [北野]	予習	SDGsの「目標13」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第13回	内容	目標14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する [中村]	予習	SDGsの「目標14」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第14回	内容	目標15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物の多様性損失の阻止を図る [中村]	予習	SDGsの「目標15」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第15回	内容	目標16：持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある法相的な制度を構築する [鈴木] 総括（全体のまとめ、その他）[北野・星野]	予習	SDGsの「目標16」について概要を把握する。	復習	これまでの全配布資料などを通して授業全体を理解するとともに、今後の履修者自身のSDGsへの貢献について考察する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎回の授業におけるアクションペーパー等の記述および提出（詳細は各回の担当教員が指示する）を通して、SDGs全般への理解を深める。							

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）
教科書	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	この授業は新入生向けの授業であるが、履修計画に余裕のある在生も受講することができる。 この授業は、複数の教員が共同担当するオムニバス形式の対面授業である。取り扱うテーマごとに、担当教員は異なる。 2024（令和6）年度開講分の担当教員[授業担当コマ数]は、次のとおりである（担当順。各教員の担当授業回は「授業計画」欄を参照）。 北野大[6]、加賀谷崇文[1]、橋本洋子[1]、関維子[1]、伊澤永修[1]、信田理奈[2]、河崎由美子[1]、中村陽一[2]、鈴木みなみ[1]、星野治[2] 教員によっては、リアクションペーパーとは別に、追加の課題を出題することがある（詳細は、各授業の担当教員の指示に従うこと）。

科目名	保育原理 I		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	こやま れいこ 小山 玲子
ナンバリングコード	EDU12101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	「保育とは何か」といった疑問から、保育の歴史・制度・保育内容などの知識を習得し、その中で保育の意義、原理、原則を理解していく。また、保育所の社会的役割、保育ニーズ、健やかな子どもの成長を育む保育について検討する。保育所実習につながるよう考える・話し合う・調べる・演じる・発表する等、受講生の能動的な取り組みを取り入れた授業を行う。							
到達目標	1. 保育の意義及び目的、保育に関わる法令や制度を理解している。 2. 保育所保育指針における保育の基本を説明できる。 3. 他者と対話を重ねながら主体的に学ぶ方法を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（1. 2. 3. 5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	保育の意味と意義	予習	シラバス及び教科書の目次を読む			
				復習	配布プリントの課題を行う			
	第2回	内容	子どもを取り巻く環境の変化とは グループ討議	予習	教科書第2章を通読する			
				復習	子どもにとっての環境を考える			
	第3回	内容	西洋の保育の歴史と思想①	予習	フレーベルについて調べる			
				復習	保育の思想と理論をまとめる			
	第4回	内容	西洋の保育の歴史と思想②	予習	モンテッソーリについて調べる			
				復習	保育の思想と理論をまとめる			
	第5回	内容	西洋の保育の歴史と思想③ 日本の保育の歴史と思想①	予習	レジオ・エミリア市の保育について調べる			
				復習	プロジェクト活動とは何かをまとめる			
	第6回	内容	日本の保育の歴史と思想② ミニテスト①(西洋の歴史)	予習	倉橋惣三について調べる			
				復習	日本の保育の歴史をまとめる			
	第7回	内容	ミニテスト②(日本の歴史) 保育環境とは	予習	第3～6回の授業の復習を行う			
				復習	ミニテストの振り返りを行う			
	第8回	内容	環境構成の意義	予習	保育所保育指針・幼稚園教育要領における環境の捉え方を調べる			
				復習	物的環境に込められた保育者の願い、人的環境としての保育者、環境構成をまとめる			
第9回	内容	保育における「子ども理解」	予習	保育指針における発達の捉え方を理解する				
			復習	子どもの発達と関わり方を理解する				
第10回	内容	保育の内容、保育の方法・形態	予習	保育内容・方法・形態について調べる				
			復習	配布プリントを読み直し復習をする				
第11回	内容	保育園における二つの子育て支援	予習	子ども・子育て支援制度について調べる				
			復習	配布プリントに要点をまとめる				
第12回	内容	保育の現状と課題 グループワーク	予習	保育の現状と課題について調べる				
			復習	グループワークのまとめを行う				
第13回	内容	保育者の専門性	予習	教科書第13章保育者の専門性を通読する				
			復習	保育者の専門性を理解する				
第14回	内容	諸外国の保育の現状と課題 グループワーク	予習	興味のある国の保育について調べる				
			復習	諸外国の保育の現状と課題をまとめる				
第15回	内容	保育原理での学びを振り返る 確認テスト	予習	全配布プリントをまとめ、読み込む				
			復習	第1～15回の授業で学んだことを整理する				
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験…ミニテスト・確認テスト（50%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（30%）							
教科書	『最新 保育原理』（上中修編著、教育情報出版） 『保育所保育指針』（厚生労働省、フレーベル館）							
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省、フレーベル館）							
補足事項	保育園勤務保育士・園長によるゲスト講義を行う。（予定）							

科目名	保育原理Ⅱ		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	こやま れいこ 小山 玲子
ナンバリングコード	EDU12102		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他()							
授業の内容	保育所保育指針や子ども子育て支援新制度等の成立過程や実際の運営状況を通じて、保育の原理や制度、現在の課題を深く理解する。保育の質の向上、保育者の専門性を高める意義を学び、実践につながるようグループ討議・グループワークを行う等、受講生の能動的な取り組みを取り入れた授業を行う。保育学の論文を読むことで、保育の理論や研究方法を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針や子ども子育て支援制度の背景と課題を説明できる。 2. 保育学の論文の読み方や作り方を理解している。 3. 保育の現状と課題について説明できる。 							
学位授与方針	幼児教育学科(1・2・3・4・5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション グループ討議 保育で大切なこととは何かを考える	予習	シラバス及び教科書の目次を読む			
				復習	保育原理Ⅱを学ぶ理由を配布プリントに記入			
	第2回	内容	保育園と幼稚園の違い 保育環境と保育方法	予習	テキスト第5・6章の通読			
				復習	配布プリントの課題を行う			
	第3回	内容	絵本・紙芝居の活用	予習	授業で紹介する絵本・紙芝居を選び読み練習を行う			
				復習	配布プリントにまとめを記入する			
	第4回	内容	保育の現状と課題① 調査学習	予習	自分の発表テーマを考える			
				復習	パワーポイント作成			
	第5回	内容	保育の現状と課題② 調査学習 グループワーク	予習	パワーポイント作成			
				復習	パワーポイント発表の準備を行う			
	第6回	内容	保育の現状と課題③ 発表 グループワーク	予習	パワーポイント発表の準備を行う			
				復習	保育原理Ⅱで学んだことをまとめる			
	第7回	内容	安全に関する配慮①	予習	子どもの安全等について調べる			
				復習	配布プリントの課題を行う			
	第8回	内容	安全に関する配慮② グループワーク	予習	子どもの安全等について調べる			
				復習	配布プリントの課題を行う			
	第9回	内容	子ども・子育て支援制度、保育所保育指針の概要①	予習	保育所保育指針の第1・4章の通読			
				復習	保育所保育の特徴と子育て支援をまとめる			
	第10回	内容	保護者対応・連絡帳	予習	テキスト第2章・第9章3節の通読			
				復習	配布プリントの課題を行う			
	第11回	内容	食育・アレルギー対応、他職種との連携 保育所保育指針の概要②	予習	保育所保育指針の第3章の通読			
				復習	配布プリントの課題を行う			
	第12回	内容	子どもの主体性を大切に保育	予習	保育所保育指針の第2章の通読			
				復習	配布プリントにまとめを記入する			
	第13回	内容	クラス便りの概要・活用方法・作成	予習	保育所で活用している事例を調べる			
				復習	クラス便りを作成する			
	第14回	内容	クラス便りの発表 グループワーク	予習	クラス便りの作成・発表準備			
				復習	クラス便りの完成(次回の授業提出)			
	第15回	内容	保育の専門性と質の向上 確認テスト	予習	保育指針第7章、配布プリントの通読			
				復習	保育の質の向上に向けた取組についてまとめる			
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/()しない 成績評価の方法：レポート・課題(40%)、作品・発表(30%)、授業態度【積極的参加】(30%)							
教科書	『最新 保育原理』(上中修編著、教育情報出版) 『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)							
参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)							
補足事項	保育学をより深く学びたい学生を対象とする。 外部講師(おもちゃアドバイザー・保育者)のゲスト講演を行う。(予定)							

科目名	教育原理	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	まつき ひさこ 松木 久子
ナンバリングコード	EDU12103	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	なぜ人間にとって教育が必要なのかという問題を中心として、教育を受けることや学校に通えるということを当たり前のことと考えずに、改めて教育や学校について考えるための基礎的な課題を提供します。また、就学前教育が成立してきた歴史を振り返りながら、今後の将来的な展望や自分なりの教育観や保育観を形成していくために必要と思われる事柄についても提供していきます。						
到達目標	1. なぜそもそも人間にとって教育が必要なのか、が理解でき説明できる。 2. 教育や学校の可能性や限界について理解でき説明できる。 3. 自分なりの教育観や保育観について、説明することができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・3・4 ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項について	予習	教育や学校について自分の考えをまとめておく	復習	必要事項について説明できる
	第2回	内容	教育原理を学ぶこととは	予習	教科書の指定箇所を熟読しておく	復習	理解したことについてまとめる
	第3回	内容	生涯教育と生涯学習について	予習	教科書の該当箇所を読んでまとめる	復習	さらに自分で詳しく調べてみる
	第4回	内容	教育の可能性と限界について	予習	教科書の指定箇所を熟読しておく	復習	理解したことについてまとめる
	第5回	内容	教育の語義と意義	予習	教科書の該当箇所をよく読んでまとめておく	復習	自分で興味をもったことをさらに調べる
	第6回	内容	学校の誕生とその歩み	予習	自分の学校体験についてまとめておく	復習	理想の学校のあり方について考えまとめる
	第7回	内容	世界の子どもたちの環境を知る（1）	予習	該当する国々の特徴を調べまとめておく	復習	理解したことを詳しくまとめる
	第8回	内容	世界の子どもたちの環境を知る（2）	予習	該当する国々の文化的背景について調べておく	復習	さらに興味をもったことについてまとめておく
	第9回	内容	近代学校の成立とその性格	予習	近代という時代について調べまとめておく	復習	義務教育の意義についてまとめる
	第10回	内容	戦争と教育について考える（1）	予習	第二次世界大戦について調べまとめておく	復習	新たに理解したことについてまとめる
	第11回	内容	戦争と教育について考える（2）	予習	戦争に翻弄される人間についてまとめておく	復習	理解したことについてさらに調べまとめる
	第12回	内容	世界や日本の教育思想について知る	予習	教育思想について調べてまとめておく	復習	自分の興味のある教育思想家について調べる
	第13回	内容	世界や日本の教育制度について考える	予習	日本の教育制度について調べてまとめておく	復習	世界と日本の教育制度についてまとめる
	第14回	内容	幼児教育制度の成立と発展について学ぶ	予習	幼稚園や保育所の歴史について調べておく	復習	理解したことをまとめておく
	第15回	内容	まとめ	予習	教育や学校について全体を通してまとめる	復習	さらに興味のあることについて調べまとめる
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	数回にわたって小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施し、学生の理解度を把握する						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ 50 %）、レポート・課題（ 30 %）、授業態度【発言などの頻度等】（ 20 %）						
教科書	『教育原理』（林邦雄・谷田貝公昭〔監修〕、大沢裕〔編著〕、一藝社）						
参考文献	必要に応じて授業中に適宜、紹介していきます。						
補足事項	自分で主体的に課題を発見し、いろいろなことについて調べ、日頃から手書きで文章を書くことに慣れていってほしいと思います。						

科目名	子ども家庭福祉		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	しのはら あみ 志濃原 亜美
ナンバリングコード	SWS12101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子ども家庭福祉の歴史の変遷と現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、子どもと家庭に関する福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障がいのある児童の対応などをはじめとする子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、特に子ども家庭福祉と保育の関連性や子どもの権利擁護などについて理解を深める。							
到達目標	1. 子どもや家庭に関する法や施設など基本的なことが理解できる。 2. 子どもをとりまく問題についての理解を深めたうえで、それらの早期発見の方法や解決への道筋を知ることができる。 3. 子どもの権利擁護について理解できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2.5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく	復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する	
	第2回	内容	子ども家庭福祉に関する法律①（児童福祉法の概要）	予習	児童福祉法のプリントの穴埋めを完成させる	復習	児童福祉法についてのおおまかな理解をする。	
	第3回	内容	子ども家庭福祉に関する法律②（児童福祉法の具体的な内容）	予習	児童福祉法のプリントの穴埋めを完成させる	復習	児童福祉法の具体的な内容を理解する	
	第4回	内容	子どもに関する権利思想の流れ	予習	子どもの権利についてのプリントの穴埋めを完成させる	復習	子どもの権利思想の流れを理解する	
	第5回	内容	子ども家庭福祉の歴史①（明治期）	予習	子ども家庭福祉の歴史のプリントの穴埋めを完成させる	復習	明治期における子ども家庭福祉の歴史を理解する	
	第6回	内容	子ども家庭福祉の歴史②（明治期から戦前）	予習	子ども家庭福祉の歴史のプリントの穴埋めを完成させる	復習	明治期から戦前にかけての子ども家庭福祉の歴史を理解する	
	第7回	内容	VTR（澤田美喜物語・・・福祉施設創設者の物語） 課題感想文	予習	今まで習った子ども家庭福祉に関する法や歴史を概観する	復習	課題：感想文を書く	
	第8回	内容	福祉専門職としての保育士	予習	福祉専門職としての保育士のプリントの穴埋めを完成させる	復習	児童福祉法等に明記されている保育士について理解する	
	第9回	内容	児童福祉施設及び里親の概要①（施設の種類）	予習	児童福祉施設のプリントの穴埋めを完成させる	復習	児童福祉施設の種類を覚える	
	第10回	内容	児童福祉施設及び里親の概要②（施設の目的）	予習	児童福祉施設のプリントの穴埋めを完成させる	復習	児童福祉施設や里親の目的を理解する	
	第11回	内容	子ども家庭福祉の行政機関（児童相談所を中心に）	予習	児童相談所の業務や相談内容についての穴埋めプリントを完成させる	復習	児童相談所の業務や相談内容について理解する	
	第12回	内容	児童虐待①（児童虐待の種類、法制度）	予習	児童虐待の種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる	復習	児童虐待の種類や法制度を理解する	
	第13回	内容	児童虐待②（児童虐待の実際）	予習	児童虐待の実際についての穴埋めプリントを完成させる	復習	児童虐待の実際についてまとめる	
	第14回	内容	小テスト、VTR（子どもの貧困）	予習	小テストに向けての学習	復習	小テストで出題された個所の確認	
	第15回	内容	小テスト返却、解説、まとめ	予習	VTRの感想文を書く	復習	子ども家庭福祉とはなにかをまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（55%）、レポート・課題（35%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（10%）							

教科書	『新 保育ライブラリ 子ども家庭福祉』（植木信一編著、北大路書房） 『福祉・保育小六法 2024 年版』（みらい）
参考文献	
補足事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して子ども家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと

科目名	社会福祉		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	しのはら あみ 志濃原 亜美
ナバリンコード	SWS12102		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	この授業では、福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を習得することをねらいとする。子どもの福祉のみならず、現代社会のニーズに即したあらゆる人々のウェルビーイング（福祉）をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野で社会福祉について学ぶ。							
到達目標	1. 保育と社会福祉の関係を理解している。 2. わが国の社会福祉の制度を理解している。 3. 現代の社会問題を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する			
	第2回	内容	保育と社会福祉（私たちが暮らす社会と保育をめぐる社会問題）	予習	社会問題、社会構造のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会問題、社会構造について理解をする。			
	第3回	内容	社会福祉の概念①（社会福祉の意味、定義）	予習	社会福祉の意味、定義のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会福祉意味や定義を理解する			
	第4回	内容	社会福祉の概念②（社会福祉の理念、社会福祉の構造等）	予習	社会福祉の理念、構造のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会福祉の理念等についての理解を深める			
	第5回	内容	社会保障の概念と体系（我が国における社会保障の概念）	予習	社会保障のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会保障の概念をしっかりと理解する			
	第6回	内容	社会保険①（社会保険制度の概要）	予習	社会保険制度のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会保険制度についての全体像を理解する			
	第7回	内容	社会保険②（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）	予習	社会保険のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	具体的な社会保険の種類や性格を理解する			
	第8回	内容	公的扶助①（公的扶助の概要、公的扶助と社会保険の違い）	予習	公的扶助のプリントの穴埋めを完成させる			
復習				公的扶助の概要の理解及び前回の社会保険との違いを明確にする				
第9回	内容	公的扶助②（生活保護の原理と原則、保護施設、その他の低所得者施策）	予習	公的扶助のプリントの穴埋めを完成させる				
			復習	公的扶助について具体的に理解する				
第10回	内容	高齢者福祉	予習	高齢者福祉のプリントの穴埋めを完成させる 中間レポート提出準備				
			復習	高齢者福祉施策を理解する				
第11回	内容	障がい者福祉	予習	障がい者福祉のプリントの穴埋めを完成させる				
			復習	障がい者福祉施策を理解する				
第12回	内容	相談援助の意味と方法①（保育士に求められるソーシャルワーク、ソーシャルワークの意味と原則、）	予習	相談の意味と方法についての穴埋めプリントを完成させる				
			復習	相談援助を理解する				
第13回	内容	相談援助の意味と方法②（ソーシャルワークの視点、ソーシャルワークに貢献した人）	予習	ソーシャルワークに関する穴埋めプリントを完成させる				
			復習	ソーシャルワークについて理解する				
第14回	内容	小テスト、VTR（諸外国の福祉）、感想文	予習	小テストに向けての学習				
			復習	小テストで出題された個所の確認				
第15回	内容	小テスト返却、まとめ	予習	VTRの感想文を書く				
			復習	社会福祉とはなにかをまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	小テストの返却と解説、レポートの返却を行います							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（55%）、レポート・課題（35%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書	『みらい×子ども福祉ボックス 社会福祉』（志濃原亜美編著、みらい） 『福祉・保育小六法2024年』（株）みらい							

参考文献	
補足事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して福祉の問題や課題について関心をもつこと。教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと

科目名	子ども家庭支援論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	せき ゆいこ 関 維子
ナバリングコード	SWS12201		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	近年、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、子育て家庭の課題やニーズも多様になっている。保育者には子どもの育ちと家庭における子育てを支える幅広い役割と実践力が求められている。この授業では、子どもと家庭、地域の3つの視点から子ども家庭支援の意義と役割について理解し、保育の専門性を活かした支援の方法や支援体制について具体的に学ぶ。							
到達目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義と目的について説明できる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本について理解している。 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	授業ガイダンス 子ども家庭支援の意義と目的	予習	シラバスを読む	復習	子ども家庭支援の意義と目的についてまとめる	
	第2回	内容	子ども家庭支援の内容と対象	予習	「保育所保育指針」第1章を読む	復習	子ども家庭支援の基本理念についてまとめる	
	第3回	内容	保育の専門性を生かした子ども家庭支援	予習	「保育所保育指針解説」第4章を読む	復習	子育て支援の保育の専門性についてまとめる	
	第4回	内容	子どもの育ちの喜びの共有	予習	エリクソン、ヴィゴツキーについて調べる	復習	保護者の気づきを促すポイントをまとめる	
	第5回	内容	子育てを自ら実践する力の向上を図る支援	予習	「保育所保育指針解説」第4章を読む	復習	ストレングスマデルについてまとめる	
	第6回	内容	保育士に求められる基本的態度① 保護者との相互理解	予習	バイステックの7原則について調べる	復習	基本的態度について自分の考えをまとめる	
	第7回	内容	保育士に求められる基本的態度② 信頼関係の構築、専門職倫理	予習	保育士倫理綱領を読む	復習	専門職倫理についての考えをまとめる	
	第8回	内容	家庭の状況に応じた支援	予習	「保育所保育指針解説」第4章2（2）を読む	復習	家庭の状況に応じた配慮についてまとめる	
	第9回	内容	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携	予習	子育てに関する地域資源について調べる	復習	関係機関との連携についてまとめる	
	第10回	内容	子育て家庭の福祉にかかわる社会資源	予習	子育て支援に関する社会資源を調べる	復習	社会資源の分類についてまとめる	
	第11回	内容	子育て支援施策・次世代育成支援対策の推進	予習	認定こども園の種類について調べる	復習	地域子ども・子育て支援事業についてまとめる	
	第12回	内容	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	予習	保育を必要とする状況について考える	復習	保育を必要とする事由についてまとめる	
	第13回	内容	地域の子育て家庭への支援	予習	地域子育て支援拠点事業について調べる	復習	子育てしやすい地域づくりについてまとめる	
	第14回	内容	要保護児童およびその家庭への支援	予習	「保育所保育指針」第4章2（3）を読む	復習	要保護児童・要支援児童・特定妊婦についてまとめる	
	第15回	内容	子ども家庭支援の現状と課題 授業の振り返りとまとめ	予習	教科書や配布資料、ノートを読み返す	復習	授業で学んだことを振り返りまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テストについてはClassroomを用いてフィードバックを行う。 課題等については授業でフィードバック及び講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：小テスト（20%）、レポート・課題（60%）、授業態度【積極的参加】（20%）							
教科書	『子ども家庭支援論 演習ブック』（松本峰雄監修，ミネルヴァ書房）							
参考文献	『保育所保育指針』（厚生労働省）『保育所保育指針解説』（厚生労働省） 『ひと目でわかる保育者のための子ども家庭福祉データブック 2024』（全国保育士養成協議会，中央法規）							
補足事項	教科書は後期の「子育て支援」の授業でも使用する。							

科目名	子ども家庭支援論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員 まんどろ あきお 萬燈 章雄
ナバリンコード*	SWS12201		授業形態	講義	実務経験		
授業方式	対面・ 遠隔 ・その他()						
授業の内容	かつては支援する側(社会資源)だった「家庭」だが、現在は脆弱化した家庭・家族を包括して子どもを支援していくという考え方に変化してきた。その家庭観の変遷や支援のあり方について学習する。特に子どもにとって最も身近な存在である保育士としては、適切に養育される権利を有する子どもの目線で家庭を考えていく必要がある。後半では具体的に事例を交えて家庭へのアプローチを考察していきたい。						
到達目標	1. これまでの社会状況と家庭支援のあり方の変遷について理解している。 2. 地域における関係機関の役割を含め、家庭を支援するプロセスや様々な手段、方法について理解している。 3. 「子どもの最善の利益」とは何かを知り、支援者がどのようなスタンスで望めばよいのかを習得している。						
学位授与方針	幼児教育学科(2・3) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 考えてみよう! 家族のカタチ	予習	シラバスを読んでくること		
				復習	家庭の定義についてまとめてみる		
	第2回	内容	地域社会の変容と家庭支援について 家庭機能の弱まりと家庭支援の必要性	予習	日本の高度成長期について調べる		
				復習	「家庭機能」の変遷についてまとめてみる		
	第3回	内容	少子高齢化のもたらす影響について	予習	「失われた20年」について調べてみる		
				復習	少子化のもたらす問題についてまとめる		
	第4回	内容	次世代育成支援施策の経緯 現在の子ども子育て支援策概要	予習	地域が行う育児相談資源について調べる		
				復習	子育て支援策の変遷についてまとめる		
	第5回	内容	地域の子ども子育て支援策① 保育園と幼稚園・認定こども園など	予習	「待機児童」について調べてみる		
				復習	保育の変遷についてまとめてみる		
	第6回	内容	児童虐待問題と家庭支援 認識のない保護者とSOSの出せない子ども	予習	最近の虐待事件について調べてみる		
				復習	虐待相談の構造についてまとめる		
	第7回	内容	地域の子ども子育て支援策② 要保護児童等と家庭支援	予習	地域での虐待対応策について調べてみる		
				復習	子ども子育て支援メニューをまとめてみる		
	第8回	内容	子ども家庭支援の変遷と現在の子ども子育て支援策概要 中間まとめ 理解度チェック小テスト	予習	これまでの授業内容について見直してみる		
				復習	地域子育て支援事業についてまとめてみる		
第9回	内容	地域の子ども子育て支援策③と保育所と家庭支援① 保育所入所家庭への支援	予習	保育所運営指針を調べる			
			復習	保育所の機能についてまとめる			
第10回	内容	保育所と家庭支援② 保育所での地域の家庭支援	予習	子ども家庭支援センターについて調べる			
			復習	地域での保育所の役割についてまとめてみる			
第11回	内容	相談援助の知識と技術(OL) 家庭支援を実践していくための専門技術概要	予習	相談の対処方法について考えてみる			
			復習	相談のアプローチ方法についてまとめる			
第12回	内容	子どもの権利擁護と家庭支援 子ども主権と家庭支援者のスタンスについて	予習	子どもの権利条約について調べる			
			復習	子ども家庭支援のあり方についてまとめる			
第13回	内容	誰のための家庭支援か 保護者対応と虐待について	予習	虐待について今一度復習する			
			復習	子ども目線での対応についてまとめる			
第14回	内容	不適切養育と地域サービスの事例 地域における家族支援の実例	予習	養育支援訪問事業について調べる			
			復習	機関連携についてまとめる			
第15回	内容	今後の家庭支援のあり方について 最終まとめ 理解度チェック小テスト	予習	これまでの内容を今一度振り返る			
			復習	今後の家庭支援のあり方についてまとめる			
	予習に要する学習時間: 概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間: 概ね120分を目安とする。						
課題へのフィードバック	レポート提出と理解度チェック小テストを実施します。レポートは個々にコメントをつけて返却します。 積極的な授業への参加を評価します。						
成績評価	試験期間における定期試験: 実施()する/ (○)しない 成績評価の方法: 筆記試験(%)、レポート・課題(70%)、作品・発表(%)、実技(%)、授業態度【積極性等】(30%)						
教科書	なし						
参考文献	子ども家庭支援論(太田光洋 編著 同文書院 2022.11.15) 他、適宜必要に応じて紹介します。						
補足事項	受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本、プリント資料配布で授業をすすめます。						

科目名	社会的養護 I		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	しのはら あみ 志濃原 亜美
ナバリンクコード	SWS12103		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	社会福祉、児童家庭福祉の中の社会的養護の位置を理解し、特に施設における日常生活援助、施設における専門職について学びを深める。また、施設保育士の専門性と特別な配慮を要する子どもや家庭への援助について学び、さらに施設の中で行われるリビングケア、アフターケアなどの現状についても学習する。							
到達目標	1. 施設養護の体系や援助過程について理解できる 2. レジデンシャル・ソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもへの援助や保護者への相談の在り方など理解できる 3. 子どもの権利擁護について理解し、実践で役立てることができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する			
	第2回	内容	社会的養護の理念と意義	予習	社会的養護の理念のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会的養護の理念や意義についてのおおまかな理解をする。			
	第3回	内容	子どもの権利と社会的養護	予習	子どもの権利のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	子どもの権利の具体的な内容を理解する			
	第4回	内容	保育士の倫理・責務	予習	倫理・責務についてのプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	保育士の職務上の意倫理や責務について理解する			
	第5回	内容	社会的養護の制度と実施体系①（施設養護の制度）	予習	社会的養護の制度のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	施設養護の制度を理解する			
	第6回	内容	社会的養護の制度と実施体系②（移設養護の実施体系）	予習	社会的養護の実施体系のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会的養護の実施体系を理解する			
	第7回	内容	VTR（ぶどうの木・・・里親に関する内容）課題感想文	予習	今まで習った社会的養護の学びを概観する			
				復習	課題：感想文を書く			
	第8回	内容	施設養護にかかわる専門職士	予習	施設養護の専門職のプリントの穴埋めを完成させる			
復習				施設養護の専門職について理解する				
第9回	内容	施設養護の実際①（アドミッションケアとインケア）	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる				
			復習	それぞれの用語について理解を深める				
第10回	内容	施設養護の実際②（リビングケアとアフターインケア）	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる				
			復習	それぞれの用語について理解を深める				
第11回	内容	子育て困難家庭の実際と支援	予習	子育て困難家庭と支援についての穴埋めプリントを完成させる				
			復習	子育て困難家庭について知り、その支援を理解する				
第12回	内容	DV ケースと児童虐待へのソーシャルワークについて視点①（DV ケース）	予習	DV の種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる				
			復習	DV の種類や法制度を理解する				
第13回	内容	DV ケースと児童虐待へのソーシャルワークについて視点①（児童虐待ケース）	予習	児童虐待ケースについての穴埋めプリントを完成させる				
			復習	児童虐待へのソーシャルワークについてまとめる				
第14回	内容	小テスト、VTR（施設に関するもの）	予習	小テストに向けての学習				
			復習	小テストで出題された個所の確認				
第15回	内容	小テスト返却、解説、まとめ	予習	VTR の感想文を書く				
			復習	社会的養護の枠組みをまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（55%）、レポート・課題（35%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（10 %）							

教科書	『よりそい支える社会的養護Ⅰ』（監修中山正雄/編著浦雅夫、教育情報出版）
参考文献	適宜紹介する
注意事項	特別なケアを要する子どもについての書籍等を積極的に読むこと レポート課題があります。

科目名	社会的養護Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しのはら あみ 志濃原 亜美
ナンバリングコード	SWS12202		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。 さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。							
到達目標	1. 今まで学んできた社会福祉関連の知識や施設実習で学んだ施設の実態などを話し合いや発表等の方法で表現できる。 2. 自ら考え、発表し、問題意識を持つことで、社会的養護に関わる人や施設利用者について総合的に考える力を身につけている。 3. 施設養護の体系や援助過程について説明できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 2, 3, 5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスの確認			
				復習	講義概要を理解する			
	第2回	内容	施設実習を振り返って	予習	施設実習の振り返りをする			
				復習	実習と授業を結びつける			
	第3回	内容	障がいを持つ人の生活実態（VTR）	予習	各種別の施設についての復習をする			
				復習	感想文を書く			
	第4回	内容	障がいを持つ人の生活実態のビデオな内容についてグループ討議	予習	感想文を振り返る			
				復習	グループ討議を振り返る			
	第5回	内容	グループ決め、およびディスカッション	予習	施設の種別を振り返る			
				復習	ディスカッションの内容をまとめる			
	第6回	内容	テーマ設定	予習	テーマ設定の材料の準備をする			
				復習	テーマの吟味をする			
	第7回	内容	グループレポート作成	予習	レポートの下書きをする			
				復習	レポートの清書をする			
	第8回	内容	グループ活動①（調査）	予習	テーマに応じた調査を開始する			
復習				テーマに応じた調査を継続する				
第9回	内容	グループ活動②（調査・制作）	予習	テーマに応じた調査の継続と制作の準備をする				
			復習	制作の準備をする				
第10回	内容	中間報告	予習	中間報告の準備をする				
			復習	中間報告を踏まえた最終制作に取り掛かる				
第11回	内容	グループ発表③（制作）	予習	制作の準備を進める				
			復習	最終確認				
第12回	内容	発表レジメ提出	予習	発表レジメの下書きをする				
			復習	発表レジメの清書をする				
第13回	内容	発表準備、確認、動画作成	予習	発表準備、及び動画の作成準備をする				
			復習	最終確認をする				
第14回	内容	グループ発表①	予習	発表準備をする				
			復習	まとめをする				
第15回	内容	グループ発表②、まとめ	予習	発表準備をする				
			復習	まとめをする				
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	提出物の返却、発表の講評などによるフィードバックを行う							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（50%）、授業態度（積極的参加）（20%）							
教科書	『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』（谷口純世他編、光生館）							
参考文献	『保育福祉小六法2023年版』（保育福祉小六法編集委員会著、みらい）							
注意事項	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。							

科目名	社会的養護Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	まんどろ あきお 萬燈 章雄
ナンバリングコード	SWS12202		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。							
到達目標	1. アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを理解している。 2. 様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 3. より困難な場面でも、社会的養護に携わる保育士の職務と倫理に従い行動できることを身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション～ 演習1 ある施設に就職した友人の愚痴			予習	シラバスに目を通しておくこと	
			復習	事例検討の方法についてまとめる				
	第2回	内容	演習2 障害児と母親の気持ち 「障害受容」についての考察			予習	障害児者施設体系について調べる	
			復習	障害受容についてまとめる				
	第3回	内容	演習3 障害児の処遇事例（学校・学童） 本人のこだわりと周囲のストレス。折り合いの付け方など			予習	障害者の権利条約について調べる	
			復習	障害児の自立支援についてまとめる				
	第4回	内容	演習4 ジェノグラムとエコマップ			予習	家族図について調べる	
			復習	ジェノグラムとエコマップについてまとめる				
	第5回	内容	講義 「アタッチメント」について考える			予習	ジョン・ボウルビイについて調べる	
			復習	愛着の形成についてまとめる				
	第6回	内容	演習5 被虐待児への支援について（保育所・幼稚園） 虐待の発見と対応			予習	虐待のサインについて調べる	
			復習	愛着障害についてまとめる				
	第7回	内容	演習6 乳児院の生活と措置変更（乳児院） 乳児院での処遇において大切なものは			予習	社会的養護に必要な施設について調べる	
			復習	「措置変更」についてまとめる				
	第8回	内容	講義 ケースワークと専門技術			予習	ケースワークについて調べる	
			復習	ソーシャルワークの体系についてまとめる				
第9回	内容	演習7 日常生活支援（児童養護施設） 入所支援。アドミッションケアについて			予習	「親子分離」について調べる		
		復習	施設入所時の子ども支援についてまとめる					
第10回	内容	演習8 日常生活支援（児童養護施設） インケアについて（ルールと日課）			予習	様々な施設の日課について調べてみる		
		復習	ルールと日課のあり方についてまとめてみる					
第11回	内容	演習9 日常生活支援（児童養護施設） 愛着に課題のある子の処遇について			予習	養護施設の入所事由について調べてみる		
		復習	処遇困難に子への対処方法についてまとめる					
第12回	内容	ビデオ学習 施設からの自立支援について			予習	リビングケアについて調べる		
		復習	スタッフの支援内容について振り返る					
第13回	内容	演習10 自立支援計画について（児童養護施設）Ⅰ 事例の情報を整理する			予習	情報の共有について調べる		
		復習	事例についてアセスメントしてみる					
第14回	内容	演習10 自立支援計画について（児童養護施設）Ⅱ 自立支援計画を作成する			予習	ケース事例について、課題を整理してみる		
		復習	自立支援計画についてまとめてみる					
第15回	内容	講義 まとめ 子どもの目線で対応することとは 子どもの権利擁護について			予習	子どもの権利条約について調べる		
		復習	子どもの権利擁護についてまとめてみる					
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	原則、毎回事例ごとに全員課題についての意見など記載してレポートとして提出。簡単ですがコメントと評価をつけてできるだけ返却していくつもりでいます。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（50%）、作品・発表（20%）、実技（ %）、授業態度【積極性】（30%）							
教科書	なし							
参考文献	「社会的養護Ⅱ」 相澤 仁・村井美紀・大竹 智編 中央法規 その他授業中に紹介します。							
補足事項	基本事例も含めプリント資料配布で授業を進めます。この授業は考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。なお、回答の正誤についてあまり問いません。							

科目名	保育者論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	まつき ひさこ 松木 久子
ナバリンクコード	EDU12104		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	保育者を目指すことで最も大切なことであり、大変なことと思われる実習に向けて、実践的な事柄から学び、自分なりの保育観や実習に対する心構えや目標をもつことができるように指導していきます。また、実習における実習日誌への記載に慣れる意味で、手書きで文章を書けるように練習できる内容を提供していきます。							
到達目標	1. 実習のあり方について理解している 2. 保育者としての基本的な態度を身に付ける必要性について説明できる 3. 実習において、何を学ぶべきかが理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・3・4 ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項の説明	予習	保育者になるという意味を考えまとめておく			
				復習	必要事項について理解したことをまとめる			
	第2回	内容	幼稚園教育実習について	予習	幼稚園についてまとめておく			
				復習	教育実習についての意義についてまとめる			
	第3回	内容	幼稚園と保育所（園）の違いについて考える	予習	就学前教育について調べまとめておく			
				復習	違いや同じことについて詳しくまとめる			
	第4回	内容	幼稚園教諭の仕事と役割について考える	予習	教育・指導するということについてまとめる			
				復習	理解したことを詳しくまとめておく			
	第5回	内容	保育士の仕事と役割について考える	予習	保育するという意味についてまとめておく			
				復習	理解したことを詳しくまとめる			
	第6回	内容	3歳児の特徴について知る	予習	3歳児について調べまとめておく			
				復習	理解したことをさらに調べまとめる			
	第7回	内容	4歳児の特徴について知る	予習	4歳児について調べまとめておく			
				復習	理解したことをさらに調べまとめる			
	第8回	内容	5歳児の特徴について知る	予習	5歳児について調べまとめておく			
				復習	理解したことをさらに調べまとめる			
第9回	内容	保育の安全と事故防止について学ぶ	予習	安全や事故防止について調べまとめておく				
			復習	理解したことをまとめる				
第10回	内容	実習について必要となるマナー等を学ぶ	予習	教科書の該当箇所を熟読しておく				
			復習	自分が考える実習について具体的にまとめる				
第11回	内容	「教師」という言葉について考える	予習	先生や教師等の言葉について調べまとめておく				
			復習	理解したことをまとめる				
第12回	内容	日本の教職の特徴について考える	予習	日本の教師について調べまとめておく				
			復習	理解したことをさらに調べまとめる				
第13回	内容	しつけをめぐる問題について考える	予習	「しつけ」について調べまとめておく				
			復習	理解したことをさらに調べまとめる				
第14回	内容	自分の実習について考える	予習	実習園について調べまとめておく				
			復習	実習について振り返りまとめる				
第15回	内容	まとめ	予習	自分なりの保育観についてまとめておく				
			復習	興味をもったことについてさらに調べまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	数回にわたり小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施し、学生の理解度を把握していく							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ 50 %）、レポート・課題（ 30 %）、授業態度【発言の頻度等】（ 20 %）							
教科書	『これだけは身につけたい 小学校教員の常識 67』（村越晃 [編]、一藝社）							
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介していきます。							
補足事項	実習に対する意識をしっかりともち、園の協力の下で実習が実現できることをきちんと理解してほしいと思います。							

科目名	保育の心理学		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	おおくま みかこ 大熊 美佳子
ナンバリングコード	EDP12101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの心身の発達について、代表的な理論を踏まえ、発達概念を理解し、具体的な発達や学習の過程に関する基礎知識を習得し、教育や保育、子育て支援に生かしていけるように、学びを深めていくことを目的とします。							
到達目標	1. 保育に関わる心理学の基本用語を正確に理解している 2. 子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている 3. 子どもの主体的な活動を支えるための基礎となる考え方を理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1,3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	子どもの発達の理解	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	子どもの発達の理解についてまとめる			
	第2回	内容	子どもの発達と環境	予習	遺伝と環境の影響について考えてくる			
				復習	発達に関わる遺伝と環境の考え方をまとめる			
	第3回	内容	発達観・子ども観と保育観	予習	自分自身の子ども観、保育観をまとめてくる			
				復習	発達に関する考え方の変遷をまとめる			
	第4回	内容	身体的機能と運動機能の発達	予習	乳幼児の身体・運動機能の発達について調べてくる			
				復習	乳幼児の身体・運動機能の発達について学んだことをまとめる			
	第5回	内容	社会情動的発達① (感情・情動の発達)	予習	感情・情動の発達について調べる			
				復習	感情・情動の発達を年齢ごとに整理する			
	第6回	内容	社会情動的発達② (アタッチメント理論)	予習	ボウルヴィのアタッチメント理論について調べてくる			
				復習	アタッチメント理論について整理する			
	第7回	内容	社会情動的発達② (他者理解の発達)	予習	乳幼児の他者理解について調べてくる			
				復習	人間関係の発達を年齢ごとに整理する			
	第8回	内容	パーソナリティの発達	予習	フロイトの理論について調べてくる			
				復習	フロイトの理論を年齢ごとに整理する			
第9回	内容	認知発達① (ピアジェの認知発達理論)	予習	ピアジェについて調べてくる				
			復習	ピアジェの認知発達理論を整理する				
第10回	内容	認知発達② (言葉の発達とヴィゴツキーの認知発達理論)	予習	言葉の発達について調べてくる				
			復習	ヴィゴツキーの認知発達理論を整理する				
第11回	内容	学習理論① (学習とは何か)	予習	学習の意味について調べてくる				
			復習	学習・条件づけについてまとめる				
第12回	内容	学習理論② (社会的学習理論について)	予習	社会的学習理論について調べる				
			復習	現場への応用の仕方について考える				
第13回	内容	子どものやる気① (動機づけ理論について)	予習	子どものやる気について考える				
			復習	動機づけ理論についてまとめる				
第14回	内容	子どものやる気② (褒めること・叱ること)	予習	子どもの褒め方・叱り方について考える				
			復習	よりよい褒め方・叱り方をまとめる				
第15回	内容	子どもの個性を理解する	予習	個性とは何かを考える				
			復習	保育現場に必要な心理学的視点をまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内で小テストを実施し、テスト後、解説を行います。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（70%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書	なし							
参考文献	講義の中で適宜紹介します							
補足事項								

科目名	子ども家庭支援の心理学	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナバリングコード	EDP12102	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	生涯発達心理学をベースにして、保育士が必要とする人間の各成長段階における発達課題や発達障害、社会状況に基づく家庭支援の在り方などを学んでいく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題について理解している。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している。 						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	発達心理学の概要をつかむ	予習	教科書の相当箇所を事前に読むこと	復習	授業の内容を整理する
	第2回	内容	生涯発達とは何か	予習	教科書の生涯発達の箇所を事前に読むこと	復習	ライフサイクルとライフコースを整理する
	第3回	内容	主要な発達理論の紹介	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと	復習	発達理論について整理してまとめる
	第4回	内容	乳幼児期の発達	予習	教科書の幼児期の箇所を事前に読むこと	復習	未就学児の特徴をまとめる
	第5回	内容	学童期前期にかけての発達	予習	教科書の学童期の箇所を事前に読むこと	復習	学童期の子どもの特徴をまとめる
	第6回	内容	学童期後期から青年期にかけての発達	予習	教科書の青年期の箇所を事前に読むこと	復習	青年期の特徴をまとめる
	第7回	内容	小テスト（1～6） 青年期の精神世界を見る	予習	1～6回目の復習。	復習	テストの間違ったところを再学習する
	第8回	内容	成人期における発達	予習	教科書の成人期の箇所を事前に読むこと	復習	成人期の特徴をまとめる
	第9回	内容	老年期における発達	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと	復習	老年期の特徴をまとめる
	第10回	内容	子育てを取り巻く社会的状況	予習	教科書の子育て環境の箇所を事前に読むこと	復習	現代の子育て環境について考える
	第11回	内容	家族・家庭の意義、機能と親子関係・家族関係の理解	予習	教科書の家族の箇所を事前に読むこと	復習	家族機能について考える
	第12回	内容	子育ての経験と親としての育ち、ライフコースと仕事・子育て	予習	教科書の子育ての箇所を事前に読むこと	復習	親の成長を考える
	第13回	内容	多様な家庭形態とその理解 特別な配慮を要する家庭	予習	教科書の多様な家庭の箇所を事前に読むこと	復習	多様性について考える
	第14回	内容	子どもの精神保健	予習	教科書の精神保健の箇所を事前に読むこと	復習	子どもの精神保健について整理する
	第15回	内容	小テスト（7～14） 振り返り	予習	7～14回目の復習。テスト勉強をする	復習	テストの間違ったところを再学習する
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テストの後に、答え合わせと解説を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（100%）、レポート・課題（ %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 】（ %）						
教科書	『子ども家庭支援の心理学』（青木喜久代編、みらい）						
参考文献							
補足事項							

科目名	子ども家庭支援の心理学	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナバリングコード	EDP12102	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面 ・ 遠隔 ・ その他 ()						
授業の内容	生涯発達心理学をベースにして、保育士が必要とする人間の各成長段階における発達課題や発達障害、社会状況に基づく家庭支援の在り方などを学んでいく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題について理解している。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している。 						
学位授与方針	幼児教育学科 (1) 地域保育学科 () 文化表現学科 ()						
授業計画	第1回	内容	発達心理学の概要をつかむ	予習	教科書の相当箇所を事前に読むこと	復習	授業の内容を整理する
	第2回	内容	発達心理学の概要をつかむ (2)	予習	教科書の生涯発達の箇所を事前に読むこと	復習	ライフサイクルとライフコースを整理する
	第3回	内容	生涯発達とは何か	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと	復習	発達理論について整理してまとめる
	第4回	内容	主要な発達理論の紹介	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと	復習	発達理論について整理してまとめる
	第5回	内容	乳幼児期の発達	予習	教科書の乳児期の箇所を事前に読むこと	復習	乳児期の特徴をまとめる
	第6回	内容	学童期前期にかけての発達	予習	教科書の幼児期の箇所を事前に読むこと	復習	未就学児の特徴をまとめる
	第7回	内容	学童期後期からの発達	予習	教科書の学童期の箇所を事前に読むこと	復習	学童期の子どもの特徴をまとめる
	第8回	内容	学童期後期から青年期にかけての発達	予習	教科書の青年期の箇所を事前に読むこと	復習	青年期の特徴をまとめる
	第9回	内容	青年期の精神世界を見る	予習	先週の振り返りをしておくこと	復習	青年期の特徴を考える
	第10回	内容	成人期における発達	予習	教科書の成人期の箇所を事前に読むこと	復習	成人期の特徴をまとめる
	第11回	内容	老年期における発達 (前編)	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと	復習	老年期の特徴をまとめる
	第12回	内容	老年期における発達 (後編)	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと	復習	老年期の特徴をまとめる
	第13回	内容	子育てを取り巻く社会的状況～家族・家庭の意義、機能と親子関係・家族関係の理解	予習	教科書の子育ての箇所を事前に読むこと	復習	親の成長を考える
	第14回	内容	多様な家庭形態とその理解	予習	教科書の多様な家庭の箇所を事前に読むこと	復習	多様性について考える
	第15回	内容	発達支援の必要な子どもがいる家庭～精神保健	予習	教科書の精神保健の箇所を事前に読むこと	復習	精神保健について考える
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	毎回 google classroom で小テストを実施する。その次の週に結果をフィードバックする。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法：筆記試験 (%)、レポート・課題 (100%)、作品・発表 (%)、実技 (%)、授業態度【 (%)] (%)						
教科書	『子ども家庭支援の心理学』(青木喜久代編、みらい)						
参考文献							
補足事項	オンデマンドによる映像授業。						

科目名	子どもの理解と援助		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナバリングコード	EDP12201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	<p>幼児期の子どもの発達、遊び、生活の特徴と幼稚園教諭、保育者としての対応方法、保護者に対する支援・指導について事例を通して既習の知識や実習を通して得た経験を元に考える。</p> <p>対人コミュニケーションに必要なスキルをアクティブ・ラーニングの中で身につけていく。</p>							
到達目標	<p>1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、現場で応用することができる。</p> <p>2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、その過程で生じるつまづきなどに対応することができる。</p> <p>3. 保育における観察力や評価方法を身につけて発達支援について自ら考えることができる。</p> <p>4. 保護者や他の保育者とコミュニケーションをとりながら発達援助を行うことができる。</p>							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2, 3, 5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	イントロダクション：幼児理解の意義			予習	既習の保育学・発達心理学の内容について確認	
					復習	振り返りの記録をつける		
	第2回	内容	子ども理解における発達の把握 集団討論			予習	教科書第1章を読んで考えておく。	
					復習	振り返りの記録をつける。		
	第3回	内容	共感的理解と子どもとの関わり 集団討論			予習	教科書の第2章を読んで考えておく。	
					復習	共感的理解について整理する。		
	第4回	内容	子どもの生活や遊び 集団討論			予習	教科書の第3章を読んで考えておく。	
					復習	子どもの遊びについて整理しておく。		
	第5回	内容	アクティビティⅠ (様々なコミュニケーションと保育者の態度)			予習	コミュニケーションとは何かを考えておく。	
					復習	非言語コミュニケーションについて整理しておく		
	第6回	内容	心の発達と人的環境としての保育 集団討論			予習	教科書の第4章を読んで考えておく。	
					復習	人的環境を整理する。		
	第7回	内容	発達における葛藤やつまづき 集団討論			予習	教科書の第7章を読んで考えておく。	
					復習	発達における問題を整理しておく。		
	第8回	内容	保育環境の理解と構成 集団討論			予習	教科書の第8章を読んで考えておく。	
					復習	アフォーダンスを考えてみる。		
第9回	内容	アクティビティⅡ (集団でのコミュニケーション)			予習	配付する資料を事前に確認しておく。		
				復習	振り返りの記録をつける			
第10回	内容	子ども理解のための観察・記録と省察・評価			予習	教科書の第9章を読んでおく		
				復習	実習での事例をふまえて省察しておく。			
第11回	内容	職員間の対話 集団討論			予習	教科書の第10章を読んで考えておく。		
				復習	職員間のコミュニケーションについて考えておく。			
第12回	内容	保護者との情報共有 集団討論			予習	教科書の第11章を読んで考えておく。		
				復習	保護者との関わりについて整理しておく。			
第13回	内容	アクティビティⅢ (他者とのコンセンサス)			予習	配付する資料を事前に確認しておく。		
				復習	協働することについて振り返りの記録をつける。			
第14回	内容	発達の課題に応じた援助と関わり 集団討論			予習	教科書の第12章を読んで考えておく。		
				復習	発達課題に応じた支援について整理しておく。			
第15回	内容	特別な配慮を要する子供の理解と援助 集団討論			予習	教科書の第13章を読んで考えておく。		
				復習	特別な配慮をする場面を整理しておく。			
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業のなかで、その都度講評を行っていく。							
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（80％）、作品・発表（20％）、実技（ ）％、授業態度【 】（ ）％</p>							
教科書	『なぜ？から探る 子どもの理解と援助』（青木喜久代編、みらい）							
参考文献	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
補足事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。							

科目名	子どもの理解と援助		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	いまい ゆみ 今井 由美
ナバリングコード	EDP12201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの心身の発達や環境・状況を把握し、それらに基づいた保育援助の在り方について、より実践的な力を身に付ける。 演習課題や事例検討、グループワークを通して、子どもの理解を踏まえた多様な保育援助の方法について、具体的に考えていく。							
到達目標	1. 子ども一人一人の発達や状況を把握することの意義を理解し、さまざまな保育援助方法を身につけている 2. 子どもを理解するための方法について、具体的にイメージしながら説明できる 3. 子ども理解に基づく援助や態度について、自分なりに考えることができる							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2, 3, 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション / 子どもを理解するとは			予習	子どもを理解することのイメージをしておく	
					復習	習得する内容を整理する		
	第2回	内容	子ども理解の意義			予習	子どもを理解する必要性について考えておく	
					復習	子ども理解の意義について理解する		
	第3回	内容	子どもの発達と理解			予習	乳幼児の発達段階をイメージしておく	
					復習	発達過程に応じた援助についてまとめる		
	第4回	内容	子どもに対する関わりと共感的理解①			予習	子どもに共感する時のイメージしておく	
					復習	共感的理解について整理しておく		
	第5回	内容	子どもに対する関わりと共感的理解② グループワーク			予習	事前配布するグループワーク資料を読んでおく	
					復習	グループワークの内容を整理する		
	第6回	内容	子どもを理解する視点① 保育者としての関わり グループワーク			予習	保育者としての関わり方について考えておく	
					復習	グループワークの内容を整理する		
	第7回	内容	子どもを理解する視点② いざこざや葛藤			予習	いざこざや葛藤場面をイメージしておく	
					復習	いざこざや葛藤場面での援助方法をまとめる		
	第8回	内容	子どもを理解する視点③ 保育環境			予習	さまざまな環境変化をイメージしておく	
					復習	環境に応じた理解と援助方法を整理する		
第9回	内容	子どもを理解する方法① 観察・記録・評価			予習	観察した姿を記録するイメージをしておく		
				復習	子どもの姿を思い浮かべ記録する			
第10回	内容	子どもを理解する方法② 保育者間の連携 グループワーク			予習	保護者同士の関わりをイメージしておく		
				復習	グループワークの内容を整理する			
第11回	内容	子どもを理解する方法③ 保護者との関わり			予習	保護者対応をイメージしておく		
				復習	保護者対応と子ども理解の繋がりをまとめる			
第12回	内容	発達課題や個人差に応じた援助			予習	どんな発達課題があるか考えておく		
				復習	一人一人に応じた理解と援助について理解する			
第13回	内容	気になる子への理解と援助①			予習	どんな子が気になるのかイメージしておく		
				復習	気になる子への理解と援助についてまとめる			
第14回	内容	気になる子への理解と援助② グループワーク			予習	事前配布するグループワーク資料を読んでおく		
				復習	グループワークの内容を整理する			
第15回	内容	発達の連続性と就学支援 ロールプレイング			予習	就学時のイメージをしておく		
				復習	就学に向けての援助方法をまとめる			
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	提出された課題は、添削して返却し解説を行う。 グループワークやロールプレイングは、発表後に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（ 30 %）、作品・発表（ 30 %）、授業態度【積極的参加】（ 40 %）							
教科書	なし							
参考文献	『子どもの理解と援助 新・基本保育シリーズ⑩』（公益財団法人児童育成協会：監修、清水益治・森俊之：編集、中央法規） 『シードブック子どもの理解と援助』（飯島典子・本郷一夫：編著、建帛社）							
補足事項								

科目名	子どもの保健		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナバリングコード	AHS12101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの健康と保健の意義について理解する。 身体や心の基本的知識について習得するとともに、子どものかかりやすい病気とその予防・対応法について学び、援助できる力をみにつけることを目的とする。							
到達目標	1. 子どもの発育・発達についての基礎知識を習得し、一人ひとりに応じた評価ができる。 2. 子どもの病気とその予防、適切な対応について理解している。 3. 子どもの心身の健康状態を把握し、その対応方法が理解できている。 4. 保健活動において、保護者および多職種間の連携・協働の重要性を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（1、3、4）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション I、子どもの健康と保健の意義	予習	P1～11まで読んでおく			
				復習	子どもの健康に関する現状と課題についてまとめる			
	第2回	内容	II、子どもの身体的発育と生理機能の発達 身体発育と保健	予習	家族から自分の「妊娠～出生までの経過」を聞く			
				復習	身体の発育についてまとめておく			
	第3回	内容	生理機能の発達と保健	予習	P20～25まで読んでおく			
				復習	生理機能についてまとめておく			
	第4回	内容	運動機能の発達 精神機能の発達	予習	P25～33まで読んでおく			
				復習	反射・発達について、月齢をおってまとめる			
	第5回	内容	子どもの食と栄養	予習	P34～48まで読んでおく			
				復習	母乳と人工乳の違いについてまとめる			
	第6回	内容	III、子どもの健康状態の把握 観察・健康診断	予習	P49～52まで読んでおく			
				復習	乳幼児の観察方法についてまとめる 乳幼児健診の内容についてまとめる			
	第7回	内容	一 振り返り確認テスト No1ー IV、子どもの疾病予防と適切な対応 子どもの病気の特徴	予習	自分と家族の体温と脈拍を測定する			
				復習	子どもの病気の特徴についてまとめる			
	第8回	内容	感染症	予習	P69～76まで読んでおく			
				復習	主な感染症についてまとめる			
第9回	内容	免疫・アレルギー性疾患 消化器疾患	予習	アレルギーの事例について調べる				
			復習	アレルギー疾患の対応について調べる				
第10回	内容	循環器疾患 血液系疾患	予習	一般的にみられる症状はどのようなものがあるか考える				
			復習	症状の対応についてまとめる				
第11回	内容	内分泌・代謝性疾患 神経系の疾患	予習	P61～73まで読んでおく				
			復習	症状の対応についてまとめる				
第12回	内容	腎・泌尿器疾患 先天性の疾患	予習	先天性疾患にはどのようなものがあるか調べる				
			復習	慢性疾患についてまとめる				
第13回	内容	学校保健安全法 予防接種	予習	自分の母子健康手帳の内容を確認しておく				
			復習	自分が行ったことのある予防接種を確認する				
第14回	内容	一 振り返り確認テスト No2ー 子どもの疾病に対する福祉	予習	小児慢性特定疾患について調べる				
			復習	自立支援事業についてまとめておく				
第15回	内容	インクルーシブ教育・合理的配慮 まとめ	予習	合理的配慮の意味について調べる				
			復習	子どもの保健の到達目標を振り返る				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内で質問できる時間を設ける。課題（各授業終了時、確認ポイントチェック）・提出物においては、採点后または必要に応じてコメントを添えて返却する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（70%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書	「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」大澤眞木子・小國美也子 へるす出版、							
参考文献	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 小林美由紀・森脇浩一 診断と治療社							
補足事項	授業はじめに前回授業の振り返りを行い、授業中は、ペアワークやグループワークなどを行いながら、知識の共有・定着を図っていく。							

科目名	子どもの保健	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	たなべ はやと 田辺 勇人
ナンバリングコード	AHS12101	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他()						
授業の内容							
到達目標	1. 2. 3.						
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容		予習			
				復習			
	第2回	内容		予習			
				復習			
	第3回	内容		予習			
				復習			
	第4回	内容		予習			
				復習			
	第5回	内容		予習			
				復習			
	第6回	内容		予習			
				復習			
	第7回	内容		予習			
				復習			
	第8回	内容		予習			
				復習			
第9回	内容		予習				
			復習				
第10回	内容		予習				
			復習				
第11回	内容		予習				
			復習				
第12回	内容		予習				
			復習				
第13回	内容		予習				
			復習				
第14回	内容		予習				
			復習				
第15回	内容		予習				
			復習				
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。						
課題へのフィードバック							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する／()しない 成績評価の方法：筆記試験(%)、レポート・課題(%)、作品・発表(%)、実技(%)、授業態度【 】(%)						
教科書	『書名』(著者名、出版社名)						
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)						
補足事項							

科目名	子どもの食と栄養		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	ひらやま もとこ 平山 素子
ナバリンクコード	EAH12101		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から学齢期の発育発達と栄養・食事の関係を理解する。子ども一人ひとりの心理状態や食事の摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。							
到達目標	1. 子どもの発育・発達と食生活・栄養について理解している。 2. 月年齢に見合った適切な食事提供と介助を行う力を身につけている。 3. 自分自身の望ましい食生活の構築に取り組んでいる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1,2,3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション、調理室の使い方			予習	シラバスを読んでおく	
					復習	この科目で習得する内容を理解する		
	第2回	内容	子どもの発達・発育と栄養			予習	発育と発達の違いを調べる	
					復習	発育発達と栄養の関わりについてまとめる		
	第3回	内容	授乳期の栄養① 母乳栄養			予習	母乳栄養について調べる	
					復習	母乳栄養の利点と注意点についてまとめる		
	第4回	内容	授乳期の栄養② 人工栄養			予習	人工栄養について調べる	
					復習	人工栄養の利点と注意点についてまとめる		
	第5回	内容	調理実習1・・・授乳期（デモンストレーション）			予習	レシピ（プリント）を読んでおく	
					復習	調理手順を使いする		
	第6回	内容	調理実習1・・・授乳期（調理実習）			予習	調理手順を整理しておく	
					復習	人工栄養と母乳についてレポートを作成する		
	第7回	内容	離乳の必要性について			予習	どうして離乳が必要なのかを考える	
					復習	離乳食導入方法とサポート方法をまとめる		
	第8回	内容	離乳期の栄養①（5～6か月頃）			予習	教科書の「5～6か月の離乳食」部分を読む	
					復習	「5～6か月の離乳食」の特徴をまとめる		
	第9回	内容	離乳期の栄養②（5～6,7～8か月頃）			予習	教科書の必要な部分を読む	
					復習	教科書の必要な部分をまとめる		
	第10回	内容	離乳期の栄養③（7～8か月頃）			予習	教科書の「7～8か月の離乳食」部分を読む	
					復習	「7～8か月の離乳食」の特徴をまとめる		
	第11回	内容	食物アレルギーについて			予習	食物アレルギーの原因となる食物を調べる	
				復習	事故防止、サポート方法をまとめる			
第12回	内容	調理実習1・・・授乳期（デモンストレーション）			予習	レシピ（プリント）を読んでおく		
				復習	調理手順を使いする			
第13回	内容	調理実習2・・・授乳期（調理実習）			予習	調理手順を整理しておく		
				復習	離乳食についてのレポートをまとめる			
第14回	内容	離乳期の栄養④（9～11か月頃）			予習	教科書の「9～11か月の離乳食」部分を読む		
				復習	「9～11か月の離乳食」の特徴をまとめる			
第15回	内容	離乳期の栄養⑤（9～11,12～18か月頃）			予習	教科書の必要な部分を読む		
				復習	教科書の必要な部分をまとめる			
第16回	内容	離乳期の栄養⑥（12～18か月頃）			予習	教科書の「12～18か月の離乳食」部分を読む		
				復習	「12～18か月の離乳食」の特徴をまとめる			
第17回	内容	保育現場における食事を考える			予習	保育現場で食事等を提供する機械を考える		
				復習	食事等の提供時の課題と解決法をまとめる			
第18回	内容	幼児期の栄養①成長と食事・栄養について			予習	幼児期の食事について具体的に考えてみる		
				復習	幼児期の食事の特徴をまとめる			
第19回	内容	幼児期の栄養②保育士・保護者の悩みを通して考える			予習	幼児期の食の問題について調べる		
				復習	幼児期の食の課題と解決方法をまとめる			
第20回	内容	児童福祉施設の食事と栄養			予習	教科書の「児童福祉施設での食事」を読む		
				復習	児童福祉施設ごとの食の特徴をまとめる			
第21回	内容	園外保育・行事保育の食事（食物アレルギー等）			予習	園外保育・行事保育の食事について調べる		
				復習	園外保育・行事保育の留意点をまとめる			

	第22回	内容	障がい児の食事と栄養	予習	教科書の「障害のある子どもの食事」を読む
				復習	障がいのある子どもの食の課題をまとめる
	第23回	内容	体調不良時の食事と栄養	予習	子どもの体調不良について調べる
				復習	体調に合わせた食事の摂り方をまとめる
	第24回	内容	間食の意義と栄養	予習	間食の意義と必要性について調べる
				復習	間食の必要性和留意点をまとめる
	第25回	内容	学童期の食事と栄養	予習	幼保卒園後の食の問題について考える
				復習	学童期の食とサポート方法をまとめる
	第26回	内容	妊娠・授乳期の食事と栄養	予習	妊娠・授乳期に生じる食の問題を考える
				復習	妊娠・授乳期の食のサポート方法をまとめる
	第27回	内容	食事のマナー・箸の使い方について	予習	幼児期に習得すべきマナーについて調べる
				復習	箸使いの習得方法とサポート方法をまとめる
	第28回	内容	歯磨きについて	予習	教科書の「乳歯の萌出時期」を読む
				復習	歯の生える順序と歯磨きの方法を考える
	第29回	内容	咀嚼について	予習	教科書の「咀嚼」を読む
				復習	咀嚼を上手に行うための方法を考える
	第30回	内容	食べることの意義と栄養・食品の知識	予習	子どもの食で大切なことは何かを考える
				復習	自分の食生活を振り返り、改善方法をまとめる
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。					
課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（60％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度【積極性】（40％）				
教科書	『新・子どもの食と栄養』（岩田、寺嶋 編者、みらい）				
参考文献	『子どもの食と栄養』（大江敏江 編者、光生館）				
補足事項					

科目名	臨床心理学		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナンバリングコード	CLP12201		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	臨床心理学は応用心理学の一つである。心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようと試みたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で生きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。							
到達目標	1. 臨床心理学の基礎的知識を習得している。 2. 学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につけている。 3. 学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てられる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	臨床心理学についての概要 現代社会のこころの問題を考えてみる	予習	現代社会のこころの問題を考えてみる	復習	現代社会のこころの問題を振り返る	
	第2回	内容	精神障害① 抑うつ障害	予習	抑うつ障害について調べる	復習	抑うつ障害について確認する	
	第3回	内容	精神障害② 不安障害	予習	不安障害について調べる	復習	不安障害について確認する	
	第4回	内容	精神障害③ 統合失調症	予習	統合失調症について調べる	復習	統合失調症について確認する	
	第5回	内容	精神障害④ 心的外傷後ストレス障害	予習	PTSDについて調べる	復習	PTSDについて確認する	
	第6回	内容	発達臨床心理学について 発達初期のこころの問題について考えてみる	予習	既習の発達心理学の内容を確認する	復習	既習の発達心理学の内容について確認する	
	第7回	内容	発達障害① 知的障害・自閉症スペクトラム	予習	知的障害について調べる	復習	知的障害について確認する	
	第8回	内容	発達障害② ADHD・LD	予習	ADHD, LDについて調べる	復習	ADHD, LDについて確認する	
	第9回	内容	確認小テスト フィードバック	予習	ここまでの内容について試験勉強する	復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する	
	第10回	内容	臨床心理学の理論と方法① 精神分析	予習	精神分析について調べる	復習	精神分析について確認する	
	第11回	内容	臨床心理学の理論と方法② 人間性心理学	予習	ロジャースについて調べる	復習	ロジャースの理論について確認する	
	第12回	内容	心理アセスメント 知能テスト、パーソナリティテスト、質問紙法と投影法について	予習	心理テストについて調べる	復習	心理アセスメントについて確認する	
	第13回	内容	身近なこころの問題	予習	身近な心の問題について考える	復習	授業で学んだことと照らし合わせ確認する	
	第14回	内容	確認小テスト フィードバック	予習	ここまでの内容について試験勉強する	復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する	
	第15回	内容	現代社会と臨床心理学：サブカルチャーの中にみられる臨床心理学的問題から考えてみる	予習	サブカルチャーと精神性について調べる	復習	自分の考えをまとめてみる	
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	2回の小テストを実施し、その後にフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（100%）、レポート・課題（ %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 】（ %）							
教科書	使用しない							
参考文献								
補足事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。							

科目名	心理学特講		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	おおくま みかこ 大熊 美佳子
ナバリンクコード	EDP12202		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	心理学は、人間の心のメカニズムや行動を科学的に研究していく学問です。本講義では、テーマについて自ら調べ発表する、グループワークを行い他者の考えを知るなどの学びを通して、自分自身の心の仕組みを探り、自己理解を深めるとともに、人間理解の観点から、人間の心と行動について理解を深めるために必要な心理学の基礎知識を学び、日常生活にその知見を生かすことを目的とします。							
到達目標	1. 心理学の基礎知識を身につけている 2. 人の心のメカニズムと行動について理解している 3. 自分自身の望ましいライフコース構築に取り組んでいる							
学位授与方針	幼児教育学科（ 3, 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス：心理学を学ぶということ	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	心理学を学ぶ意義をまとめる			
	第2回	内容	自分自身を知る	予習	自分の長所、短所についてまとめる			
				復習	自分らしさについて理解を深める			
	第3回	内容	レジリエンスとマインドフルネス	予習	自分自身がストレスを感じる状況について考える			
				復習	心の健康を保つ方法についてまとめる			
	第4回	内容	対人関係の心理学	予習	対人関係をテーマにした映画・小説などについて調べる			
				復習	自身の対人関係についてまとめる			
	第5回	内容	親子関係の心理学	予習	親子関係をテーマにした映画・小説などについて調べる			
				復習	親子関係について自分の考えをまとめる			
	第6回	内容	性格の自己分析	予習	自分の思考や行動の特徴について考える			
				復習	自身の性格分析の結果を客観的に整理する			
	第7回	内容	自分と向き合う	予習	これまでの授業の中で見えてきた自分らしさについてまとめてくる			
				復習	グループワーク等による他者評価を取り入れ、再度自分らしさについて考える			
	第8回	内容	マイトリセツを作ってみよう	予習	マイトリセツに必要な素材を集めてくる			
				復習	マイトリセツを完成させる			
第9回	内容	女性のライフコースの心理学	予習	女性のライフコースをテーマにした映画・小説などについて調べる				
			復習	自分自身のライフコースを考える				
第10回	内容	色彩と心理学・パーソナルカラー診断	予習	自分に似合う色について考える				
			復習	色彩が及ぼす影響についてまとめる				
第11回	内容	言葉とコミュニケーション	予習	心に響いた言葉について考えてくる				
			復習	言葉とコミュニケーションについて考えをまとめる				
第12回	内容	嘘の心理学	予習	嘘について調べてくる				
			復習	子どもと関わるとき際のウソにまつわる心理テク視点を整理する				
第13回	内容	子育ての心理学	予習	子育てに関連する情報を調べる				
			復習	子育てについて自分の考えをまとめる				
第14回	内容	実行機能の発達と自己決定理論	予習	実行機能、動機づけについて調べる				
			復習	動機づけについて学んだことをまとめる				
第15回	内容	課題の発表とまとめ 日常に生かす心理学	予習	授業を通して学んだことを整理する				
			復習	学んだ知見の活用についてまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	レポートにコメントを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（40%）、授業態度【積極的参加】（60%）							
教科書	なし							
参考文献	講義の中で適宜紹介します							
補足事項								

科目名	保育・教育課程論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	こやま れいこ 小山 玲子
ナバリングコード	EDU12201		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	園の包括的な基本方針(幼稚園、保育所、幼保連携型こども園共通)である「教育課程」「全体的な計画」の構成と関連する指導計画並びに指導計画作成上の留意事項を保育現場での具体的な事例を通して学ぶ。幼稚園や保育所の保育内容などの保育の基本を理解した上で、保育実践における部分実習案等の立案の仕方を身につける。ポートフォリオ・ドキュメンテーションなど保育活動を可視化することで見えてくる子ども理解や保育者としての成長について考えながら、保育の内容と評価に基づく記録方法や改善に対する理解を深める。							
到達目標	1. 教育課程、保育の全体的な計画、指導計画の意義について学び、作成について目的を理解している。 2. 子どもの発達の過程・特徴を理解し、指導計画の作成を通して作成のポイント、方法について理解している。 3. 実際の保育方法や保育の形態と内容、保育記録・評価反省・改善の意義・目的について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科(1. 3. 4) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション・保育の基本について	予習	シラバス、教科書①、②の目次を確認する			
				復習	保育の基本について整理する			
	第2回	内容	教育課程・全体的な計画と指導計画	予習	教科書①第2章P27～31の通読			
				復習	教育課程・全体的な計画をまとめる			
	第3回	内容	幼稚園の理解 グループワーク	予習	教育要領の通読、教育課程について調べる			
				復習	教育課程作成のポイントを復習する			
	第4回	内容	保育所の理解 グループワーク	予習	保育所の全体的な計画について調べる			
				復習	全体的な計画作成のポイントを復習する			
	第5回	内容	指導計画の作成の基本とその方法	予習	教科書②指導案編P70～79の通読			
				復習	配布プリントのまとめを行う			
	第6回	内容	幼稚園部分実習指導案の立案・作成①	予習	部分実習で使用する絵本を選ぶ			
				復習	部分実習指導案の原案を箇条書きで書く			
	第7回	内容	幼稚園部分実習指導案の立案・作成②	予習	教科書②P102～118の通読			
				復習	部分実習指導案の完成(次回の授業提出)			
	第8回	内容	乳児、1・2歳児の特徴と指導計画 グループワーク	予習	教科書①第6章P135～142の通読			
				復習	0・1・2歳児の特徴を理解し整理する			
第9回	内容	幼児の特徴と指導計画 グループワーク	予習	教科書①第7章P143～150の通読				
			復習	配布プリントの課題を行う				
第10回	内容	保育園部分実習指導案の立案・作成①	予習	部分実習の内容を考える				
			復習	部分実習指導案を完成させる				
第11回	内容	保育の実践と評価	予習	PDCAサイクルについて調べる				
			復習	保育の評価・省察を理解する				
第12回	内容	保育園部分実習指導案の立案・作成②	予習	返却された部分実習指導案の見直し・訂正				
			復習	部分実習指導案の完成(次回の授業提出)				
第13回	内容	子ども理解や保育者としての成長につながる保育の記録 ミニテスト	予習	ドキュメンテーションについて調べる				
			復習	ミニテストの振り返りを行う				
第14回	内容	教育・保育施設と小学校との連携 グループワーク	予習	自分の自治体の幼保小連携について調べる				
			復習	接続期カリキュラム等を理解する				
第15回	内容	授業のまとめ (授業内レポート)	予習	第1～14回配布プリントを見直す				
			予習	シラバス、教科書①、②の目次を確認する				
予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	提出課題に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/()しない 成績評価の方法： 授業内レポート・課題 (50%)、ミニテスト(20%)、授業態度【積極的参加】(30%)							
教科書	『教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画』(岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正、萌文書林)							
参考文献	『パターンと練習問題でだれでもかけるようになる実習日誌・指導案』(浅井拓久也、明治図書出版) 『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館) 『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)							
補足事項	配布資料はファイリングし、レポート・課題など提出期限は必ず守ること。グループ討議等に積極的に参加すること。							

科目名	保育内容総論		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	いざわ えいしゅう 伊澤 永修
ナンバリングコード	EDU12202		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	幼児教育は総合的な指導をするという考え方から、5領域、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期までに育てほしい姿それぞれを理解し、またそれらの関係性を理解した上で保育を構築できるようにする。そのために具体的な子どもの姿を考えながら保育内容と指導法についてグループディスカッションし、理解を深める。							
到達目標	1. 「育みたい資質・能力」「幼児期に育てほしい」と保育内容の関係性を理解している 2. 子どもを取り巻く社会や環境の実態に即した具体的な保育課程を構築できる 3. 保育の多様な展開について具体的に理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（2、3、5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	保育内容総論と保育内容総論を学ぶ目的について 乳幼児期の保育の基本について	予習	これまでの学びを通して保育の基本についてまとめておく			
				復習	授業の内容を受けて改めて保育の基本及び保育内容についての振り返りを行う			
	第2回	内容	保育内容と保育内容の基本について	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	授業内容を踏まえ改めて要領や指針の該当部分を読み理解を深める			
	第3回	内容	保育と教育について 保育における遊びについて	予習	保育と教育について要領や指針の該当部分を読み理解を深めておく 保育における遊びについての考えておく			
				復習	授業を受けて保育と教育や遊びについてのまとめを行う			
	第4回	内容	保育内容の歴史について（1）	予習	保育内容の歴史をまとめておく			
				復習	授業内容を踏まえてより細かく保育内容の歴史をまとめ直す			
	第5回	内容	保育内容の歴史について（2） 幼小連携の歩みについて（1）	予習	これまでの学びを通して幼児教育と小学校教育の違いについてまとめておく			
				復習	授業内容を踏まえて事前にまとめた内容の修正を行い理解を深める			
	第6回	内容	幼小連携の歩みについて（2）	予習	前回の授業内容の振り返りを行い、具体的な幼小の連携方法について考えておく			
				復習	授業内での幼小連携の具体例を通して自分なりの幼小の連携についての考えをまとめる			
	第7回	内容	幼児期に育みたい資質・能力について（1）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	幼児期に育みたい資質・能力について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める			
	第8回	内容	幼児期に育みたい資質・能力について（2）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	幼児期に育みたい資質・能力について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める			
	第9回	内容	幼児期の終わりまでに育てほしい姿について（1）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	幼児期の終わりまでに育てほしい姿について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める			
	第10回	内容	幼児期の終わりまでに育てほしい姿について（2）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	幼児期の終わりまでに育てほしい姿について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める			
	第11回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（1） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく			
				復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる			
	第12回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（2） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく			
				復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる			
	第13回	内容	ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）（1） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく			
				復習	ケーススタディ及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる			
	第14回	内容	ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）（2） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく			
				復習	ケーススタディ及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる			
	第15回	内容	子どもを取り巻く環境と現代の保育ニーズの多様化について及び総まとめ	予習	現代社会においてどのような課題と保育ニーズがあるかまとめておく			
				復習	授業内容を受けて様々な課題や保育ニーズに応えるための保育についてまとめる			

	予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。
課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、返却時に解説する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）、レポート・課題（60%）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度【参加度合】（40%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 必要に応じて授業内で指示する
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
補足事項	

科目名	乳児保育 I		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	はぎわら やすこ 萩原 康子
ナバリングコード	CHS12101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	3歳未満児の発育・発達の特徴、生活・遊びの実際と援助、配慮について学ぶ。 講義、ビデオ視聴、保育現場での事例等を通して理解を深め、乳児保育に必要な知識を身につける。 乳児の短期的計画、長期的計画、個別計画について、個人ワークや全体発表を通して具体的に学ぶ。							
到達目標	1. 3歳未満児の保育における養護と教育の一体性について理解している。 2. 3歳未満児の発達支援と家庭支援について説明できる。 3. 3歳未満児の生活の連続性、発達の連続性、遊びの連続性について説明できる。							
学位授与方針	幼児教育学科 (2, 4, 5) 地域保育学科 () 文化表現学科 ()							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス 乳児保育の意義・目的と歴史的返還	予習	シラバスを読み本科目で修得する内容を知る	復習	乳児保育の重要性、乳児保育の歴史を整理する	
	第2回	内容	乳児の子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	予習	家庭や地域の子育て機能の低下について調べる	復習	時代に即した子育て支援のあり方を整理する	
	第3回	内容	保育所における乳児保育	予習	長時間保育における課題について調べる	復習	保育所の機能と役割について整理する	
	第4回	内容	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	予習	保育所以外の児童福祉施設について調べる	復習	乳児院の役割と生活を整理する	
	第5回	内容	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	予習	家庭的保育、小規模保育について調べる	復習	家庭的保育、小規模保育、地域型保育の特徴を整理する	
	第6回	内容	3歳未満児の家庭を取り巻く環境と子育ての支援	予習	子どもの最善の利益について調べる	復習	事例から学んだ内容をレポートにまとめる	
	第7回	内容	3歳未満児の生活と環境	予習	保育の人的環境、物的環境について調べる	復習	乳児の保育室の環境構成のあり方を整理する	
	第8回	内容	3歳未満児の遊びと環境	予習	視覚、四肢、手指、言葉の発達について調べる	復習	発達に応じた遊びの環境と配慮事項を整理する	
	第9回	内容	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	予習	0歳から1歳、1歳から2歳、2歳から3歳に移行する際の留意点について調べる	復習	乳児保育における総合的な育ちについてレポートにまとめる	
	第10回	内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助やかかわり	予習	運動発達、微細発達、認知発達、関係性の発達、応答的な対応について調べる	復習	乳児の発達の特徴と援助のあり方を整理する	
	第11回	内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	予習	健康、安全、情緒に関する配慮事項を調べる	復習	保育中の健康把握、安全管理についてレポートにまとめる	
	第12回	内容	乳児保育の計画・記録・評価の関連性	予習	保育の長期的計画、短期的計画について調べる	復習	計画、実践、記録、評価の関連性を整理する	
	第13回	内容	職員間の連携と協働	予習	保育士の役割と業務について調べる	復習	保育士に求められる専門性、人間性を整理する	
	第14回	内容	保護者との連携と協働	予習	子育て支援の必要性について調べる	復習	保護者と連携して子どもの育ちを支える視点について整理する	
	第15回	内容	自治体や地域の関係機関との連携と協働	予習	児童虐待について国内の事例を調べする	復習	保育所と地域との連携の重要性を整理する	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業内にて実施する小テスト、提出されたレポート、リアクションペーパーに記載された質問について全体に説明を行う。 授業内にて質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度【リアクションペーパーの記載内容含む】（20%）							
教科書	『0, 1, 2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活』 乳幼児の発達と保育研究会〔著〕 郁洋舎							
参考文献	『保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省編』（フレーベル館）							
補足事項	リアクションペーパーに毎回学んだことや感想等を記入して提出すること。配布資料はファイリングして毎回の授業に持参すること。							

科目名	乳児保育Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	はぎわら やすこ 萩原 康子
ナバリングコード	CHS12201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	乳児保育Ⅰの学習を基に愛着関係の必要性を理解し、3歳未満児の発育・発達の特徴や生活・遊びの実際と援助、配慮について学ぶ。ビデオ視聴や保育現場での事例、演習等を通して理解を深め、乳児保育に必要な知識と技術を身につける。指導計画の作成について、個人ワークや全体発表等で具体的に学ぶ。							
到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりについて基本的な考え方を理解している。 2. 3歳未満児の子どもの生活や遊びに関する配慮事項及び環境構成について具体的に説明できる。 3. 3歳未満児の保育における指導計画の必要性について具体的に説明できる。							
学位授与方針	幼児教育学科(2,3,4) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス 乳児保育の基本① 子どもと保育士等との関係の重要性			予習	シラバスを読み本科目の習得内容を確認する	
						復習	心の土台としての愛着形成の重要性を整理する	
	第2回	内容	乳児保育の基本②【演習】 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり			予習	共感・受容の意味について調べる	
						復習	対人関係の発達について整理する	
	第3回	内容	乳児保育の基本③【演習】 子どもの主体性の尊重と自己の育ち			予習	個別対応の重要性について調べる	
						復習	自我の芽生えと自己主張について整理する	
	第4回	内容	乳児保育の基本④【演習】 子どもの体験と学びの芽生え			予習	主体性を尊重することの意味について調べる	
						復習	乳児保育の基本についてレポートにまとめる	
	第5回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①【演習】 子どもの一日の生活の流れを踏まえた保育環境			予習	乳児保育の生活と遊びの内面について調べる	
						復習	保育の一日の流れと環境のあり方を整理する	
	第6回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②【演習】 子どもの生活や遊びを支える環境構成			予習	乳児保育の環境構成について調べる	
						復習	生活や遊びを支える環境のあり方を整理する	
	第7回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③【演習】 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊び			予習	落ち着いて過ごせる環境について調べる	
						復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する	
	第8回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④【演習】 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活			予習	基本的な生活習慣とはどのようなことか調べる	
						復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する	
第9回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際⑤【演習】 子ども同士の関わりと援助			予習	3歳未満児の子ども同士の関わりについて調べる		
					復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する		
第10回	内容	乳児保育における配慮の実際①【演習】 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮			予習	安全・安心のために必要な配慮について調べる		
					復習	発達を踏まえた援助の方法を整理する		
第11回	内容	乳児保育における配慮の実際②【演習】 集団での生活における配慮			予習	集団生活を基にした個別の配慮について調べる		
					復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する		
第12回	内容	乳児保育における配慮の実際③【演習】 環境の変化や移行に関する配慮			予習	3歳以上児の保育に移行する際の配慮を調べる		
					復習	乳児保育における配慮をレポートにまとめる		
第13回	内容	乳児保育における計画の実際①【演習】 長期的な指導計画と短期的な指導計画			予習	全体的な計画と他の指導計画の関連性を調べる		
					復習	指導を計画作成する意味・必要性を整理する		
第14回	内容	乳児保育における計画の実際②【演習】 個別的な指導計画と短期的な指導計画			予習	個別の指導計画について調べる		
					復習	指導計画の評価・反省の方法について整理する		
第15回	内容	まとめ 乳児保育の総理解【演習】 乳児保育の意義と重要性			予習	年間に配布した資料を基に要点を再確認する		
					復習	乳児保育の意義と重要性について整理する		
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業内にて実施する小テスト、作成したレポート、リアクションペーパーに記載された質問について全体に説明を行う。 授業内にて質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える。演習後の実技を通して修得状況を確認する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：授業内のミニテスト・レポート・課題（40%）、実技（30%）、授業態度【向上心、意欲的な参加】（30%）							
教科書	『0,1,2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活』 乳幼児の発達と保育研究会〔著〕 郁洋舎							
参考文献	『保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省編』（フレーベル館）							
補足事項	リアクションペーパーには、毎回学んだことや感想等を記入して提出すること。配布資料はファイリングし、毎回の授業に持参すること。							

科目名	子どもの健康と安全		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナンバリングコード	AHS12201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健」で得た知識を実践できるように演習を行い、習得することを目的とする。 保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について演習を通して理解を深める。感染を含めた事故防止の知識を深める。							
到達目標	1. 子どもの健康状態の評価ができる。 2. 病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。また予防のための対策を理解している。 3. 集団保育における環境と安全対策を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（1、2、3、4、5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション			予習	教科書 P104～113 を読む	
			子どもの健康と保育環境 演習 室温・湿度計、CO ₂ 計測器、熱中症計測器 測定			復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	保育における健康および安全管理① 衛生管理			予習	教科書 P114～121 を読む	
			演習 嘔吐処理方法			復習	保育所における保育環境・衛生管理をまとめる	
	第3回	内容	保育における健康および安全管理② 事故防止及び安全対策			予習	教科書 P122～132 を読む	
			演習 幼児視野体験メガネ・チャイルドマウス作成			復習	安全教育・安全管理についてまとめる	
	第4回	内容	保育における健康および安全管理③ 危機管理と災害の備え/避難訓練・安全教育			予習	教科書 P132～137 を読む 避難訓練指導案を考えてくる	
			演習 避難訓練			復習	災害時、避難誘導のポイントをまとめる	
	第5回	内容	体調不良や障害が発生した場合の対応 体調不良、傷害①創傷②打撲③出血④火傷			予習	教科書 P138～145 を読む 子どもの保健で学んだバイタルサインについて復習しておく	
			演習 バイタルサイン測定、包帯法、三角巾の使い方			復習	症状についての対応方法をまとめる	
	第6回	内容	小テスト①（第1回～第5回） 感染症の集団発生・予防対策			予習	教科書 P154～166 を読む	
			演習 手洗い、歯磨き（染め出しチェック）			復習	感染症対策ガイドラインを再確認する	
	第7回	内容	応急処置：誤飲・誤嚥、熱中症、溺水、SIDS			予習	教科書 P145～149 を読む	
			演習 背部叩打法 ハイムリック法 与薬方法			復習	演習でのポイントをまとめる	
	第8回	内容	救急処置と蘇生法			予習	教科書 P150～154 を読む	
			演習 心肺蘇生法 AED（ロールプレイング）			復習	演習のポイントについてまとめる	
	第9回	内容	個別的な配慮を要する子どもへの対応			予習	教科書 P173～183 を読む	
			演習 車椅子介助法 エビペン			復習	発達障害の支援方法についてまとめる	
	第10回	内容	病児保育 保育における保健的対応の基本的考え方			予習	教科書 P166～171 を読む	
			映像学習 病後児保育室の一日・グループ討議			復習	病児保育のポイントについてまとめる	
	第11回	内容	3歳未満児への対応			予習	教科書 P121、P171～173 を読む	
			演習 オムツ交換、抱っこ・おんぶ			復習	3歳未満児の発育・発達についてまとめる	
	第12回	内容	演習 沐浴			予習	教科書 P173～175 を読む	
			提出 身体計測と評価 ※母子健康手帳の確認			復習	3歳未満児の発育・発達についてまとめる	
	第13回	内容	小テスト②（第7～第11回） 保育者間の連携・協同、協同と組織の取り組み 事故防止・ヒヤリハット記録・グループ討議（事例検討）			予習	教科書 P184～189 を読む	
						復習	保育者間の連携のポイントについてまとめる	
	第14回	内容	保育における保健活動の計画と評価			予習	教科書 P189～193 を読む	
			提出 保健だより作成			復習	自分の誕生月の保健だよりを作成する	
	第15回	内容	母子保健・地域保健の計画と評価			予習	教科書 P193～202 を読む	
			家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携			復習	居住区の保健関係専門機関を調べる	

	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。
課題へのフィードバック	レポート・課題は採点后、返却する。 実技試験前に試験チェックポイントについて確認し、実施後振り返る。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 実技または筆記試験（ 70%）、レポート・課題（ 20%）、授業態度【演習：積極性、身だしなみ】（ 10 %）
教科書	『子どもの保健 健康と安全』（岩田力・細井香、光生館）
参考文献	『これならわかる！子どもの保健演習ノート』（小林美由紀、診断と治療社）
注意事項	1、演習時は、動きやすい服装、エプロンを着用し、髪をまとめ、爪は短くするなどの身だしなみを整える。 2、演習、準備、後片付けなど主体的に取り組むことで、授業態度における積極性と評価する。 3、主にグループ毎での活動となるため、演習がスムーズ行くように自分の役割を考え積極的に行動する。

科目名	子どもの健康と安全		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	たなべ はやと 田辺 勇人
ナンバリングコード	AHS12201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容								
到達目標	1. 2. 3.							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容		予習		復習		
	第2回	内容		予習		復習		
	第3回	内容		予習		復習		
	第4回	内容		予習		復習		
	第5回	内容		予習		復習		
	第6回	内容		予習		復習		
	第7回	内容		予習		復習		
	第8回	内容		予習		復習		
	第9回	内容		予習		復習		
	第10回	内容		予習		復習		
	第11回	内容		予習		復習		
	第12回	内容		予習		復習		
	第13回	内容		予習		復習		
	第14回	内容		予習		復習		
	第15回	内容		予習		復習		
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。							
課題へのフィードバック								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（ %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 】（ %）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名）							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）							
補足事項								

科目名	特別支援教育論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	せき けいこ 関 維子
ナンバリングコード	SNE12201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	障害者の権利条約と国内法の整備、教育制度の転換を踏まえて、インクルーシブ教育の理念と特別支援教育について体系的に学ぶ。また、障害のある子どもや特別な支援を要する子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援の実践について学び、自立と社会参加に向けた教育的支援と合理的配慮について理解する。							
到達目標	1. インクルーシブ教育・保育の理念と実践について具体的に説明できる。 2. 障害や特別な配慮が必要な子ども一人ひとりのニーズに応じた指導内容や指導方法について理解している。 3. 家庭や関係機関との連携について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 3・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システム	予習	シラバスを読む。	復習	特別支援教育のキーワードについてまとめる。	
	第2回	内容	特殊教育から特別支援教育への転換 特別支援教育の現状と教育制度	予習	特殊教育の特徴について調べる。	復習	就学制度の改正についてまとめる。	
	第3回	内容	障害とは：ICFの理解 障害のある子どもの教育を保障する法律・制度	予習	障害とは何かについて自分の考えをまとめる。	復習	ICIDH から ICF への改訂についてまとめる。	
	第4回	内容	保育や教育における合理的配慮と基礎的環境整備 ユニバーサルデザインとバリアフリー	予習	障害者差別解消法について調べる。	復習	合理的配慮の具体例についてまとめる。	
	第5回	内容	障害の理解と教育① 視覚障害児・聴覚障害児の理解	予習	身の回りにおける合理的配慮について調べる。	復習	視覚障害、聴覚障害への配慮事項をまとめる。	
	第6回	内容	障害の理解と教育② 知的障害児・肢体不自由児・病弱児・医療的ケア児の理解	予習	身の回りにおける合理的配慮について調べる。	復習	安全な保育のための配慮についてまとめる。	
	第7回	内容	障害の理解と教育③ 発達障害児の理解	予習	身の回りにおける視覚的支援について調べる。	復習	障害特性に合わせた環境構成をまとめる。	
	第8回	内容	多文化の子どもの理解 養育環境による配慮の必要な子どもの理解	予習	興味のある国の文化や挨拶について調べる。	復習	模擬事例に関するチェックリストを作成する。	
	第9回	内容	保育における遊びと活動、園内環境の工夫 障害特性に合わせた遊びについてグループで発表し合う。	予習	障害特性に配慮した遊びを考える。	復習	行事における工夫と配慮についてまとめる。	
	第10回	内容	障害のある子どものアセスメント：意義と目的、方法	予習	発達検査と知能検査について調べる。	復習	模擬事例のアセスメントシートを作成する。	
	第11回	内容	クラスの指導日案の作成、個別と集団への配慮 日案についてグループディスカッションをする。	予習	指導日案を作成するための事例を決める。	復習	指導日案の振り返りとまとめをする。	
	第12回	内容	「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」 目標についてグループディスカッションをする。	予習	特別支援教育における計画の種類を調べる。	復習	目標設定のポイントについてまとめる。	
	第13回	内容	特別支援学校・特別支援学級の特徴 就学相談と就学に向けた移行支援	予習	居住地の特別支援学級の設置状況を調べる。	復習	就学相談の流れについてまとめる。	
	第14回	内容	障害のある子どもの保護者に対する理解と支援 保護者の思いについてグループディスカッションをする。	予習	障害児の親に関する記事を読む。	復習	ディスカッションの内容をまとめる。	
	第15回	内容	障害児・者の意思決定支援	予習	障害者の権利条約 第12条を読む。	復習	15回の授業を振り返り、レポートにまとめる。	
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	レポートや製作物については、コメントを付けて返却する。 発表やディスカッションについては、発表後に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（60%）、作品・発表（20%）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（20%）							
教科書	『実践事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ 保育現場における特別支援』（編著：松井 剛太・七木田 敦、教育情報出版）							
参考文献	授業内で随時紹介する。							
補足事項								

科目名	子育て支援		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	せき けいこ 関 維子
ナンバリングコード	SWS12203		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	地域における「子育て支援」の基幹施設としての保育施設(保育所・幼稚園・認定こども園)の機能と役割について理解し、保育者が行う子育て支援のあり方について検討する。併せて、ロールプレイや事例検討を通じて、相談支援における保護者との相互理解や職員間の連携・機関連携の方法について具体的に理解することを目的とする。							
到達目標	1. 子育て支援に関する子ども及び保護者のニーズと社会資源について理解している。 2. 保育相談支援における保護者との相互理解に向けた基本姿勢を身につけている。 3. 実践事例を通して、保育士が行う子育て支援の内容と方法を具体的に理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科(2・3・5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 保育士が行う子育て支援とは	予習	シラバスを読む。	復習	保育所保育指針の「子育て支援」を読む。	
	第2回	内容	子どもと保護者、家庭が抱える子育て支援のニーズ 保育士が行う子育て支援の展開	予習	居住地の子育て支援策について調べる。	復習	保育士が行う子育て支援の特徴をまとめる。	
	第3回	内容	地域の子育て家庭への支援 保育における相談支援の位置づけと基本理念	予習	居住地の子育て支援拠点について調べる。	復習	保育士が行う相談支援の特徴をまとめる。	
	第4回	内容	保育士による相談支援の実際 保護者との相互理解と信頼関係の形成	予習	「ラポール」について調べる。	復習	相談の環境構成を考え、図を作成する。	
	第5回	内容	相談支援における記録・評価・計画	予習	保育に関する計画の種類について調べる。	復習	模擬事例に関する支援計画の作成	
	第6回	内容	多様な保育ニーズと支援	予習	保育ニーズの多様性について調べる。	復習	多様な保育ニーズと支援についてまとめる。	
	第7回	内容	気になる子ども、障害のある子どもと家庭に対する支援	予習	障害児保育の現状について調べる。	復習	保育における支援についてまとめる。	
	第8回	内容	特別な配慮を必要とする子どもと家庭に対する支援	予習	外国にルーツのある子どもについて調べる。	復習	子どもの貧困についてまとめる。	
	第9回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防① 親プログラムのエッセンスを学ぶ。	予習	どのような親プログラムがあるか調べる。	復習	親プログラムの目的についてまとめる。	
	第10回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防② 親プログラムのエッセンスをロールプレイで体験する。	予習	親子それぞれの困難さについてまとめる。	復習	ロールプレイの内容をまとめる。	
	第11回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防③ 要保護・要支援児童等の家庭への支援と機関連携	予習	要保護と要支援の違いについてまとめる。	復習	保育施設の「見守り」についてまとめる。	
	第12回	内容	事例検討①連絡帳の書き方 グループディスカッション、ロールプレイ	予習	連絡帳の役割について調べる。	復習	連絡帳案をワークシートにまとめる。	
	第13回	内容	事例検討②個別面談における相談援助 グループディスカッション、ロールプレイ	予習	事例に関するジェノグラムを作成する。	復習	事例に関するジェノグラムを完成させる。	
	第14回	内容	事例検討③他職種連携 グループディスカッション	予習	事例に関するエコマップを作成する。	復習	事例に関するエコマップを完成させる。	
	第15回	内容	保育者に求められる基本的役割と姿勢 保育専門職の価値と倫理	予習	保育に係る倫理綱領を調べる。	復習	倫理綱領と保育の理念についてまとめる。	
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業の中で提出課題の解説及び講評をする。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法：筆記試験()%、レポート・課題(40%)、作品・発表(20%)、実技(20%)、授業態度【積極的参加】(20%)							
教科書	『書名』(著者名、出版社名) なし							
参考文献	『書名』(著者名、出版社名) 『保育の特別支援教育』(編著:松井 剛太・七木田 敦、教育情報出版)							
補足事項								

科目名	子育て支援		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	いまい やすはる 今井 康晴
ナバリンクコード	SWS12203		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	子育てを取り巻く社会的背景をふまえ、子育て支援を担う保育者として、その歴史や行政などについて理解する。また具体的事例を通して、保育相談支援における保育者の専門性を活かした子育て支援について認識を深める。保育における相談支援、援助技術などをロールプレイ等の演習を通して獲得することを目的とする。							
到達目標	1. 子育てを取り巻く社会的背景、現状と課題について理解している 2. 子育て支援の歴史、行政について理解している 3. 保育相談支援における専門的知識・技術を獲得している							
学位授与方針	幼児教育学科(1,2,3,5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	子育て支援とは何か	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	子育て支援の基本的基盤についてまとめる			
	第2回	内容	子育て支援の歴史①ー明治、大正期を中心にー	予習	明治、大正期について調べておく			
				復習	時代背景をまとめる			
	第3回	内容	子育て支援の歴史②ー戦後を中心にー	予習	戦後日本の状況について調べておく			
				復習	戦後日本における子育ての在り方をまとめる			
	第4回	内容	子育て支援の歴史③ー平成、令和を中心にー	予習	昨今の社会情勢について調べておく			
				復習	現代の子育て状況についてまとめる			
	第5回	内容	子育て支援の基本姿勢	予習	保育所保育指針を読んでくる			
				復習	子育て支援の基本姿勢についてまとめる			
	第6回	内容	子育て支援の基本的技術	予習	子育て支援の基本について調べておく			
				復習	子育て支援の基本的なプロセスについてまとめる			
	第7回	内容	対話を用いた子育て支援	予習	対話したかについて調べておく			
				復習	コミュニケーション方法についてまとめる			
	第8回	内容	文書を用いた子育て支援	予習	文語体について調べておく			
				復習	手紙の書き方についてまとめる			
第9回	内容	子育て支援とソーシャルワーク	予習	社会資源について調べておく				
			復習	近隣にある子育て支援事業についてまとめる				
第10回	内容	保育機能を生かした子育て支援	予習	保育行事について調べておく				
			復習	保育行事の在り方についてまとめる				
第11回	内容	保育相談事例①ー発達相談ー	予習	幼児の発達について調べておく				
			復習	発達支援についてまとめる				
第12回	内容	保育相談事例②ー不適切な養育・虐待ー	予習	不適切な養育について調べておく				
			復習	不適切な保育の抑止抑制についてまとめる				
第13回	内容	保育相談事例③ー生活支援ー	予習	生活保護などについて調べておく				
			復習	生活支援への対応をまとめる				
第14回	内容	苦情・クレーム対応について	予習	昨今の保育・育児にかかるニュースを調べておく				
			復習	苦情対応の基本姿勢についてまとめる				
第15回	内容	子育て支援の今後の展望	予習	これまでの授業内容について復習する				
			復習	今後の子育て支援について展望する				
予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	講義の始めに予習内容について意見交換する。講義毎の復習レポート(レスポンスシート)を添削する							
成績評価	試験期間における定期試験：実施(○)する/()しない							
教科書	成績評価の方法：筆記試験(80%)、レポート・課題(20%)、作品・発表()%、実技()%、授業態度【 】()%							
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)なし							
補足事項	『書名』(著者名、出版社名)							

科目名	保育指導方法 I		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	こやま れいこ 小山 玲子
ナバリングコード	CHS12202		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他()							
授業の内容	園生活において子どもが自発的・意欲的に関わられるような環境の構成、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすることの意義を考える。授業を通して保育の場で適切な保育実践を展開していくための指導方法、関わり方を身につけていく。3～5歳児クラスの保育に役立つ実践を計画し、授業内で模擬保育を実施し振り返りを行う。							
到達目標	1. 保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 2. 子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 3. 遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科(2・4・5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション ペープサート作成	予習	シラバスの講義内容を読んでおく			
				復習	保育のねらい・保育者の役割をまとめる			
	第2回	内容	保育指導方法とは ペープサート作成	予習	保育の環境について調べる			
				復習	ペープサート作成			
	第3回	内容	子どもの発達と遊び ペープサート発表	予習	年齢にあった子どもの遊びを調べる			
				復習	幼稚園や保育所での子どもの遊びをまとめる			
	第4回	内容	航空公園探索①	予習	航空公園について調べる			
				復習	航空公園での活動をまとめる			
	第5回	内容	航空公園探索②	予習	散歩マップと行程表を作成する			
				復習	航空公園での活動をまとめる			
	第6回	内容	航空公園探索振り返り クラス便り・ドキュメンテーション作成	予習	散歩マップと行程表訂正			
				復習	クラス便り・ドキュメンテーション完成			
	第7回	内容	子どもの主体的な遊びを考える(木製遊具に触れる) 木製遊具・積木・カブラで遊ぶ	予習	積木等、木製遊具の種類と遊びを調べる			
				復習	子どもの主体的な遊びについて考察する			
	第8回	内容	子どもの主体的な遊びを考える 絵本・紙芝居・手遊び・言葉遊び	予習	絵本・紙芝居・手遊び・言葉遊びを調べる			
				復習	授業で配布したワークシート記入・完成			
第9回	内容	4歳児の保育の実践①保育活動準備(グループワーク)	予習	4歳児の発達と遊びを調べる				
			復習	保育活動の進行(計画)を仕上げる				
第10回	内容	4歳児の保育の実践②模擬保育(発表)	予習	模擬授業の準備を行う				
			復習	実践の振り返りをまとめる				
第11回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター 手作り紙芝居等の作成①	予習	製作物の準備を行う(絵本・物語等の選定)				
			復習	製作物のストーリー・構成決定				
第12回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター 手作り紙芝居等の作成②	予習	製作物作成の準備				
			復習	製作物の作成				
第13回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター 手作り紙芝居等の作成③	予習	製作物の作成				
			復習	製作物の作成・完成				
第14回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター 手作り紙芝居等の発表	予習	製作物の発表練習				
			復習	作品の修正・授業で配布したワークシート記入・完成				
第15回	内容	カードゲーム・ボードゲーム 授業のまとめ(授業内レポート)	予習	カードゲーム・ボードゲームの歴史を調べる				
			復習	実践の振り返りをまとめる 総括				
予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題は確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。発表に関しては講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/()しない 成績評価の方法： 課題・実技・発表(70%)、授業態度【積極的参加】(30%)							
教科書								
参考文献	『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館) 『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)							
補足事項	「保育指導方法I」「保育指導方法II」の授業は実習や就職後の実践に役立つ継続した内容であることに留意し、履修すること							

科目名	保育指導方法 I		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸橋 聡美
ナバリングコード	CHS12202		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、身につけていく。							
到達目標	1. 保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 2. 子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 3. 遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1. 2 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	保育指導方法とは	予習	保育のねらいを調べる			
				復習	保育指導方法についてまとめる			
	第3回	内容	事例①を通して保育方法を考える（グループワーク）	予習	保育方法の事例①を読む			
				復習	グループワークをまとめる			
	第4回	内容	事例②③を通して保育方法を考える（グループワーク）	予習	保育方法の事例②③を読む			
				復習	保育方法のあり方をまとめる			
	第5回	内容	生活する力を育む保育方法①事例検討（グループワーク）	予習	生活する力とは何かを考える			
				復習	保育を捉える視点や様々な保育方法をまとめる			
	第6回	内容	保育の環境構成①事例検討（グループワーク）	予習	保育の環境を調べる			
				復習	子どもに即した保育の環境をまとめる			
	第7回	内容	子どもの遊びと集団指導	予習	子どもの遊びと集団について調べる			
				復習	子どもの遊びと集団指導についてまとめる			
	第8回	内容	計画に基づく保育の実践	予習	保育計画について調べる			
				復習	教材研究の重要性についてまとめる			
第9回	内容	5歳児の保育の実践①教材研究（グループワーク）	予習	教材研究の留意点を調べる				
			復習	教材研究を行う				
第10回	内容	5歳児の保育の実践②作業（グループワーク）	予習	グループ活動の意義を考える				
			復習	グループワークでの意見をまとめる				
第11回	内容	5歳児の保育の実践③作業・模擬保育（発表）準備（ICT活用）	予習	模擬保育を行うための準備をする				
			復習	実践の振り返りをまとめる				
第12回	内容	5歳児の保育の実践④模擬保育（発表）、まとめ	予習	今まで学んできたことを振り返る				
			復習	まとめ課題を仕上げる				
第13回	内容	3・4歳児の保育の実践①教材研究・模擬保育（グループワーク）	予習	教材研究や模擬保育を行うための準備をする				
			復習	模擬保育を振り返り、指導案作成について調べる				
第14回	内容	3・4歳児の保育の実践②指導案作成	予習	指導案を作成する				
			復習	指導案の書き方を再度確認する				
第15回	内容	3・4歳児の保育の実践③まとめ	予習	PDCA サイクルを確認する				
			復習	実践の振り返りをまとめる				
予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	発表後、講評を行う。課題返却後、説明をする。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的な取り組み】（30%）							
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』							
参考文献	『子どもの育ちを支え安全を守る幼稚園・保育所・施設実習』若井編著他 大学図書出版							
補足事項	「保育指導方法Ⅰ」「保育指導方法Ⅱ」の授業は、実習での実践に向け継続した内容であることに留意し、履修すること							

科目名	保育指導方法Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸橋 聡美
ナンバリングコード	CHS12203		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、実践力を身につけていく。							
到達目標	1. 子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 2. 遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。 3. 保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 4. 子どもへの援助の仕方を身につけ、それを表現できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1. 2 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	子どもを捉える視点	予習	子どもを捉える視点を考える			
				復習	子どもを捉える視点をまとめる			
	第3回	内容	保育の計画について、指導案の書き方	予習	プリントを読んでくる			
				復習	保育の計画と指導案の書き方を理解する			
	第4回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育方法と計画－3歳児（グループワーク）	予習	3歳児の子どもの発達を確認する			
				復習	活動内容をプリントにまとめる			
	第5回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育方法と計画・実践－4歳児（グループワーク）	予習	4歳児の子どもの発達を確認する			
				復習	活動内容をプリントにまとめる			
	第6回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育方法と計画・実践－5歳児（グループワーク）	予習	5歳児の子どもの発達を確認する			
				復習	活動内容をプリントにまとめる			
	第7回	内容	保育の計画と実践①教材研究（グループワーク）	予習	保育の計画について確認する			
				復習	教材研究したものをまとめる			
	第8回	内容	保育の計画と実践②部分実習指導計画案	予習	教材研究をまとめたラフスケッチを作成する			
				復習	指導案を完成させる			
第9回	内容	保育の計画と実践③模擬保育（グループワーク・発表）解説	予習	模擬保育の準備をする				
			復習	模擬保育の振り返りをする				
第10回	内容	乳幼児の保育の実践①教材研究	予習	指導案の書き方を理解する				
			復習	指導案作成し、仕上げる				
第11回	内容	乳幼児の保育の実践②教材研究（グループワーク）	予習	教材研究・制作をする				
			復習	教材研究・制作の進捗を確認する				
第12回	内容	乳幼児の保育の実践③制作（グループワーク）	予習	教材研究の進行状況を確認し、授業の見直しをもつ				
			復習	教材研究をまとめる				
第13回	内容	乳幼児の保育の実践④制作と計画（グループワーク）	予習	指導案の書き方について確認する				
			復習	指導案を作成し、仕上げる				
第14回	内容	乳幼児の保育の実践⑤模擬保育（発表）	予習	模擬保育の準備・イメージをする				
			復習	模擬保育の評価をする				
第15回	内容	保育の計画と実践、評価（グループワーク）	予習	PDCA サイクルを確認する				
			復習	保育方法を総括する				
予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 50 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	発表後、講評を行う。課題作成後、解説を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的な取り組み】（30%）							
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』							
参考文献	『子どもの育ちを支え安全を守る幼稚園・保育所・施設実習』若井編著他 大学図書出版							
補足事項	「保育指導方法Ⅰ」「保育指導方法Ⅱ」の授業は、実習での実践に向けた継続した内容であることに留意し、履修すること							

科目名	健康（指導法）	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	きたほら せいいち 北洞 誠一
ナンバリングコード	CHS12204	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	健康の授業で勉強した幼稚園教育要領と保育所保育指針の理解を基礎として、教科書やいろいろな資料やビデオを参照しながら、健康の具体的な内容を考察し、現場での指導計画を作成し、現場での対処法を勉強する。						
到達目標	1. 現場で求められる健康のねらいと内容を理解し、実践の考え方と方法を身につけている。 2. 子どもの健康だけではなく、自分の健康について関心を持ち、自身を健康に保つ方法を理解している。 3. 健康のメカニズムを理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 4,5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション。保育ビデオ（アリサ）鑑賞Ⅰ。	予習	シラバスを見て全体の流れを把握する。	復習	さくらんぼ保育について調べる
	第2回	内容	保育ビデオ（アリサ）鑑賞Ⅱ。	予習	さくらんぼ保育の保育環境について調べる	復習	ビデオを見たレポートを提出する
	第3回	内容	運動遊び動画鑑賞・運動遊びの指導計画解説	予習	教科書の指導計画のところを読んでくる	復習	授業で扱った指導計画の構造をまとめる
	第4回	内容	食育について	予習	教科書の食育のところを読む	復習	授業内容をまとめる
	第5回	内容	子どものからだと心実感調査資料の解説	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む	復習	授業を受けてレポートを提出する
	第6回	内容	子どものからだと心を考えるⅠ：すぐ疲れたと言うの中身	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む	復習	授業を受けてレポートを提出する
	第7回	内容	子どものからだと心を考えるⅡ：前頭葉の4つのタイプ	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む	復習	授業を受けてレポートを提出する
	第8回	内容	保育ビデオ（さくらんぼ坊や）鑑賞	予習	前半7回の授業を復習する	復習	動画の感想のレポートを提出する
	第9回	内容	食育について	予習	教科書の食育の部分を読む	復習	授業内容をノートにまとめる
	第10回	内容	アレルギーについて	予習	教科書のアレルギーの部分を読む	復習	授業内容をノートにまとめる
	第11回	内容	安全指導について	予習	教科書の安全指導に関する部分を読む	復習	授業内容をノートにまとめる
	第12回	内容	生活習慣と免疫について	予習	免疫について調べる	復習	授業内容をノートにまとめる
	第13回	内容	食と免疫について	予習	食と免疫力について調べる	復習	授業内容をノートにまとめる
	第14回	内容	コロナ禍の保育について考える	予習	コロナ禍の保育について調べる	復習	授業内容をノートにまとめる
	第15回	内容	映画（ベイビーズ）鑑賞	予習	世界の子育てについて調べる	復習	映画の感想レポートを提出する
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	Google classroom の課題レポート提出に対してコメントをフィードバックする						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ 30 %）、レポート・課題（ 60 %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極性】（10%）						
教科書	「乳幼児の健康」（茗井香保里・宮下恭子・平山素子編、大学図書出版）						
参考文献	「限界を超える子どもたち——脳・身体・障害への新たなアプローチ」 2018、太郎次郎社エディタス						
補足事項	資料は Google classroom にアップする。筆記試験やレポート・課題は Google classroom で提出する。予習や復習で、自主的にインターネット等を活用して不明な点を調べること。						

科目名	人間関係（指導法）	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸橋 聡美
カンパリコード	CHS12205	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践とを関連づけて理解を深める。具体的な保育の構想と実践方法を身につける。						
到達目標	1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。 2. 保育所保育指針に示された領域「人間関係」の1歳以上3歳未満児に関わるねらい及び内容を理解している。 3. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1. 2. 3. 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 領域「人間関係」について①全体像を理解する	予習	講義内容を読んでおく	復習	領域「人間関係」の全体像をまとめる
	第2回	内容	領域「人間関係」②3歳以上児のねらいと内容	予習	領域「人間関係」のねらいと内容を読んでおく	復習	領域「人間関係」のねらいと内容を理解する
	第3回	内容	領域「人間関係」③乳児保育、1歳以上3歳未満児のねらいと内容	予習	1歳以上3歳未満児の領域「人間関係」を読む	復習	小テストの内容（範囲）を理解する
	第4回	内容	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿、育みたい資質・能力について	予習	幼稚園教育要領第1章第2を読み、内容を確認しておく	復習	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の人間関係に関する内容をまとめる
	第5回	内容	子どもの自立・仲間関係の育ちと援助（ICT活用）	予習	子どもの人間関係の発達を確認する	復習	事例を通して援助方法を考える
	第6回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）①仲間関係の形成（ICT活用）	予習	子どもの発達を調べておく	復習	事例を理解し、まとめる
	第7回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）②自己抑制（グループワーク）	予習	3・4歳児の発達を調べておく	復習	事例①を理解し、まとめる
	第8回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）③自己主張、思いやり（グループワーク）	予習	5・6歳児の発達を調べておく	復習	事例②③を理解し、まとめる
	第9回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）④いざこざ場面における援助（幼児）（ICT活用）	予習	事例プリントを読む	復習	保育者の子どもへの関わりを確認する
	第10回	内容	個と集団の相即的發展①活動内容・指導案作成（教材研究）	予習	PDCAサイクルを理解する	復習	教材研究をする①
	第11回	内容	個と集団の相即的發展②指導案作成	予習	教材研究をする②	復習	指導案を作成する
	第12回	内容	個と集団の相即的發展③模擬保育（グループワーク・発表）	予習	指導案を仕上げる	復習	模擬保育の反省、振り返りをする
	第13回	内容	個と集団の相即的發展④振り返り（ディスカッション）	予習	PDCAサイクルを再確認する	復習	グループの意見をまとめる
	第14回	内容	個と集団の早々の発展⑤改善・まとめ、幼保・小の連携活動と小学校以降の生活や学習で活かされる力	予習	幼保小の連携を考える	復習	個と集団の相即的發展を理解し、まとめる
	第15回	内容	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ（ICT活用）	予習	幼児期の「人間関係」の課題を考える	復習	「人間関係」をめぐる問題をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題に対して添削・解説を行う。また、発表に対しては講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（40%）、小テスト（30%）発表（10%）、授業態度【積極的参加】（20%）						
教科書	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）						
参考文献	なし						
補足事項							

科目名	環境（指導法）		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	なかむら よういち 中村 陽一
ナバリングコード	CHS12206		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	「環境」で学んだ、幼児と環境とかかわりに関する学びと、幼稚園教育実習（前期）の体験の上に、実例に基づき、領域「環境」の「目的」「ねらい」「内容」の理解を深める。さらに、領域「環境」にかかわる具体的な指導場面を想定した指導方法を身につける。課題に応じて、グループを作り討論や発表を行う。							
到達目標	1. 「幼稚園教育要領」に示された「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助について、具体的指導法を示すことができる。 2. 「環境を通した保育」の意義と、保育者の援助について、具体例を挙げて自分の考えを述べることができる。 3. 領域「環境」に関わる幼児の自然体験や社会体験と、小学校教育の生活科への連続性について理解している。 4. 子どもの自然体験を深めるための、子どもの発達を見据えた長期的計画の重要性を理解しており、大まかな計画を示すことができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4.5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり。「環境」の復習。	予習	幼稚園教育要領 保育内容「環境」を読む。	復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認。	
	第2回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室）。 グループ討論と発表。	予習	教科書9pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
	第3回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（園舎）。 グループ討論と発表。	予習	教科書25pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。	
	第4回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。 グループ討論と発表。	予習	教科書41pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
	第5回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境 グループ討論と発表。	予習	教科書59pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
	第6回	内容	子どもの生活と自然環境②－季節感と取り入れた保育 グループ討論と発表。	予習	教科書59pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。	
	第7回	内容	子どもの生活と自然環境③－飼育動物の特徴と配慮 グループ討論と発表。	予習	実習で体験した動物飼育についてまとめる。	復習	グループ討論のまとめ。	
	第8回	内容	子どもの生活と自然環境④－栽培植物の特徴と配慮 グループ討論と発表。	予習	教科書41pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。	
	第9回	内容	子どもの生活と社会①－施設との関わり グループ討論と発表。	予習	教科書75pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。	
	第10回	内容	子どもの生活と社会環境②－伝統的な行事との関わり グループ討論と発表。	予習	教科書75pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。	
	第11回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数 グループ討論と発表。	予習	実習で体験した子どもの数体験について。	復習	グループ討論のまとめ。	
	第12回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と文字 グループ討論と発表。	予習	教科書91pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
	第13回	内容	数量や文字に関する取り扱い②－小学校教育とのつながり グループ討論と発表。	予習	教科書75pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。	
	第14回	内容	小学校教育への連続性－「環境」と「生活科」「総合学習」 グループ討論と発表。	予習	教科書109pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
	第15回	内容	授業の振り返りとまとめ。 グループ討論と発表	予習	教科書109pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。	
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroomを用いて課題に対するフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（80％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度【積極的参加等】（20％）							
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社） 『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・日良秋子編、建帛社）							
参考文献	なし							
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。							
補足事項	必要に応じて、授業の終わりに小レポートを提出する。							

科目名	言葉（指導法）		単位数	1	授業時間数	担当教員	はしもと ちづる 橋本 千鶴
ナバリングコード	CHS12207		授業形態	演習	実務経験		
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	乳幼児の言葉の発達過程や、「幼稚園教育要領」などに記されている領域「言葉」のねらいや内容、言葉の育ちにかかわる問題等について理解し、将来の保育者として、適切なかわり、援助、環境構成ができるようにする。また、言葉を豊かに育てる児童文化財について実践的に学び、保育者として必要な知識や技能の習得を図る。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行われる言葉の指導の内容的・方法的特質を理解している。 2. 「幼稚園教育要領」などに記されている領域「言葉」のねらいや内容、保育実戦での展開方法を理解している。 3. 乳幼児期の言葉の発達や、言葉の育ちにかかわる諸問題について説明できる。 4. 言葉を育てる児童文化財について積極的に学び、将来の保育者として必要な知識や技術を身につけている。 						
学位授与方針	幼児教育学科（ 2, 3, 5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション「言葉（指導法）」について・素話	予習	シラバスを読んで、授業内容を把握しておく。		
				復習	自分が発表する素話を決めて、発表に向けて練習を進める。		
	第2回	内容	子どもの言葉の発達①（新生児）（グループディスカッション）	予習	身近にいる乳幼児の言葉に耳を傾け、記録する習慣をつける。		
				復習	新生児のコミュニケーション能力について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。		
	第3回	内容	子どもの言葉の発達②（0～1歳期）（グループディスカッション）	予習	身近にいる乳幼児の言葉に耳を傾け、記録する習慣をつける。		
				復習	0～1歳期の言葉の発達について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。		
	第4回	内容	子どもの言葉の発達③（2～5歳期）（グループディスカッション）	予習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を読んで、重要な箇所に線を引いておく。		
				復習	2～5歳期の言葉の発達について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。		
	第5回	内容	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」のねらいや内容について（ペアワーク、ロールプレイング）	予習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を読み進める。		
				復習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を読み深め、要点をノートにまとめておく。		
	第6回	内容	模擬保育①素話の発表（グループワーク、発表、相互評価）	予習	素話を覚えて、3分以内で発表できるように準備しておく。		
				復習	素話の発表を参考に、よりよい語り方を取り入れ、さらに素話の練習を継続しておく。		
	第7回	内容	絵本の歴史・昔話（グループワーク）	予習	絵本を数冊読んでおく。		
				復習	自分が知らなかった昔話を読み進める。		
	第8回	内容	模擬保育②絵本の読み聞かせ（グループワーク、発表、相互評価）	予習	絵本の読み聞かせの練習をしておく。		
				復習	絵本の読み聞かせの模擬保育について振り返り、課題や改善点をノートにまとめておく。		
	第9回	内容	紙芝居の歴史・演じ方（グループワーク）	予習	紙芝居について調べ、演じ方のイメージをもって臨む。		
				復習	授業で学んだことを参考に、紙芝居の演じ方の留意事項をまとめておく。		
	第10回	内容	模擬保育③紙芝居の演じ方（グループワーク、発表、相互評価）	予習	紙芝居の演じ方の練習をしておく。		
				復習	紙芝居の演じ方の模擬保育について振り返り、課題や改善点をノートにまとめておく。		
	第11回	内容	子どもと楽しむ言葉遊びの実践（指導案作成）	予習	子どもと楽しむ言葉遊びについて、どのような活動ができるか考えて、ノートにまとめておく。		
				復習	子どもと楽しむ言葉遊びの指導案を作成する。		
	第12回	内容	模擬保育④子どもと楽しむ言葉遊びの実践（グループワーク、発表、相互評価）	予習	指導案をもとに、言葉遊びの実践の練習をしておく。		
				復習	子どもと楽しむ言葉遊びの模擬保育について振り返り、課題や改善点を確かめ、よりよい指導案に練り上げておく。		
	第13回	内容	模擬保育⑤人形劇の演じ方（グループワーク）	予習	さまざまな人形劇について調べ、それぞれの特色をノートにまとめておく。		
				復習	人形劇の演じ方について振り返り、その特色や留意点をノートにまとめておく。		
	第14回	内容	言葉の育ちにかかわる問題（グループディスカッション）	予習	言葉の育ちにかかわる問題にはどのようなものがあるか調べ、ノートにまとめておく。		
				復習	本時で学んだことをもとに、さらに乳幼児の言葉に関心をもって聞くように心がけ、必要に応じて記録する習慣をつける。		
	第15回	内容	オノマトペ・授業全体のまとめ	予習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」、配布資料などを読み返し、これまでの授業内容を復習しておく。		
				復習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を読み深め、今後の実習で学びたい目標、ねらいの形でまとめる。		
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。							

課題へのフィードバック	各授業回で提出されたリアクションペーパー（実技の振り返りを含む）や指導案についてはその都度評価し、次の授業回で講評、解説を行って返却する。実技については、授業内に講評したり、学生同士による相互評価をしたりし、自ら課題が確認できるようにする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： まとめのレポート（40%）、各授業回のレポート・課題（40%）、授業態度【積極的参加・実技】（20%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） なし（授業時にプリントを配布する）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 他授業内で紹介
補足事項	保育者になる自覚をもちながら、積極的に講義、実技に取り組んでほしい。

科目名	言葉（指導法）	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	いざわ えいしゅう 伊澤 永修
ナバリングコード	CHS12207	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	領域「言葉」のねらいと内容についての理解を深め、言葉の発達と特徴を事例や映像を通して理解する。その上で、乳幼児の発達過程に合わせた保育を構築できるように児童文化財などの保育教材などへの理解を深め保育への取り入れ方などを理解するために、演じ合いやグループディスカッションを行う。						
到達目標	1. 領域「言葉」のねらい及び内容を理解している 2. 児童文化財などの保育教材を理解し、保育内容に活用することができる 3. 子どものことばの育ちを支える指導計画が作成できる						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1、2、5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーションオリエンテーション 領域「言葉」について習いと内容を含め理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第2回	内容	0から2歳児における「言葉」に関するねらい及び内容について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	配付資料をもとに解説された内容を振り返り子どものことばの発達に対する理解を深める
	第3回	内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「言葉」との関連について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込み前回の授業の振り返りを行う	復習	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」一つひとつと領域「言葉」との関連についてのまとめを行う
	第4回	内容	領域「言葉」と他領域との関係について理解する 言葉とコミュニケーションの発達（1）	予習	これまでの学びを通して保育の基本についてまとめておく	復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する
	第5回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（2）	予習	前回の授業内容を確認する	復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する
	第6回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（3）	予習	前回までの授業内容を確認する	復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する
	第7回	内容	言葉に関する事例をもとにグループディスカッションを通して理解を深める	予習	年齢に合わせた言葉に関する援助の仕方について整理しておく	復習	年齢に合わせた言葉に関わる援助の仕方についてまとめる
	第8回	内容	カリキュラムマネジメントについて理解する 児童文化財・絵本についての理解を深める	予習	絵本について調べておく	復習	カリキュラムマネジメントと教材研究の方法についてまとめる
	第9回	内容	絵本の読み聞かせの効果や年齢に即した絵本について理解する	予習	子どもの言葉の発達過程について確認しておく	復習	絵本の特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
	第10回	内容	絵本紹介のグループ内発表及びグループディスカッションを通して絵本への理解を深める	予習	絵本の回の授業を振り返り絵本についての理解を深めておく	復習	絵本の特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
	第11回	内容	お話とお話の魅力	予習	お話やお話の魅力について考えておく	復習	お話の子どもたちへの影響についてまとめる
	第12回	内容	言葉遊びと言葉遊びの魅力	予習	子どもと楽しめる言葉遊びを考えておく	復習	言葉遊びの特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
	第13回	内容	グループ内での素話の実演とグループディスカッションを通して素話についての理解を深める	予習	素話について調べておく	復習	素話を保育にどのように取り入れるかについて自分なりにまとめる
	第14回	内容	児童文化財・パネルシアターの理解と絵人形の作り方	予習	パネルシアターについて調べておく	復習	パネルシアターの特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
	第15回	内容	子どものことばの育ち（話し言葉の世界から書き言葉の世界へ）の理解と総まとめ	予習	当該授業の振り返りをしておく	復習	当該授業で学んだ事をどのように保育に活かしていくかについての総まとめを行う
	予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。						
課題へのフィードバック	提出物を評価し、返却時に解説を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）、レポート・課題（60%）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度【参加度合】（40%）						

教科書	『事例で学ぶ保育内容』 無藤隆監修 萌文書林	※1年次に購入済
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館	
補足事項		

科目名	造形表現（指導法）		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	おぐち すぐる 小口 偉
ナバリングコード	CHS12208		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりとお興行をもたらし、子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通じた表現について関心、理解を深める。							
到達目標	1. 子どもの造形表現の意義を理解している。 2. 年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容に応じた環境づくりができる。 3. 子どもと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 2, 3, 5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	素材体験1 紙について 質感で遊ぶ	予習	参考書等の紙の活動に関することを読み込む			
				復習	身近な紙の触り心地を確かめておく			
	第2回	内容	素材体験2 グループワーク 紙について2 空間を使って遊ぶ	予習	遊ぶこととは何かノートに書き出し持参する。			
				復習	体験を通して空間を使って遊ぶこととは何か自分なりに考え、まとめる。			
	第3回	内容	素材体験3 クレヨン、パスについて理解する	予習	参考書等のクレヨン、パスに関する項目を読み込む。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第4回	内容	素材体験4 グループワーク 粘土に触る	予習	参考書等の粘土に関する記述について読む。			
				復習	体験内容をノートにまとめる。			
	第5回	内容	素材体験5 グループワーク シート系素材を理解する	予習	参考書等のハサミに関する記述について、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第6回	内容	道具体験1 道具を理解する ハサミについて	予習	参考書等のステープラーに関する記述について、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第7回	内容	道具体験2 道具を理解する ステープラーについて	予習	参考書等の接着に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第8回	内容	応用1 構成遊びについて1 色画用紙を使った構成遊び制作を体験する	予習	構成遊びについて調べる。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第9回	内容	応用2 構成遊びについて2 与えられたきっかけから画面構成をする1	予習	構成遊びについて調べる。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第10回	内容	応用3 構成遊びについて3 与えられたきっかけから画面構成をする2（発表）	予習	構成遊びについて調べ、まとめたノートを持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第11回	内容	応用4 様々な技法遊び デカルコマニー/スクラッチの制作体験をする	予習	技法遊びについて5つの種類とその方法を調べ、まとめたものを持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第12回	内容	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作と共同制作を体験する	予習	参考書の紙立体に関する記述について、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第13回	内容	生活素材を使った制作を体験する	予習	造形素材として使用できる可能性のあるものを集めておく。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第14回	内容	工作体験をする「動きを楽しむ紙工作」	予習	参考書の紙工作に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第15回	内容	振り返り ドキュメンテーション作成をする	予習	ドキュメンテーションについて調べ、まとめたノートを持参する。(60分)			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。								
課題へのフィードバック	各提出課題に対し採点をする。返却の際に保育現場においての実践方法や、注意点を伝える。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（20%）、作品・発表（40%）、実技（ %）、授業態度【積極的な取り組み】（40%）							
教科書	『遊んで育て！表現の力-保育で使える活動例と指導法-』（塩崎みづほ 長谷川恭子 小口偉、推敲舎）							
補足事項	作品の出来映えは重視しません。積極的に取り組むこと。 ※ 作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。(1,200円を徴収します。)							

科目名	音楽・身体表現（指導法）	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しおざき はせがわ 塩崎・長谷川
ナバリングコード	CHS12209	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業内容	保育内容の各領域を総合的にとらえ表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。体の動き、音・リズムを工夫し、豊かな感性を育み、自らのイメージを広げて表現する楽しさについて理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、ICTを活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の心情、認識、思考、動きなどを視野にいたる保育の構想の重要性を理解している。 2. 領域「表現」及び音楽・身体表現の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができている。 3. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができている。 4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5. 音楽・身体表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができている 						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	本授業の概要 音楽・身体表現のねらい、および内容について乳幼児期の発達を踏まえて理解する	予習	テキストの指導篇を読んでくる。		
				復習	模擬保育で行いたい内容について決めてくる		
	第2回	内容	指導案作成の構造を理解し、身体表現活動におけるねらいについて考え、具体的な題材について検討し、指導実践法について研究する。	予習	行いたい活動内容についての指導の流れを考えてくる		
				復習	指導案を完成させる。		
	第3回	内容	豊かな感性を育み、イメージが広がり、工夫した動きを引き出す言葉かけ・問いかけについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用について考える。	予習	指導案を見ながら言葉かけについて考える		
				復習	指導の言葉かけシートを書き上げてくる		
	第4回	内容	保育活動における保育者の動き、言葉かけ、太鼓の叩き方などについて実践的に学ぶ。	予習	模擬保育で使用する準備物などを用意する		
				復習	実際の保育活動をイメージしてリハーサルを行う		
	第5回	内容	生活を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	指導のリハーサルを行う		
				復習	指導実践後の振り返りをGoogleフォームへ記入する。		
	第6回	内容	絵本や架空の世界を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	身体表現遊びで活用できる絵本を探す		
				復習	本時の指導実践の振り返りをフォームに記入する。		
	第7回	内容	自然を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	自然を題材にした活動について考えてくる		
				復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる		
	第8回	内容	身体表現遊びの意義についてグループディスカッションし、指導法において重要な点についてまとめる	予習	身体表現遊びの意義について自分なりの考えをノートにまとめる		
復習				指導法についてフォームへまとめ、提出する			
第9回	内容	音楽教育の理論および保育における音楽指導の基礎を学び、その意義について理解を深める。	予習	1年後期の授業のプリントを読んでくる			
			復習	本時の内容をノートにまとめ、保育における音楽表現の重要性について記述する			
第10回	内容	音楽指導におけるねらいの観点を理解し、達成するための指導方法を学ぶ。	予習	音楽指導の意義をふまえ、どのようなねらいが設定できるか調べる			
			復習	本時の内容をノートにまとめ、音楽活動を想定してねらいを立ててみる			
第11回	内容	音楽教育の意義と音楽指導のねらいをふまえ、幼児期の発達段階をふまえた指導を計画し、指導案を作成する。	予習	幼児期の発達段階について理解し、各年齢に即した題材を考える			
			復習	指導案を完成させ、シミュレーションをする			
第12回	内容	指導案をもとに3歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	3歳児の音楽表現について理解しておく			
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、3歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
第13回	内容	指導案をもとに4歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	4歳児の音楽表現について理解しておく			
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、4歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
第14回	内容	指導案をもとに5歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	5歳児の音楽表現について理解しておく			
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、5歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
第15回	内容	歌唱による鑑賞活動の模擬保育を行い、子どもに音楽表現	予習	子どもの各年齢に適した歌唱による鑑賞教材を検討し、提示の仕方考える			

		を伝える技術について検討する。	復習	模擬保育をふまえ、子どもへの歌唱表現の提示法の要点をノートにまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。			
課題へのフィードバック	課題返却時に評価及び課題点を記入する。 模擬保育については、仲間からの評価、教員からの評価を担当学生へフィードバックする。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（40%）、発表（40%）、実技（10%）、授業態度【積極的参加、協働的な取り組み】（10%）			
教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎） 『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび からだとこころを育む指導法』（宮下恭子編著、大学図書出版）			
参考文献				
補足事項	身体表現の授業では、原則学校指定のジャージを着用して出席すること。 塩崎：15回、長谷川：15回 身体表現模擬保育ループリック評価表 https://drive.google.com/file/d/1XLgVxc8nPOU-dxn_qRdFrkw9EYs00ufK/view?usp=sharing 音楽表現模擬保育ループリック評価表 https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1aQuPrNHfCJ1rIU00E9ENDyXsQUwr2i0			

科目名	幼児の運動遊び		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しおさき 塩崎 みづほ
ナバリングコード	CHS12210		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれ、遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、指導法についても実践的に学びます。そこでは、グループで決めた題材を用いて、模擬保育を実践します。さらに ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。							
到達目標	1. 子どもの発育発達に応じた運動遊びの意義とその内容を理解している。 2. 運動遊びの指導に必要な、ねらい、指導案の記入法、指導法について理解している。 3. 幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	講義：履修上の注意事項 乳幼児期の運動遊びの意義	予習	シラバスを見て質問等を考える			
				復習	運動遊びの意義について自分の考えをまとめる			
	第2回	内容	鬼ごっこについて考えよう	予習	鬼ごっこの種類とルールをあげる			
				復習	鬼ごっこの意義とルールをまとめる			
	第3回	内容	米袋を使った遊び、身近なものを使った遊び	予習	本時に使用する米袋を作成する			
				復習	米袋や身近なものを使った遊びを、年齢ごとにまとめる			
	第4回	内容	フープを使った遊び	予習	フープの特性について教科書を読み考えてくる			
				復習	本時の活動を年齢ごとにまとめる			
	第5回	内容	縄を使った遊び	予習	縄の特性について考えてくる			
				復習	本時の活動を年齢ごとにノートにまとめる			
	第6回	内容	ボールを使った遊び、レクリエーションの企画	予習	ボールの特性について読み深める			
				復習	ボール遊びの意義についてまとめる			
	第7回	内容	親子の運動遊びの意義と内容について考える	予習	親子の運動遊びの内容を調べたり、考えてくる			
				復習	親子の運動遊びの意義についてまとめる			
	第8回	内容	親子の運動遊びの実践	予習	親子の運動遊びの実践の準備をする			
復習				実践後の振り返りレポートを作成する				
第9回	内容	講義：運動遊びの指導について、指導案の書き方	予習	指示された箇所の教科書を読んでくる				
			復習	指導案の書き方を復習する				
第10回	内容	模擬保育の実践とグループディスカッション① マットを使った遊び・ボールを使った遊び	予習	マット遊び、ボール遊びの特性と指導法について復習する				
			復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する				
第11回	内容	模擬保育の実践とグループディスカッション② 身近な用具を使った遊び・縄遊び	予習	身近なものを使った遊びや縄遊びの特性と指導法について復習する。				
			復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する				
第12回	内容	行事の企画と実践に向けての準備	予習	運動会の種目を考え、決められた課題に取り組む				
			復習	自分の担当種目についてまとめる				
第13回	内容	行事のリハーサル	予習	行事の活動内容を把握し、言葉かけを考えてくる				
			復習	リハーサルを振り返り改善点を考える				
第14回	内容	行事实践	予習	実践の準備				
			復習	本時の実践の振り返りをする				
第15回	内容	まとめ 運動遊びの指導と行事の企画を通して学んだことについて振り返る	予習	指導を行ってきたレポート課題を仕上げる				
			復習	本時のグループ討議を踏まえ考察をノートにまとめる				
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	振り返りを Google フォームなどで行いその時間内もしくは、次の時間において共有する。 模擬保育についての講評は、個人へのフィードバックと全体へのフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 課題（40%）、作品（10%）、発表（20%）実技（20%）、授業態度【積極的参加、服装】（10%）							
教科書	『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび からだとこころを育む指導法』（宮下恭子他編著、大学図書出版）							
参考文献								
補足事項	実技の際は、指定のジャージを着用すること。 実技のため、受講者数は 50 名までとします。							

科目名	幼児の音楽遊び		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナンバリングコード	CHS12212		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	領域「表現」に含まれる音楽表現の意義を理解し、乳幼児の感性や創造性を豊かにするために、音や音楽の表現について実践的に学ぶ。具体的には、音や音楽を伴う活動や遊びを体験したり、器楽や歌唱の演奏を楽しんだりすることで、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。							
到達目標	1. 聴く・動く・演奏するなどの様々な表現を体験することを通して、イメージを豊かにすることができる。 2. 生活の中の音環境を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. 音を感じたり音楽を表現したりするにあたり、積極的に活動に取り組み、企画に参加することができる。 4. 他者の表現や意見を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2、3、5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：音や音楽を楽しむことを考える	予習	領域「表現」を読んでくる。			
				復習	本時の内容について記録し、考察する。			
	第2回	内容	音探しの旅1：身体で音を感じる	予習	身体から出る音について考えてくる。			
				復習	本時の内容について記録し、考察する。			
	第3回	内容	音探しの旅2：身の回りの音の音質を捉える（グループワーク）	予習	グループワークの内容を確認し、活動の趣旨を理解してくる。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第4回	内容	声によるアンサンブルの楽しみ：子どもができる声のアンサンブルをする 合唱	予習	歌の練習をする。			
				復習	活動を振り返り、活動の意義を記録し、考察する。			
	第5回	内容	音楽を使った遊び1：楽器を使って音を楽しむ 楽器から出る音に注目し、響きを楽しむ	予習	一般的に保育で使われている楽器の奏法を確認しておく。			
				復習	活動を振り返り、保育への応用を記録し、考察する。			
	第6回	内容	音楽を使った遊び2：手作り楽器でアンサンブルを作る（グループワーク）	予習	グループワークの内容を確認し、活動に必要なものを考えて用意する。			
				復習	活動の振り返りを記録にし、授業で行った内容を整理する。			
	第7回	内容	音楽を使った遊び3：歌を伴う遊びを経験する	予習	歌の練習をする。			
				復習	活動の振り返りを記録にし、授業で行った遊びを覚える。			
	第8回	内容	わらべうたによる保育の実際（外部講師）	予習	これまでに学習した幼児のわらべうたについて復習しておく。			
				復習	授業を振り返り、学んだことを記録し、考察する。			
	第9回	内容	音楽表現の基礎1：発表の企画（グループワーク）	予習	どのような発表ができるか考える。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第10回	内容	音楽表現の基礎2：発表の練習（グループワーク）	予習	発表の内容を練習する。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第11回	内容	音楽表現の基礎3：発表のリハーサル（グループワーク）	予習	前時の反省をふまえ、発表の内容を練習する。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第12回	内容	音楽表現の応用1：発表内容の再検討（グループワーク）	予習	前時の反省をふまえ、改善点を考える。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第13回	内容	音楽表現の応用2：発表	予習	発表に向けて練習する。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第14回	内容	音楽表現の応用3：発表をふまえての振り返り（討議）	予習	発表に関わる回のノートを確認し、グループ討議の準備をする。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第15回	内容	まとめ：授業をふまえて、音を楽しむとはどういうことかを考える（討議）	予習	これまでの活動についてノートを確認し、音楽表現の楽しさについてまとめておく。			
				復習	保育における音楽表現の意義について考え、記録し、考察する。			
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題の提出時は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。							

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（20%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的な参加】（30%）
教科書	授業時にプリントを配布する。ファイリングできるようにしておくこと。
参考文献	
補足事項	出欠も評価の対象とする。動きやすさや作業しやすさを考慮した服装で出席すること。30名程度の定員とする。

科目名	健康		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	ひらやま きたほら 平山・北洞
ナバリンクコード	CHS12102		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	子どもにとって健康とは何かを教科書と資料から理解する。また幼稚園教育要領と保育所保育指針を参照して、健康のねらいと内容を学び、子どもの健康を現場でどのように確保促進していくかを理解する。							
到達目標	1. 健康とは何かを理解している。 2. 幼稚園教育要領と保育所保育指針の領域健康のねらいと内容を理解している。 3. 年齢別の領域健康のねらいと内容の違いを理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科(4,5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション。幼稚園と保育園の違い：歴史、役割	予習	シラバスを読んでくる			
				復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする			
	第2回	内容	第1章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ①心身の発育や発達から理解する健康	予習	教科書の第1章①を読んでくる			
				復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする			
	第3回	内容	第1章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ②乳幼児の心身の健康を守る取り組み	予習	教科書の第1章②を読んでくる			
				復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする			
	第4回	内容	第1章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ③健康な生活を守る安全への取り組み	予習	教科書の第1章③を読んでくる			
				復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする			
	第5回	内容	第2章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ①「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」から考える健康	予習	教科書の第2章①を読んでくる			
				復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする			
	第6回	内容	第2章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ②幼稚園教育容量、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育女保育指針における健康の指導	予習	教科書の第2章②を読んでくる			
				復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする			
	第7回	内容	第2章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ③健康の「ねらい」とは～年齢区分によるねらい～	予習	教科書の第2章③を読んでくる			
				復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする			
	第8回	内容	第2章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ④ねらいを達成するための内容と指導計画	予習	教科書の第2章④を読んでくる			
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする				
第9回	内容	第3章乳幼児教育・保育のための「食と生活」の取り組み ①食と健康～食育の推進～	予習	教科書の第3章①を読んでくる				
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする				
第10回	内容	第3章乳幼児教育・保育のための「食と生活」の取り組み ②生活と健康～基本的生活習慣の確立を目指して～	予習	教科書の第3章②を読んでくる				
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする				
第11回	内容	第4章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ①運動あそびの指導計画	予習	教科書の第4章①を読んでくる				
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする				
第12回	内容	第4章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ②総合的な活動	予習	教科書の第4章②を読んでくる				
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする				
第13回	内容	第4章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ③安全な生活のための活動計画	予習	教科書の第4章③を読んでくる				
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする				
第14回	内容	第5章「健康」をめぐる今日の課題 ①子どもの健康をめぐる現代的課題	予習	教科書の第5章①を読んでくる				
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする				
第15回	内容	第5章「健康」をめぐる今日の課題 ②幼保小架け橋期の連続した発展 ③保護者・地域社会との連携や支援 ④予測不能な社会に生きる	予習	教科書の第5章②③④を読んでくる				
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする				
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題は Google クラウドの Google ドキュメントで提出し、その評価とコメントでフィードバックする							

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（20%）、レポート・課題（70%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 積極性 】（10%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 「乳幼児の健康～教育・保育に向けた計画と実践～」（宮下恭子・茗井香保里・平山素子編、大学図書出版）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 「限界を超える子どもたちー脳・身体・障害への新たなアプローチ」（アナット・パニエル、太郎次郎社エディダス）
補足事項	成績評価の筆記試験はとレポート・課題は Google classroomで行います。リモート授業アプリの Google classroom を使える環境を整えること。 予定は予告なく変更することがあり、保育ビデオや現場の保育場面の動画を鑑賞する時間を適宜入れていく。 平山 5 回、北洞 10 回

科目名	人間関係		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸橋 聡美
ナバリングコード	CHS12103		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。領域「人間関係」の指導基盤となる基礎理論として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係のなかで人と関わる力が育つことを理解する。							
到達目標	1. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解している。 2. 園生活における幼児期の人間関係の発達について理解している。 3. 遊びのなかで育つ人との関わりの発達について、乳幼児との関係、保育者との関係、集団のなかでの育ちを観点として説明できる。 4. 自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、それぞれの育ちについて子どもの発達の姿と合わせて説明できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1. 2. 3. 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション、現代社会と幼児の人間関係①幼児期の生活経験（グループワーク）	予習	講義内容を読んでおく	復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	現代社会と幼児の人間関係①現代の幼児の生活（グループワーク）	予習	子どもの定義を考える	復習	人間関係の広義を理解する	
	第3回	内容	現代社会と子どもの人間関係②幼稚園と保育園の子どもたち（ICTの活用）	予習	幼稚園・保育園について調べておく	復習	保育の基本をまとめる	
	第4回	内容	3歳未満児の人間関係の発達①0歳児	予習	子どもの発達を調べておく	復習	0歳児の関わりの発達をまとめる	
	第5回	内容	3歳未満児の人間関係の発達②1・2歳児	予習	1.2歳児の発達を調べておく	復習	1.2歳児の人との関わりの発達をまとめる 小テストの内容を確認する①	
	第6回	内容	3歳以上児の人間関係の発達①3歳児	予習	3歳児の発達を調べておく	復習	小テストの内容を復習する①	
	第7回	内容	3歳以上児の人間関係の発達②4・5歳児	予習	4.5歳児の発達を調べておく	復習	小テストの内容を確認する②	
	第8回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係①乳幼児と遊び（ICT活用）	予習	子どもの遊びを調べる	復習	小テストの内容を復習する②	
	第9回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係②個の育ち	予習	事例プリントを読む	復習	小テストの内容を確認する③	
	第10回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係③集団での育ち（グループワーク）	予習	集団の形成について調べる	復習	小テストの内容を復習する③	
	第11回	内容	乳幼児期の自立心の育ち	予習	子どもの心の発達を調べる	復習	小テストの内容を確認する④	
	第12回	内容	幼児期の協同性の育ち	予習	事例を読んでおく	復習	小テストの内容を復習する④	
	第13回	内容	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち	予習	自身の事例をあげる	復習	小テストの内容を確認する⑤	
	第14回	内容	乳幼児を取り巻く人間関係（家庭・地域など）－社会生活との関わりと育ち	予習	身の周り（地域・家族）の事例を考える	復習	小テストの内容を復習する⑤	
	第15回	内容	乳幼児期の人間関係のひろがる場と関係性、まとめ	予習	乳幼児期の人間関係、関係性について考える	復習	乳幼児期の人間関係についてまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題や事例についての解説や説明を行う。小テストのなかで授業内容を再確認する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（40%）、課題（20%）、小テスト（30%）、授業態度【積極的な取り組み】（10%）							
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』、配布プリント 等 『保育内容「人間関係」』（令和6年秋発売予定）							

参考文献	なし
補足事項	

科目名	環境	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	なかむら よういち 中村 陽一
ナバリングコード	CHS12104	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	子どもは家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。本講義は、幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」の内容を理解し、保育者に求められる援助について理解することを目的とする。						
到達目標	1. 子どもの成長にとって望ましい自然体験と保育者の適切な援助方法について理解している。 2. 「環境を通した保育」の意義と、保育者の援助について、自分の考えを述べることができる。 3. 自然と生命を尊重する態度を身につけ、子どもに伝えることができる。 4. 保育内容「環境」と小学校「生活科」の連続性について理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり	予習	幼稚園教育要領 第1章を読む。	復習	「環境を通して行う保育」についての課題
	第2回	内容	領域「環境」のねらいと内容－「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」。	予習	教科書 1～8p を読む。	復習	領域「環境」の概要についての課題
	第3回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室、園舎）。	予習	教科書 11～15p を読む。	復習	類義室の環境に関する課題
	第4回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。	予習	教科書 27～31p を読む。	復習	園庭の環境に関する課題
	第5回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境	予習	教科書 45～47p を読む。	復習	幼稚園教育要領解説 195p を読む。
	第6回	内容	子どもの生活と自然環境②－自然環境と保育実践（自然への気づき・季節感）	予習	教科書 47～54p を読む。	復習	幼稚園教育要領解説 197p を読む。
	第7回	内容	子どもの生活と自然環境③－動物との関わり、飼育動物の特徴と配慮	予習	教科書 54～57p を読む。	復習	幼稚園教育要領解説 66. 67p を読む。
	第8回	内容	子どもの生活と自然環境④－植物の関わり、栽培植物の特徴と配慮、実践例	予習	教科書 57～58p を読む。	復習	幼稚園教育要領解説 199p を読む。
	第9回	内容	子どもの生活と社会①－社会環境と地域性、情報化と保育	予習	教科書 61～67p を読む。	復習	幼稚園教育要領解説 205p を読む。
	第10回	内容	子どもの生活と社会環境②－情報と生活、伝統的な行事との関わり、地域や施設との関わり	予習	教科書 67～75p を読む。	復習	幼稚園教育要領解説 200p を読む。
	第11回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数、子どもの生活と文字	予習	教科書 77～84p を読む。	復習	幼稚園教育要領解説 203p を読む。
	第12回	内容	数量や文字に関する取り扱い②－小学校教育とのつながり	予習	教科書 84～91p を読む。	復習	幼稚園教育要領解説 212p を読む。
	第13回	内容	小学校教育への連続性－保育内容「環境」と小学校教育の「生活科」「総合学習」への連続性	予習	教科書 93～99p を読む。	復習	小学校「生活科」についての課題
	第14回	内容	保育内容「環境」に関わる教育思想の変遷－ペスタロッチ・フレーベル・オウエン・倉橋惣三など。	予習	配布された資料を読む	復習	環境を通した保育思想についてまとめる。
	第15回	内容	グループ討論と発表。 授業の振り返りとまとめ	予習	教科書 123～126p を読む。	復習	「環境を通して行う保育」についてレポートを作成する。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題に対するフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（100%）						
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社） 『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・目良秋子編、建帛社）						
参考文献	なし						
補足事項	必要に応じて、授業の終わりに小レポートを提出する。						

科目名	言葉	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	いざわ えいしゅう 伊澤 永修
カバリングコード	CHS12105	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	人が社会の中で生活するために必要な言葉の意義や機能、乳幼児の言葉の発達過程、言葉の楽しさや美しさなどを映像や事例を通して具体的に学ぶ。また、保育の中で効果的に活用できるように、児童文化財についての教材研究を行い、また、実際に演じることで保育への活かし方について体験的に学ぶ。						
到達目標	1. 「言葉」の意義や機能について理解している 2. 乳幼児の言葉の発達過程について理解している 3. 領域「言葉」のねらいや内容に基づく保育内容について理解している						
学位授与方針	幼児教育学科(1、2、5) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 適切な自己紹介文章の作成方法について理解する	予習	シラバスを読んでおく	復習	この科目で習得できる内容について理解する 自分を効果的に表現できる言葉や文章及び文章の構成について振り返りを行う
	第2回	内容	作成した自己紹介文を用いて自己紹介を行うことで効果的な言葉による伝達方法について理解する 幼児教育の根幹について、保育者の使命や幼児期の特性とともに理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	伝える内容及び適切な伝え方についての振り返りを行う 授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第3回	内容	幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第4回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿それぞれについての理解を深める 主体的・対話的で深い学びについてグループディスカッションを行い自らの考え方を整理する。	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第5回	内容	主体的・対話的で深い学びについて理解する 幼児教育における非認知能力について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第6回	内容	非認知能力の必要性について理解する 乳児保育における3つの視点について理解し、乳児保育の視点と幼児教育の領域の関係性について及び養護と教育の一体性について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第7回	内容	幼児期におけるふさわしい教育とは何かについて理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第8回	内容	幼児教育における環境を通して教育することの意義や目的、方法などについて理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく	復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第9回	内容	現代社会における幼児教育施設の存在意義について理解する 幼児教育の基本と保育者の様々な役割について理解する	予習	幼児教育施設の意義や役割についてまとめておく	復習	授業の内容を踏まえ幼児教育施設の意義や役割についてまとめ、その中で子どもと関わる保育者の役割についてまとめる
	第10回	内容	乳幼児期の言葉の発達について理解する	予習	乳幼児期の言葉の発達について事前に調べておく	復習	乳幼児期の言葉の発達についてまとめる
	第11回	内容	身振り手振りを使ってのグループワークを通して言葉の機能について理解する	予習	言葉の働きや役割についてまとめておく	復習	グループワークで体験したことを振りかえりながら改めて言葉の機能について理解を深める
	第12回	内容	言葉の働きや役割及び言葉と文化の関係性を理解する	予習	前回のグループワークを通して言葉の働きや役割について改めてまとめておく	復習	言葉の働きや機能及び言葉の与える様々な影響についてまとめを行う
	第13回	内容	児童文化と児童文化財についての理解する 乳幼児期のことばの発達を映像視聴から理解を深める(前半)	予習	児童文化財についての下調べをしておく これまで学んだ乳幼児のことばの発達について振り返りをしておく	復習	映像から理解できたことをこれまで学習してきたことと照らし合わせて理解を深める
	第14回	内容	日本語の美しさと魅力について理解する 乳幼児期のことばの発達を映像視聴から理解を深める(後半)	予習	日本語の特徴などについてまとめておく これまで学んだ乳幼児のことばの発達について振り返りをしておく	復習	日本語の美しさや魅力についてまとめる 映像から理解できたことをこれまで学習してきたことと照らし合わせて理解を深める

	第 15 回	内容	オノマトペについて理解する	予習	オノマトペについての下調べをしておく
	復習			効果的なオノマトペの使い方についてまとめる	
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、返却時に解説する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（60%）、授業態度【参加度合】（40%）				
教科書	『事例で学ぶ保育内容』 無藤隆監修 萌文書林				
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館				
補足事項					

科目名	造形表現	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	とよいずみ なおみ 豊 泉 尚美
ナンバリングコード	CHS12106	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	幼児の造形表現について、その発達のと重要性を理解し、幼児の感性や創造性を豊かに育むための表現遊びや環境構成などの専門的な知識・技能を学ぶ。また、幼児の表現を支えるために、自身の感性も大切にしながら表現力を身につける。						
到達目標	1. 幼児期に特徴的な造形表現について理解し、それを受け止めて共感したうえで、造形活動の指導計画が立案できる。 2. 様々な表現の基礎的知識・技能を生かし、幼児の造形表現活動に展開できる。 3. 自然と生命を大切にすることをもち、それを子どもに伝えることができる。						
学位授与方針	幼児教育学科 (2・3・4・5) 地域保育学科 () 文化表現学科 ()						
授業計画	第1回	内容	授業のねらい・進め方について・幼児の造形表現とは	予習	こども園教育・保育要領等の領域「表現」の箇所を読み込んでおく。	復習	幼児の造形表現について、自身の考えをまとめる。
	第2回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (1)自然の色・自然の美しさ (ICT活用)	予習	自然の中にある色の多様性を調べておく。	復習	植物染料を幼児の造形活動で活用する方法をまとめる。
	第3回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (2)自然素材でスタンプング(グループワーク)	予習	幼児が楽しめる造形活動について考えておく。	復習	幼児が造形活動を行う準備と方法をまとめる。
	第4回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (3)自然素材でフロッタージュ・カラージュ	予習	現代美術の描画技法について調べる。	復習	自然素材を使って行う造形活動の方法をまとめる。
	第5回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (4)自然素材を使って描く (ICT活用)	予習	自然の中にある音や風を感じ、その感想 (イメージ) をメモしておく。	復習	幼児の描画活動についてまとめる。
	第6回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (5)自然素材で作る	予習	自然素材を使った造形活動を調べておく。	復習	幼児が制作するための「指導案」を作成する
	第7回	内容	幼児画と造形活動の発達についてー保育事例の映像を通してー (ICT活用)	予習	幼児の手指の発達について調べをする。	復習	幼児画の発達についてまとめる。
	第8回	内容	季節や自然に関わる伝承遊びや行事を学び、制作する (1)春～夏編 (グループワーク)	予習	春から夏の行事について調べておく。	復習	自然に関わる伝承遊びと行事についてまとめる。
	第9回	内容	季節や自然に関わる伝承遊びや行事を学び、制作する (2)秋～冬編 (グループワーク)	予習	秋から冬の行事について調べておく。	復習	自然に関わる伝承遊びと行事についてまとめる。
	第10回	内容	造形表現活動を支える環境構成についてーレヅジョ・エミリアの幼児教育からー (ICT活用)	予習	造形活動を行う環境について考えておく。	復習	レヅジョ・エミリアの幼児教の特徴をまとめる。
	第11回	内容	造形表現のプロジェクト活動についてー共同制作のテーマを決めるー	予習	レヅジョ・エミリアでのプロジェクトについて調べる。	復習	グループで話し合ったことをまとめ、テーマを決める。
	第12回	内容	テーマに沿った制作の準備と制作	予習	制作のための準備をする。	復習	制作過程をまとめ、次回の制作予定を立てる。
	第13回	内容	テーマを共同で制作し、完成する	予習	制作のための準備をしておく。	復習	制作活動の過程をまとめる。
	第14回	内容	プロジェクト活動のドキュメンテーションを作成する	予習	ドキュメンテーションについて調べる。	復習	グループでのプロジェクト活動をまとめる。
	第15回	内容	グループで発表する	予習	グループ発表の準備をする。	復習	発表の様子、感想をまとめる。
	予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題に対して解説を行う。発表後は講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法：レポート・課題 (30%)、作品・発表 (30%)、授業態度【積極的参加・丁寧な制作】(40%)						
教科書	『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』森下英美子・豊泉尚美 著 (圭文社)						
参考文献	『子どもたちの100の言葉』レヅジョ・チルドレン編 (学習研究社) 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 (新潮社)						
補足事項	作品提出の期限を厳守すること。制作活動に積極的に、丁寧に取り組むこと。						

科目名	音楽・身体表現		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しおぎき はせがわ 塩崎・長谷川
ナンバリングコード	CHS12107		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	領域「表現」における音楽・身体表現の指導法に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。また、ICTを活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。							
到達目標	1. 見る・聴く・動くなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができる。 2. 生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができる。 4. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	「表現とは」 領域「表現」のねらい及び内容について理解する	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる	復習	本時の内容についてノートにまとめる	
	第2回	内容	「リズムカルなダンス」 リズムカルなダンスの実践と、グループで創作し、発表をする。	予習	教科書43ページを読んでくる。	復習	グループ討議やまとめの内容をノートまとめる	
	第3回	内容	「架空の世界」を題材にした運動会作品の実践と、グループ創作、発表を行う。	予習	宇宙についての導入を考えてくる。	復習	創作過程、発表後の振り返りを行う	
	第4回	内容	「童謡」や「歌遊び」を題材とした身体表現遊びの実技の実践とまとめ	予習	身体表現へ用いることのできる「歌遊び」を2つ探してくる	復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめる	
	第5回	内容	「絵本と身体表現」 絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる	復習	気に入った絵本で身体表現遊びの活用についてまとめる	
	第6回	内容	「自然と身体表現」 自然を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ創作・発表、討議をする。発表作品を動画で撮影する。	予習	自然観察し、動きに用いることのできる対象物を選び動画、写真などに撮影してくる	復習	本時の発表作品を動画にまとめる。	
	第7回	内容	「生活の中での身体表現」 生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して、豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身表現の題材について考えてくる	復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめ、考察する	
	第8回	内容	「ICTを使った身体表現」 ICTを活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICTの意味について調べ活用方法について考えてくる	復習	活用の仕方、操作の仕方の練習をする	
	第9回	内容	音楽の応用1 多様な音楽表現の方法	予習	授業で指示した資料を確認する	復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする	
	第10回	内容	音楽の応用2 アレンジによる音楽表現の応用	予習	コードネームについて確認する	復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする	
	第11回	内容	音楽表現の展開1 幼児の豊かな表現力と音楽的な資質・能力を養うための教材選択	予習	授業で指示した資料を確認する	復習	教材選択の観点について考察し記録する	
	第12回	内容	音楽表現の展開2 童謡を用いた総合的な表現活動の展開	予習	授業で支持した課題に取り組む	復習	経験した総合的な表現活動について記録する	
	第13回	内容	音楽と身体表現の出会い 音と体を使って表現を楽しむ、工夫する	予習	発表の題材について考えてくる	復習	本時の内容をまとめ、次時の課題を考えてくる	
	第14回	内容	様々な表現方法を用いて 様々な表現を集めて小作品を創作する	予習	音楽、動きについて考えてくる	復習	発表作品の練習課題についてまとめる	
	第15回	内容	学習のまとめを発表する	予習	発表作品の練習をする	復習	ノートのまとめをし、考察する	
予習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。								
課題へのフィードバック	ノートや課題提出の際は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的参加、出席状況】（20%）							

教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』(塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推誠舎)
参考文献	『乳幼児・児童の運動あそび・表現あそび からだとところを育む指導法』(宮下恭子編著、大学図書出版)
補足事項	身体表現の授業では、学校指定のジャージを着用のこと。 塩崎 (9回)、長谷川 (9回)

科目名	音楽・身体表現		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しおぎき まるやま 塩崎・丸山
ナバリンクコード	CHS12107		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	領域「表現における音楽・身体表現の指導法に関する乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かに表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。また ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。							
到達目標	1. 見る・聴く・動くなど様々な素材を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2. 生活の中での出来事を様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるように発展させることができている。 4. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	「表現とは」 領域「表現」のねらい及び内容について理解する	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる	復習	本時の内容についてノートにまとめる	
	第2回	内容	「童謡」や「歌遊び」を題材とした身体表現遊びの実技の実践とまとめ	予習	身体表現へ用いることのできる「歌遊び」を2つ探してくる	復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめる	
	第3回	内容	音楽の応用1 多様な音楽表現の方法	予習	授業で指示した資料を確認する	復習	経験した音楽表現法を記録し、振り返りをする	
	第4回	内容	「乳幼児の表現」 保育者として受け止める視点についてグループ討議し、その大切さについて考える	予習	乳幼児期の表現の特徴について、調べる	復習	グループ討議やまとめの内容をノートにまとめる	
	第5回	内容	「身体表現とは」 豊かな表現を引き出すための保育者の役割や、題材について討議する。	予習	身体表現遊びの題材について調べてくる	復習	身体表現の題材についてまとめる	
	第6回	内容	音楽の応用2 アレンジによる音楽表現の応用	予習	コードネームについて確認する	復習	経験した音楽表現法を記録し、振り返りをする	
	第7回	内容	音楽表現の展開1 幼児の豊かな表現力と音楽的な資質・能力を養うための教材選択	予習	授業で指示した資料を確認する	復習	教材選択の観点について考察し記録する	
	第8回	内容	音楽表現の展開2 童謡を用いた総合的な表現活動の展開	予習	授業で指示した課題に取り組む	復習	経験した総合的な表現方法について記録する	
	第9回	内容	「絵本と身体表現」 絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる	復習	気に入った絵本で身体表現遊びの活用についてまとめる	
	第10回	内容	「自然と身体表現」 自然と題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議・発表、討議する。発表作品を動画で撮影する。	予習	自然観察し、動きに用いることのできる対象物を選び動画、写真などに撮影してくる	復習	本時の発表作品を動画にまとめる	
	第11回	内容	「生活の中での身体表現」 生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身体表現題材について考えてくる	復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめ、考察する	
	第12回	内容	「ICTを使った身体表現」 ICTを活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICTの意味について調べ活用方法について考えてくる	復習	活用の仕方、操作の仕方を練習する	
	第13回	内容	音楽と身体表現の出会い 音と体を使って表現を楽しむ、工夫する。	予習	発表の題材について考えてくる	復習	本時の内容をまとめ、次時の課題を考えてくる	
	第14回	内容	様々な表現方法を用いて 様々な表現を集めて小作品を創作する	予習	音楽、動きについて考えてくる	復習	発表作品の練習課題についてまとめる	
	第15回	内容	学習のまとめを発表する	予習	発表作品の練習をする	復習	ノートのまとめをし、考察する	
	予習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。							
課題へのフィードバック	ノートや課題提出の際は、コメントを記入し返却する。 発表後は公表を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的参加、出席状況】（20%）							
教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』（塩崎みずほ・小口偉・長谷川恭子、推誠舎）							

参考文献	『乳幼児・児童の運動遊び・表現遊び からだとところを育む指導法（木下恭子編著、大学図書出版）
補足事項	塩崎（15回） 丸山（15回）

科目名	音楽 I		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しかと 鹿戸 一範 他
ナンバリングコード	EDS12101		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な知識や理論、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を組み合わせた形で行う。ピアノ個人レッスンとクラス授業を各45分受講する。							
到達目標	1. 基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 2. 幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3. 保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。							
学位授与方針	幼児教育学科(1.2.5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 授業内容、進め方について			予習	事前にシラバスを読んでおく	
			復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく				
	第2回	内容	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 大学ピアノ教本 No.1~8			予習	大学ピアノ教本 No.1~8の予習	
			復習	大学ピアノ教本 No.1~8の復習				
	第3回	内容	分散和音の伴奏形②・③ 大学ピアノ教本 No.9~16			予習	大学ピアノ教本 No.9~16の予習	
			復習	大学ピアノ教本 No.9~16の復習				
	第4回	内容	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 大学ピアノ教本 No.17~24			予習	大学ピアノ教本 No.17~24の予習	
			復習	大学ピアノ教本 No.17~24の復習				
	第5回	内容	ハ長調の下属和音 大学ピアノ教本 No.25~26			予習	大学ピアノ教本 No.25~26の予習	
			復習	大学ピアノ教本 No.25~26の復習				
	第6回	内容	ハ長調の主和音・下属和音・属和音 大学ピアノ教本 No.27~32			予習	大学ピアノ教本 No.27~32の予習	
			復習	大学ピアノ教本 No.27~32の復習				
	第7回	内容	ト長調の主和音・下属和音・属和音 大学ピアノ教本 No.33~38			予習	大学ピアノ教本 No.33~38の予習	
			復習	大学ピアノ教本 No.33~38の復習				
	第8回	内容	中間発表会(個人発表) いろいろな伴奏形①~④ 大学ピアノ教本 No.39~42			予習	大学ピアノ教本 No.39~42の予習	
			復習	大学ピアノ教本 No.39~42の復習				
第9回	内容	高い音の練習 大学ピアノ教本 No.43~46			予習	大学ピアノ教本 No.43~46の予習		
		復習	大学ピアノ教本 No.43~46の復習					
第10回	内容	3/8拍子と6/8拍子 大学ピアノ教本 No.47~48 生活のうたの弾き歌い①			予習	大学ピアノ教本 No.47~48他の予習		
		復習	大学ピアノ教本 No.47~48他の復習					
第11回	内容	付点4分音符を用いたリズム 大学ピアノ教本 No.49~54 生活のうたの弾き歌い②			予習	大学ピアノ教本 No.49~54他の予習		
		復習	大学ピアノ教本 No.49~54他の復習					
第12回	内容	ハ長調の音階 大学ピアノ教本 No.55~58 生活のうたの弾き歌い③			予習	大学ピアノ教本 No.55~58他の予習		
		復習	大学ピアノ教本 No.55~58他の復習					
第13回	内容	ハ長調の音階 大学ピアノ教本 No.59~61 生活のうたの弾き歌い④			予習	大学ピアノ教本 No.59~61他の予習		
		復習	大学ピアノ教本 No.59~61他の復習					
第14回	内容	ト長調の音階 大学ピアノ教本 No.62~67 生活のうたの弾き歌い⑤			予習	大学ピアノ教本 No.62~67他の予習		
		復習	大学ピアノ教本 No.62~67他の復習					
第15回	内容	これまでの授業のまとめと発表			予習	発表曲の予習		
		復習	指導を受けた点を復習する					
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施(○)する/()しない 成績評価の方法：筆記試験(%)、作品・発表(30%)、実技(60%)、授業態度[積極的な取り組み](10%)							
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』(大学音楽教育研究グループ、教育芸術社) 『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた100』(小林美実 他、チャイルド本社)							
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。							
補足事項								

科目名	音楽Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一範 他
ナバリングコード	EDS12102		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面・遠隔・その他()							
授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な知識や理論、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を組み合わせた形で行う。ピアノ個人レッスンとクラス授業を各45分受講する。							
到達目標	1. 基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 2. 幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3. 保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。							
学位授与方針	幼児教育学科(1.2.5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	臨時記号と半音階 大学ピアノ教本 No.68~69 季節のうた(春) 弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.68~69 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.68~69 他の復習			
	第2回	内容	16分音符を用いたリズム 大学ピアノ教本 No.70~72 季節のうた(春) 弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No.70~72 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.70~72 他の復習			
	第3回	内容	イ短調の主要三和音 大学ピアノ教本 No.73~76 季節のうた(春) 弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.73~76 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.73~76 他の復習			
	第4回	内容	6度・3度の重音 大学ピアノ教本 No.77~78 季節のうた(夏) 弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.77~78 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.77~78 他の復習			
	第5回	内容	3連符 大学ピアノ教本 No.79~80 季節のうた(夏) 弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No.79~80 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.79~80 他の復習			
	第6回	内容	へ長調よりハ長調への転調 大学ピアノ教本 No.81 季節のうた(夏) 弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.81 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.81 他の復習			
	第7回	内容	3度の重音と8度の跳躍 大学ピアノ教本 No.82 季節のうた(秋) 弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.82 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.82 他の復習			
	第8回	内容	弱起の曲 大学ピアノ教本 No.83~84 中間発表会(個人発表)	予習	大学ピアノ教本 No.83~84 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.83~84 他の復習			
第9回	内容	ニ長調・ニ短調の主要三和音 大学ピアノ教本 No.85~86 季節のうた(秋) 弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.85~86 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No.85~86 他の復習				
第10回	内容	装飾音 大学ピアノ教本 No.87~90 季節のうた(冬) 弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.87~90 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No.87~90 他の復習				
第11回	内容	複付点音符 大学ピアノ教本 No.91 季節のうた(冬) 弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No.91 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No.91 他の復習				
第12回	内容	大学ピアノ教本 No.92~94 季節のうた(冬) 弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.92~94 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No.92~94 他の復習				
第13回	内容	マーチ、その他① 大学ピアノ教本 No.95~98	予習	マーチ曲(大学ピアノ教本 No.95~98)の予習				
			復習	マーチ曲(大学ピアノ教本 No.95~98)の復習				
第14回	内容	マーチ、その他② 大学ピアノ教本 No.99~102 園生活のうたの発表 その1	予習	マーチ曲(大学ピアノ教本 No.99~)の予習				
			復習	マーチ曲(大学ピアノ教本 No.99~)の復習				
第15回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	発表曲の予習				
			復習	発表曲の復習				
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施(○)する/()しない 成績評価の方法：筆記試験(%)、作品・発表(30%)、実技(60%)、授業態度[積極的な取り組み](10%)							
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』(大学音楽教育研究グループ、教育芸術社) 『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた100』(小林美実 他、チャイルド本社)							
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。							
補足事項								

科目名	音楽Ⅲ	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一範 他
ナンバリングコード	EDS12201	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	音楽Ⅰ、音楽Ⅱで学んだ子どもの音楽活動を支える基礎技能をもとに、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。クラスを担当する複数の教員より指導を受ける。						
到達目標	1. 音楽Ⅰ、音楽Ⅱで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 2. コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができている。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1. 2. 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	事前にシラバスを読んでおく		
				復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく		
	第2回	内容	園生活のうた 弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	予習	「おはよう」「おはようのうた」の予習		
				復習	「おはよう」「おはようのうた」を復習		
	第3回	内容	園生活のうた 弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	予習	「おべんとう」「おかえりのうた」の予習		
				復習	「おべんとう」「おかえりのうた」の復習		
	第4回	内容	園生活のうた 弾き歌い③ 「さよならのうた」「おかたづけ」「おむねをはりましょ」	予習	「さよならのうた」の予習		
				復習	「さよならのうた」の復習		
	第5回	内容	季節のうた 4月① 他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	予習	「あくしゅでこんにちは」他の予習		
				復習	「せんせいとおともだち」他の復習		
	第6回	内容	季節のうた 4月② 「チューリップ」「ちょうちょう」 小グループに分かれて弾き歌いの発表	予習	「チューリップ」「ちょうちょう」他の予習		
				復習	「ちょうちょう」「めだかの学校」他の復習		
	第7回	内容	季節のうた 5月① 「こいのぼり」「手をたたきましよう」他	予習	「手をたたきましよう」「こいのぼり」他の予習		
				復習	「手をたたきましよう」「こいのぼり」他の復習		
	第8回	内容	季節のうた 5月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	予習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の予習		
				復習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の復習		
第9回	内容	季節のうた 6月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぼったん」他	予習	「あめふりくまのこ」「あまだれぼったん」の予習			
			復習	「あめふりくまのこ」「あまだれぼったん」の復習			
第10回	内容	季節のうた 6月②「とけいのうた」「すてきなパパ」 小グループに分かれて弾き歌いの発表	予習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の予習			
			復習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の復習			
第11回	内容	季節のうた 7・8月① 「たなばたさま」「うみ」「アイスクリームのうた」他	予習	「たなばたさま」「うみ」の予習			
			復習	「たなばたさま」「うみ」の復習			
第12回	内容	季節のうた 7・8月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	予習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の予習			
			復習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の復習			
第13回	内容	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	予習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の予習			
			復習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の復習			
第14回	内容	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	予習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の予習			
			復習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の復習			
第15回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	課題曲の予習			
			復習	課題曲の復習			
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 作品・発表（ 70 %）、実技（ %）、授業態度 [積極的な取り組み]（ 30 %）						
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた100』（小林美実 他、チャイルド本社）						
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。						
補足事項							

科目名	音楽Ⅳ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一範 他
ナンバリングコード	EDS12202		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	音楽Ⅰ～Ⅲで学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。クラスを担当する複数の教員より指導を受ける。							
到達目標	1. 音楽Ⅰ～Ⅲで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 2. コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができている。							
学位授与方針	幼児教育学科(1. 2. 5) 地域保育学科() 文化表現学科()							
授業計画	第1回	内容	季節のうた 9月① 「とんぼのめがね」「つき」「大きなくりの木の下で」他	予習	「とんぼのめがね」「つき」他の予習			
				復習	「とんぼのめがね」「つき」他の復習			
	第2回	内容	季節のうた 9月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他	予習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の予習			
				復習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の復習			
	第3回	内容	季節のうた 10月① 「やきいもグーチャーパー」「きのこ」他	予習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の予習			
				復習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の復習			
	第4回	内容	季節のうた 10月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他	予習	「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」の予習			
				復習	「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」の復習			
	第5回	内容	季節のうた 11月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他	予習	「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」の予習			
				復習	「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」の復習			
	第6回	内容	季節のうた 11月② 「夕やけこやけ」「たきび」「こぎつね」他	予習	「夕やけこやけ」「たきび」他の予習			
				復習	「夕やけこやけ」「たきび」他の復習			
	第7回	内容	季節のうた 12月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他	予習	「あわてんぼうのサンタクロース」他の予習			
				復習	「あわてんぼうのサンタクロース」他の復習			
	第8回	内容	季節のうた 12月② 「ジングルベル」「サンタクロース」他	予習	「ジングルベル」他の予習			
				復習	「ジングルベル」他の復習			
第9回	内容	季節のうた 1月① 「お正月」「雪」他	予習	「お正月」「雪」他の予習				
			復習	「お正月」「雪」他の復習				
第10回	内容	季節のうた 1月② 「雪のこぼろず」「雪のペンキやさん」他	予習	「雪のこぼろず」「雪のペンキやさん」他の予習				
			復習	「雪のこぼろず」「雪のペンキやさん」他の復習				
第11回	内容	季節のうた 2月① 「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他	予習	「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他の予習				
			復習	「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他の復習				
第12回	内容	季節のうた 2月② 「春がきた」「どこかで春が」他	予習	「春がきた」「どこかで春が」他の予習				
			復習	「春がきた」「どこかで春が」他の復習				
第13回	内容	季節のうた 3月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他	予習	「うれしいひなまつり」他の予習				
			復習	「思い出のアルバム」他の復習				
第14回	内容	季節のうた 3月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」	予習	「一年生になったら」他の予習				
			復習	「さよならぼくたちのほいくえん」他の復習				
第15回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	コードネームについての予習				
			復習	コードネームを用いた伴奏の練習				
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/(O)しない 成績評価の方法： 作品・発表(70 %)、実技(%)、授業態度 [積極的な取り組み] (30 %)							
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた100』(小林美実 他、チャイルド本社)							
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。							
補足事項								

科目名	ピアノと幼児の音楽		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一範 他
ナンバリングコード	EDS12203		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いやピアノ曲を中心に学ぶ。また初見演奏や、コードネームを用いた演奏にも取り組み、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、音楽表現力を高めていく。							
到達目標	1. これまでに身につけた知識やピアノ演奏技術を深め、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 2. 教育・保育現場での実践に対応できるよう、初見演奏やコードネームを用いた伴奏付けをすることができている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1. 2. 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 授業内容、進め方について	予習	事前にシラバスを読んでおく			
				復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく			
	第2回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン①	予習	課題曲を選択し譜読みを行う			
				復習	課題曲の復習			
	第3回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン②	予習	課題曲について調べる			
				復習	課題曲の復習			
	第4回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン③	予習	課題曲を練習する			
				復習	課題曲の復習			
	第5回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン④	予習	発表に備え課題曲を仕上げる			
				復習	課題曲の復習			
	第6回	内容	中間発表会	予習	発表で演奏する曲の予習			
				復習	課題曲の復習			
	第7回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑤ コードネームによる伴奏付け①	予習	コードネームの基本構造について調べる			
				復習	課題曲の復習			
	第8回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑥ コードネームによる伴奏付け②	予習	基本的なコードネームを用いて演奏する			
				復習	課題曲の復習			
第9回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑤ コードネームによる伴奏付け③	予習	様々な調性に应用して演奏する				
			復習	課題曲の復習				
第10回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑥ コードネームによる伴奏付け④	予習	コードネームを用いた伴奏を仕上げる				
			復習	課題曲の復習				
第11回	内容	中間発表会	予習	発表で演奏する曲の予習				
			復習	課題曲の復習				
第12回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑩ 初見演奏①	予習	初見演奏について各自調べる				
			復習	課題曲の復習				
第13回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑪ 初見演奏②	予習	各自初見演奏に取り組んでみる				
			復習	課題曲の復習				
第14回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑫ 初見演奏③	予習	これまでのまとめの練習				
			復習	課題曲の復習				
第15回	内容	まとめ・個人発表	予習	最終発表曲の準備				
			復習	発表の振り返りを行う				
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 作品・発表（ 70 %）、実技（ %）、授業態度〔積極的な取り組み〕（ 30 %）							
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた100』（小林美実 他、チャイルド本社）							
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。							
補足事項								

科目名	教育社会学		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	まつき ひさこ 松木 久子
ナンバリングコード	SOE12101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	現代教育が抱える様々な問題や事柄を社会的な視点でとらえ直しながら、これまで当たり前とってきた教育の実態や学校のシステムについて再度、考え直し見つめ直していくための視点を提供していきます。また、日本の社会全体についても考え、今後においてより良くしていくためにはどうすればよいかを共に考えていきたいと思えます。							
到達目標	1. 子どもを取り巻く環境について、自分なりの考えを説明できる 2. ジェンダーをめぐる問題について、自分なりの考えを説明できる 3. 日本社会が抱える問題点について、自分なりの考えを説明できる							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・3・5 ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項について	予習	教育問題について調べてまとめておく			
				復習	理解したことをまとめておく			
	第2回	内容	教育社会学を学ぶこととは何かについて知る	予習	教育社会学について調べまとめておく			
				復習	理解したことをさらに調べまとめる			
	第3回	内容	日本における学校教育の現状	予習	学校をめぐる気になる出来事を調べておく			
				復習	理解したことをまとめる			
	第4回	内容	いじめ自殺について考える	予習	いじめについて調べまとめておく			
				復習	興味をもったことについて調べまとめる			
	第5回	内容	登校拒否と不登校について考える	予習	登校拒否と不登校について調べまとめる			
				復習	理解したことをまとめる			
	第6回	内容	学歴社会の実像と虚像	予習	学歴社会について調べまとめておく			
				復習	興味をもったことについてさらに調べまとめる			
	第7回	内容	グローバル化と教育について考える	予習	グローバル化について調べまとめておく			
				復習	理解したことをさらに調べまとめる			
	第8回	内容	学校の中のジェンダーについて考える	予習	ジェンダーについて調べまとめておく			
				復習	興味をもったことについて調べまとめる			
第9回	内容	メディア社会と教育について考える	予習	メディアについて調べまとめておく				
			復習	理解したことをまとめる				
第10回	内容	生徒－教師の関係について考える	予習	学校用語について調べまとめておく				
			復習	興味をもったことをさらに調べまとめる				
第11回	内容	絵本作家について考える（1）	予習	自分の好きな絵本作家について調べまとめる				
			復習	理解したことをさらに調べまとめる				
第12回	内容	絵本作家について考える（2）	予習	別の絵本作家について自分なりに調べてみる				
			復習	理解したことをさらに調べまとめる				
第13回	内容	幼児教育の普及と早期化について考える	予習	早期教育について調べまとめておく				
			復習	理解したことをまとめる				
第14回	内容	日本の学校や園の今後のあり方について考える	予習	自分の理想とする園や学校像についてまとめる				
			復習	興味をもったことについて調べまとめる				
第15回	内容	まとめ	予習	今まで理解したことをまとめておく				
			復習	興味をもったことについてさらに調べまとめる				
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。								
課題へのフィードバック	数回にわたって小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施するなどして、学生の理解度を把握していこうと思います。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ 50 %）、レポート・課題（ 30 %）、授業態度【発言の頻度等】（ 20 %）							
教科書	特に指定はしません。							
参考文献	授業中に必要に応じて適宜、紹介していきます。							
補足事項	日本社会に渦巻くさまざまな問題について、主体的に食欲に調べ、ニュースや新聞に触れるようにしてほしいと思います。							

科目名	教育方法・技術論		単位数	1	授業時間数	30	担当教員 こまきね たけし 駒木根 剛
ナンバリングコード	EDU12203		授業形態	演習	実務経験		
授業方式	対面 ・ <u>遠隔</u> ・ その他 ()						
授業の内容	幼児が成長するなかで育むべき資質と能力を身につけられるよう、周囲がどのように働きかけるとよいか、指導方法を学ぶと共に指導の立案について検討する。						
到達目標	1. 身体、言葉、表現、科学や算数的理解など幼児が学ぶべき領域や内容について理解している。 2. 1 を幼児が身につけるために具体的な指導方法について理解している。 3. 総合学習やICT（情報通信技術）教育の内容について理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1、3、4 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	子どもの特徴を脳の仕組みや心理学の視点から理解する。	予習	シラバスをよく読むこと。		
				復習	子どもの特長について教科書を読み返す。		
	第2回	内容	子どもの身近な環境を取りあげ、幼児の発達を促すための環境指導法について学ぶ。	予習	子どもの環境とは何か調べる。		
				復習	自ら環境指導法について再度考える。		
	第3回	内容	造形表現の特質と課題を理解し、造形表現の指導方法について学ぶ。	予習	造形表現の特質と課題について調べる。		
				復習	自ら造形表現や指導法について再度考える。		
	第4回	内容	子どもの発達に伴う身体表現について理解するとともに、子どもの表現を引き出す指導方法について学ぶ。	予習	身体表現について調べる。		
				復習	子どもの表現を引き出す指導方法を考える。		
	第5回	内容	新しい時代を生きるための音楽表現や幼児の感性について理解し、指導法を学ぶ。	予習	幼児の感性とは何か調べる。		
				復習	新しい時代の音楽表現について再度考える。		
	第6回	内容	幼児期に発達する言葉の能力、現代における言葉の習得および発達の課題について理解する。	予習	幼児期の言葉の発達について調べる。		
				復習	言葉の習得および発達の課題を読み返す。		
	第7回	内容	幼児の算数的活動の内容について理解し、発達に応じた算数的理解を促すための指導法について学ぶ。	予習	幼児の算数的活動について調べる。		
				復習	算数的理解を促す指導法について考える。		
	第8回	内容	幼児教育における科学の指導の必要性と小学校教育への橋渡し（連携）について学ぶ。	予習	幼児教育における科学とは何か調べる。		
				復習	小学校教育への連携の意義を読み返す。		
第9回	内容	総合学習の理論と実践について学び、指導法を立案し、その立案した指導法をひとに発表できるものに仕上げる。	予習	これまでの指導法について読み返す。			
			復習	自ら総合学習の指導法について再度考える。			
第10回	内容	ICT教育の内容について学び、支援や指導の方法について立案し、立案した指導法を発表できるものに仕上げる。	予習	ICT教育とは何か調べる。			
			復習	自らICT教育の指導法について再度考える。			
第11回	内容	外国諸国の他文化を取り入れたICT保育および教育について学ぶ。	予習	他文化保育とは何か調べる。			
			復習	他文化保育についての自らの考えをまとめる。			
第12回	内容	発達の気になる子ども、障害を抱える子どもへの教育や支援の方法（インクルーシブ教育）について学ぶ。	予習	インクルーシブ教育とは何か調べる。			
			復習	インクルーシブ教育について考えをまとめる。			
第13回	内容	児童虐待について学び、虐待を受けた子どもへの支援方法について学ぶ。	予習	児童虐待の現状について調べる。			
			復習	虐待を受けた子どもへの支援について考える。			
第14回	内容	幼稚園、保育園、小学校教育の連携の必要性を学び、連携の方法について学ぶ。	予習	小学校教育への連携の意義について調べる。			
			復習	小学校教育との連携の方法について考える。			
第15回	内容	保育者として幼児教育の方法と技術をどのように捉えるか検討し、検討した指導法を発表できるものに仕上げる。	予習	これまでの理論や指導法について読み返す。			
			復習	保育者として幼児教育の方法と技術についての重要箇所をまとめる。			
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google classroom から行います。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（ 50 %）、授業態度【動画視聴後の感想や意見】（ 50 %）						
教科書	『実践につながる 新しい幼児教育の方法と技術』（大浦賢治 編著、野津直樹 編著、ミネルヴァ書房、2020年）						
参考文献	『ICTを使って保育を豊かに ワクワクにつながる&広がる28の実践』（秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子編著、中央法規出版、2022年）						
注意事項	授業ノートを作成することをもとめます。ルーズリーフよりも、針金等が入っていないキャンパスノートを使用することを推奨します。						

科目名	教育相談		単位数	2	授業時間数	30	担当教員 みよし ちから 三好 力
ナバリングコード	EDP12203		授業形態	講義	実務経験		
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	幼稚園や学校における教育相談は、心理学の専門家や一部の教師が担うものではなく、学級運営と同じように全ての教師が担当する教育活動の一環として位置づけられている。本講義では、教育相談の理論、技術、キンダー（スクール）カウンセラーの位置づけなどについて概説し、幼稚園や学校（教育現場）における教育相談の役割を理解することを目的とする。						
到達目標	1. 教育現場での生徒指導上の問題に応じ、適切に対応できる。 2. カウンセリングの基本的な理論と態度技術を身につけている。 3. 集団指導に有益な心理的技術について理解している。 4. 教育相談における保護者や地域との連携と関わり、キンダー（スクール）カウンセラー等との連携を理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーションとガイダンス：教育相談とは何か	予習	教育相談についてのイメージを膨らませる		
				復習	教育相談の日本における位置づけを整理する		
	第2回	内容	子どもを支えるために必要な教師の資質とカウンセリングマインド	予習	教師の資質について考えておく		
				復習	カウンセリングマインドを整理する		
	第3回	内容	子ども理解のための心理学——理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための発達心理学的基礎知識	予習	子ども家庭支援の心理学などのノートを確認		
				復習	発達理論に基づき各世代について理解整理する		
	第4回	内容	子ども理解のための心理学——理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための臨床心理学的基礎知識	予習	臨床心理学を漠然とで良いので下調べしておく		
				復習	臨床心理学の有用な技法を整理しておく		
	第5回	内容	発達障害をめぐる諸問題	予習	発達障害について下調べしておく		
				復習	学修した後のギャップを整理しておく		
	第6回	内容	アセスメント——多面的に子どもを理解する視点と方法	予習	子どもに利用するアセスメントツールを調べる		
				復習	アセスメントについての自分の考えをまとめる		
	第7回	内容	心理テスト体験実習	予習	心理テストについて調べる		
				復習	測定されたものについて詳しく調べる		
	第8回	内容	カウンセリング——信頼関係を築き、子どもを援助する方法	予習	カウンセリングについて下調べしておく		
				復習	カウンセリング技法について整理する		
第9回	内容	コンサルテーション——よりよい指導・援助のための協働	予習	コンサルテーションとは何かを調べる			
			復習	コンサルテーションにおける連携を整理する			
第10回	内容	ソーシャルスキル教育やストレスマネジメント教育	予習	自分のストレスマネジメントについて整理する			
			復習	SSTについて整理する			
第11回	内容	教育相談を成立させる現実条件（目標の立て方や進め方）	予習	事前に配布プリントを読み込んでおく			
			復習	教育相談の目標設定について整理する			
第12回	内容	学級経営と学校のリスクマネジメント	予習	学校や園のリスクについて考えておく			
			復習	多くのリスクについて整理しておく			
第13回	内容	「チーム学校」にみる支援体制（他職種連携）、保幼小連携	予習	保幼小連携について大切なことを考えておく			
			復習	他職種連携と保幼小連携について整理する			
第14回	内容	相談事例の検討：いじめ、不登校・不登園、非行などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく			
			復習	ディスカッションした内容をまとめておく			
第15回	内容	相談事例の検討：対人コミュニケーションの問題、発達障害を伴う問題などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく			
			復習	ディスカッションした内容をまとめておく			
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	Google Classroomを用いて課題や小テストのフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（100%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 】（ %）						
教科書	使用しない						
参考文献	絶対役立つ教育相談：学校現場の今に向き合う 藤田哲也他 2017 ミネルヴァ書房 教師のための教育相談の技術 吉田圭吾 2007 金子書房 ほかに						
補足事項	毎回小テストや課題を行う。その他、特別教材として別途500円（予価）を授業中に集金します。						

科目名	教育相談		単位数	2	授業時間数	30	担当教員 いまみず ゆたか 今水 豊
ナバリングコード	EDP12203		授業形態	講義	実務経験		
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。						
到達目標	1. 発達を多角的にとらえることができる 2. 発達の知識と臨床心理学的な知識を援助活動に活かすことができる 3. 相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解している						
学位授与方針	幼児教育学科（ 3.5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	I 教育相談とは何か ①相談の必要性	予習	相談やカウンセリングについて考える		
				復習	教育相談の意義を理解する		
	第2回	内容	I 教育相談とは何か ②相談のながれ 相談の体験グループワーク	予習	相談場面を想像する		
				復習	相談のパターンを理解する		
	第3回	内容	II 子どもの発達の特徴 ①発達の表の作成 (身体・運動・言語の発達)	予習	左記の子どもの発達について考える		
				復習	表を通して発達の特徴を理解する		
	第4回	内容	II 子どもの発達の特徴 ②発達の表の作成 (認知・親子関係の発達)	予習	左記の子どもの発達について考える		
				復習	表を通して認知の発達を理解する		
	第5回	内容	II 子どもの発達の特徴 ③発達の表の作成 (親子関係の発達)	予習	母子関係の発達について考える		
				復習	表を通して人間関係の発達を理解する		
	第6回	内容	II 子どもの発達の特徴 ④発達の表の作成 (社会心理的発達)	予習	身体から親子関係までの発達を把握する		
				復習	表を通じて子どもの発達を多角的に理解する		
	第7回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ①発達障害の実際	予習	発達障害の記事や話題を調べる		
				復習	発達障害の実際を理解する		
	第8回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ②特別支援教育	予習	義務教育の支援について調べる		
				復習	義務教育の支援を把握する		
第9回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ③養育者の実際	予習	養育者の苦労を考える			
			復習	障害受容について理解する			
第10回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ④虐待	予習	虐待の記事や話題を調べる			
			復習	虐待の心理的影響を把握する			
第11回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ⑤大震災とPTSD	予習	東日本大震災当時を思い起こす			
			復習	PTSDについて理解する			
第12回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ⑥心のケアの実際	予習	震災が子どもに及ぼす影響を考える			
			復習	子どもの反応と対応を理解し、その時に備える			
第13回	内容	IV 相談の実際 ①教育相談の意義	予習	連携する相談機関を調べる			
			復習	教育相談の利点を理解する			
第14回	内容	IV 相談の実際 ②遊戯療法	予習	遊戯療法について調べる			
			復習	遊戯療法の利点を理解する			
第15回	内容	IV 相談の実際 ③教育相談の実践	予習	上記授業の総復習			
			復習	子どもの見立てについて理解する			
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。 テスト・レポートについては、実施後に答え合わせ、解説、紹介等のフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（%）、実技（%）、授業態度【積極的参加】（20%）						
教科書	とくになし						
参考文献	都度紹介する						
補足事項	教育相談では、保護者の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかりと聞き理解するという構えを求める。						

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)		単位数	2	授業時間数	30	担当教員 おおくま まるはし 大熊・丸橋 他
ナバリングコード	EDU12204		授業形態	演習	実務経験		
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	これまでの教育に関する科目および教職に関する科目の学修や実習経験を踏まえ、保育士・幼稚園教諭として必要な学びを振り返り、将来の教職生活のために自己課題を見つける。 尚、学生が主体的に学ぶことを基本とし、これまで履修してきた科目や実習とのつながりを理解し、保育を総合的に捉えることができるよう演習を展開する。						
到達目標	<p>幼児教育学科のディプロマポリシーに照らして、本演習を通して保育士・幼稚園教諭として必要な以下の資質能力を身につけている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育学・保育学の知識と技能をしっかりと習得している。 2. コミュニケーション能力があり、周囲の人と協調することができる。 3. 子どもを取り巻く環境や社会問題を理解し、自ら課題を見つけ取り組むことができる。 4. 自然と生命を大切にする心を持ち、それを子どもに伝えることができる。 5. 自分を生き生きと表現し、他者の表現を受け入れることができる。 						
学位授与方針	幼児教育学科(1. 2. 3. 4. 5) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	保育・教職実践演習の授業の進め方について これまでの学修の振り返り	予習	この授業についてシラバスを読んでおく。		
				復習	授業の概要をまとめる。		
	第2回	内容	保育者の役割・職務内容・子どもに対する責任等について (1)講義・レポート	予習	保育者の役割・職務内容について調べる。		
				復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。		
	第3回	内容	保育者の役割・職務内容・子どもに対する責任等について (2)グループワーク	予習	グループワークに必要な情報をまとめる。		
				復習	グループワークの内容をまとめる。		
	第4回	内容	学級経営、学級経営案の作成について(講義・レポート)	予習	学級経営について調べてくる。		
				復習	授業内容を振り返り、レポートを書く。		
	第5回	内容	子ども理解の方法と実際について (講義・グループワーク・レポート)	予習	子ども理解の方法について調べる。		
				復習	授業を振り返り、レポートを書く。		
	第6回	内容	組織の一員としての自覚(講義・レポート)	予習	組織で協働することについて調べる。		
				復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。		
	第7回	内容	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について (グループワーク・ロールプレイ)	予習	保護者や地域関係者との交流について調べる。		
				復習	グループワーク・ロールプレイを振り返り、まとめる。		
	第8回	内容	幼稚園・保育園の安全管理について (講義・グループワーク)	予習	実習園での安全管理について調べる。		
				復習	授業を振り返り、まとめる。		
第9回	内容	子どもを取り巻く環境、子育てに関する社会問題について (講義・レポート)	予習	子どもを巡る社会問題について調べる。			
			復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。			
第10回	内容	感性と認識についてのフィールドワーク(自然保育実習)	予習	幼児の感性について調べる。			
			復習	自然保育実習を振り返り、レポートを書く。			
第11回	内容	保育内容と保育方法について(グループワーク)	予習	保育内容と保育方法について調べる。			
			復習	グループワークを振り返り、まとめる。			
第12回	内容	保育における活動を計画する。(グループワーク)	予習	保育における様々な活動を調べる。			
			復習	話し合った計画についてまとめる。			
第13回	内容	保育における活動を実践する。(ロールプレイ)	予習	グループでの計画を実践するための材料を準備し、方法を調べる。			
			復習	実践したことを振り返り、まとめる。			
第14回	内容	保育者の専門性について(グループワーク・レポート)	予習	保育者の専門性について確認する。			
			復習	グループワークの内容をまとめる。			
第15回	内容	授業全体の振り返り・資質能力の確認	予習	学科のディプロマポリシーを読み、自己課題を考える。			
			復習	授業全体を振り返り、自己課題をまとめる。			
予習に要する学習時間：概ね 15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	各回の担当者が課題への取り組みまたは発表後に講評を行う。						
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法： レポート・課題(30%)、作品・発表(40%)、授業態度【積極的参加】(30%)</p>						

教科書	各担当教科の指示による
参考文献	なし
補足事項	オムニバス形式での授業（幼児教育学科全専任教員で担当）。各回の授業担当教員が異なるため、欠席回数の把握に注意すること。

科 目 名	保育所実習 I	単 位 数	2	授業時間数	90	担当教員	おぐち せき 小口・関
ナンバリングコード	CHS12108	授業形態	実習	実務経験	有		
授 業 の 内 容	<p>これまでに講義、演習で学んだ内容を基礎として、保育所保育や子ども、保育所の機能・役割、保育士の職務内容について、実際の保育の場で観察・参加実習をすることで理解を深める。実習中は課題を明確にし、日誌へ記録し考察をする。</p> <p>保育所実習のうち保育所実習 I は前期実習となる。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の1日の流れを理解している。 2. 保育所の役割や機能について理解している。 3. 保育士の職務内容を理解している。 4. 観察、参加実習を通して子どもとの関わりを通して子どもを理解している。 						
学位授与方針	幼児教育学科（ 2、5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回 実習施設について理解する 第2回 保育所における一日の流れを学ぶ 第3回 観察と記録により子どもを理解する 第4回 子どもの生活と遊びについて学ぶ 第5回 子どもの発達過程を理解し援助や関わり方を学ぶ 第6回 保育計画や発達過程に応じた保育内容を学ぶ 第7回 保育の環境について学ぶ 第8回 安全への配慮について学ぶ 第9回 保育者の個々の子どもへの対応について学ぶ 第10回 保育士の業務内容や役割分担、連携方法について学ぶ 第11回 保育士の役割と職業倫理について学ぶ 第12回 反省会を通し実習を振り返る						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：実習（80%）、レポート・課題（10%）、日誌等書類作成（10%）						
教科書							
参考文献	『保育所保育指針<平成29年告示>』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説 平成30年3月』（厚生労働省、フレーベル館）						
補足事項	実習関係書類の提出遅延、実習中の怠惰等があった場合は本学「実習派遣規制」により実習の中止等があり得るので注意すること。						

科目名	施設実習	単位数	2	授業時間数	90	担当教員	しのはら みよし 志濃原・三好
ナンバリングコード	SWS12204	授業形態	実習	実務経験	有		
授業の内容	<p>施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について実際に学習する。</p> <p>保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、障害者支援施設等で実践するものである。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 居住型及び通所型児童福祉施設等の利用者の生活が理解している。 2. 居住型及び通所型児童福祉施設等の保育士の役割について理解している。 3. 居住型及び通所型児童福祉施設等の機能が理解している。 						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 2, 3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の目的・機能の理解①（一日の生活の理解） 2. 実習施設の目的・機能の理解②（利用児・者についての理解） 3. 実習施設の人的・物的環境の理解①（施設職員の役割・協働について） 4. 実習施設の人的・物的環境の理解②（施設の物的環境について） 5. 施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①（利用者の生活実態の把握） 6. 施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②（利用者への援助） 7. 施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③（利用者への援助のための間接業務） 8. 保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①（施設で働く保育士の役割） 9. 保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②（保育士と他職種との連携） 10. 施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解 11. 反省会・まとめ① 12. 実習施設の役割の理解 13. 実習施設の社会的機能の理解 14. これからの施設の在り方への考察 15. 反省会・まとめ② 						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（80%）、レポート・課題（10%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（10%）						
教科書	なし						
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。						
補足事項	<p>「福祉施設実習指導」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。</p> <p>また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。</p>						

科目名	保育所実習Ⅱ	単位数	2	授業時間数	90	担当教員	おぐち せき こやま 小口・関・小山
ナンバリングコード	CHS12211	授業形態	実習	実務経験	有		
授業の内容	<p>具体的な実践を通して、保育所の役割や機能、保育の理解を深める。さらに、これまでの実習での学びを踏まえ、保育・子育て支援・保育の計画や記録等について実際に取り組み、理解を深める。</p> <p>保育士業務内容や職業倫理について実践的な経験を通して理解し、自己の課題を明確化する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅰでの保育所実習の経験を活かし実習に積極的に取り組むことができる。 2. 保育技術が向上し、保育士として乳幼児に対するより適切な保育を行うことができる。 3. 保育所の保育内容と子どもの成長や発達との関連性を理解し、実践的に保育の本質を理解している。 4. 職員間の連携・チームワークの重要性を理解している。 5. 保護者対応の仕方や保育所の地域との関わり方を具体的に理解している。 						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1.2.3.4.5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の援助や関わり (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 (3) 関係機関や地域社会との連携 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の義務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化 						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：実習施設による評価（50%）、実習日誌の評価（30%）、個人面談等（20%）						
教科書	なし						
参考文献	なし						
補足事項	実習関係書類の提出遅延、実習中の怠惰等があった場合は本学「実習派遣規制」により、実習の中止等があり得るので注意すること。						

科目名	保育所実習指導 I		単位数	1	授業時間数	40	担当教員	おぐち せき 小口・関
ナンバリングコード	CHS12109		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	保育所実習に必要な知識や技術を学ぶ。保育所実習の目的、内容、方法、実習施設の機能を学ぶとともに、手続書類の作成等について指導を行う。実習に対する課題を立て、事後の学習目標を明確にしていくことで今後の実習に対する意欲を高める。							
到達目標	1. 保育所実習の意義・目的・内容を理解している。 2. 実習の計画、実践、観察、評価の方法について理解し実践できる。 3. 事前準備として、目的を明確にした上で課題に取り組むことができる。 4. 事後指導の実習の統括と自己評価から、今後の課題と目標を明確にしている。							
学位授与方針	幼児教育学科 (1, 2, 3, 4, 5) 地域保育学科 () 文化表現学科 ()							
授業計画	第1回	内容	保育所実習の意義を知る	予習	「保育施設とは」ノートにまとめる			
				復習	授業内容を振り返り、ノートにまとめる			
	第2回	内容	保育所実習 I、IIの目的を理解する	予習	保育所実習の目的を考える			
				復習	授業内容を踏まえて、自分自身の実習の目的を考える			
	第3回	内容	保育実習 Iの目的を理解する	予習	事前に配布する資料を読む			
				復習	前期実習の目的を考えノートにまとめる			
	第4回	内容	保育所前期実習参加の心得を知る	予習	実習の注意事項を考える			
				復習	前期実習の心得をノートにまとめる			
	第5回	内容	実習手続き書類の作成指導 (配当資料の作成)	予習	事前の配布資料を読む			
				復習	清書をする(次回授業提出)			
	第6回	内容	実習手続き書類の作成指導 (調査書の作成)	予習	事前の配布資料を読む			
				復習	清書をする(次回授業提出)			
	第7回	内容	参加・観察実習の留意点を知る	予習	事前の配布資料を読む			
				復習	参加・観察実習の留意点をノートにまとめる			
	第8回	内容	保育所の一日の流れを知る	予習	事前の配布資料を読む			
				復習	保育所の一日の流れをノートにまとめる			
	第9回	内容	実習日誌の作成指導 1 実習開始前に必要な記入事項の説明	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく			
				復習	必要事項を日誌に記入する			
	第10回	内容	実習日誌の作成指導 2 実習課題の立て方	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく			
				復習	実習課題を考える			
第11回	内容	実習日誌の作成指導 3 時系列記録による記録方法の理解 1	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく				
			復習	記録方法をノートに整理する				
第12回	内容	実習日誌の作成指導 4 時系列記録による記録方法の理解 2	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく				
			復習	記録方法をノートに整理する				
第13回	内容	実習日誌の作成指導 5 時系列記録による記録方法の理解 3	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく				
			復習	記録方法をノートに整理する				
第14回	内容	実習日誌の作成指導 6 エピソード記録による記録方法の理解	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく				
			復習	記録方法をノートに整理する				
第15回	内容	実習日誌の作成指導 7 振り返り等の書き方の理解	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく				
			復習	記録方法をノートに整理する				
第16回	内容	部分実習指導計画案作成指導	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく				
			復習	指導計画案を作成する				
第17回	内容	実習オリエンテーションについて理解する	予習	事前配布資料を読んでおく				
			復習	オリエンテーションの注意事項をノートにまとめる				
第18回	内容	持ち物、身だしなみ等、実習の諸注意について	予習	事前配布資料を読んでおく				
			復習	諸注意事項をノートにまとめる				
第19回	内容	実習の評価の観点と訪問指導を理解する	予習	事前配布資料を読んでおく				
			復習	訪問指導についての必要性をノートにまとめる				
第20回	内容	実習の総括と自己評価	予習	これまでの授業のノートを見直す				
			復習	実習指導 I から学んだ事をノートにまとめる				

	第 21 回	内容	評価面談 1	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 22 回	内容	評価面談 2	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 23 回	内容	評価面談 3	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 24 回	内容	評価面談 4	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 25 回	内容	評価面談 5	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 26 回	内容	評価面談 6	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 27 回	内容	評価面談 7	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 28 回	内容	評価面談 8	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 29 回	内容	評価面談 9	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 30 回	内容	まとめ、日誌の返却、講評	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	授業内で課題への補足説明を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（60％）、授業態度【積極的な参加】（40％）				
教科書	『パターンと練習問題でだれでも書けるようになる！保育実習日誌・指導案』（浅井拓久也、明治図書出版）				
参考文献	『保育所保育指針<平成 29 年告示>』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（厚生労働省、フレーベル館）				
補足事項	小口（30 回）塩崎（30 回）小山（30 回）				

科目名	施設実習指導		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しのはら みよし 志濃原・三好
ナバリングコード	SWS12205		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	<p>この授業は、施設実習の前に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。</p> <p>実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。</p>							
到達目標	<p>1. 実習施設について理解を深めている。</p> <p>2. 実習課題が設定できる。</p> <p>3. 自己の適性を理解している。</p>							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション（履修上の諸注意）	予習	シラバスを確認する			
				復習	履修上の諸注意を確認する			
	第2回	内容	施設実習の意義の理解	予習	実習の手引きを一読する			
				復習	実習の手引きを確認しながら理解を深める			
	第3回	内容	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	予習	配当の確認をする			
				復習	配当の施設について調べる			
	第4回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（乳児院）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする			
				復習	感想文を書く			
	第5回	内容	実習生調書の作成	予習	実習生調書下書き			
				復習	実習生調書を直す			
	第6回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（児童養護施設）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする			
				復習	感想文を書く			
	第7回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害児関連施設）	予習	障害児への知識を確認する			
				復習	感想文を書く			
	第8回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害者関連施設）	予習	障がい者福祉の知識を確認する			
				復習	感想文を書く			
	第9回	内容	各施設への実習前訪問と諸注意	予習	実習先の概要を確認する			
				復習	実習先への交通経路等の確認をする			
	第10回	内容	外部講師の話	予習	実習への心構えを考えておく			
				復習	感想文を書く			
	第11回	内容	実習日誌の書き方	予習	実習日誌を一読する			
				復習	日誌の記入方法等を確認する			
	第12回	内容	実習関係書類作成、細菌検査、実習課題について	予習	提出書類の記入及び準備をする			
				復習	書類の確認・実習課題の整理をする			
	第13回	内容	実習に向けての諸注意	予習	実習に向けて準備を整える			
				復習	諸注意の確認をする			
	第14回	内容	実習概要報告書の作成（書き方の説明）	予習	提出物・書類の確認、報告書の下書きをする			
				復習	報告書の作成、実習の振り返りと自己評価			
	第15回	内容	実習概要報告ビデオの作成（オンライン）	予習	報告ビデオの作成			
				復習	報告ビデオの提出			
	第16回	内容	評価面談1	予習	自己評価と省察			
				復習	実習の振り返りと自己評価			
	第17回	内容	評価面談2	予習	自己評価と省察			
				復習	実習の振り返りと自己評価			
	第18回	内容	評価面談3	予習	自己評価と省察			
				復習	実習の振り返りと自己評価			
	第19回	内容	評価面談4	予習	自己評価と省察			
				復習	実習の振り返りと自己評価			

	第 20 回	内容	評価面談 5	予習	自己評価と省察
				復習	
	第 21 回	内容	評価面談 6	予習	
				復習	
	第 22 回	内容	評価面談 7	予習	
				復習	
	第 23 回	内容	評価面談 8	予習	
				復習	
	第 24 回	内容	評価面談 9	予習	
				復習	
	第 25 回	内容	実習を振り返って	予習	
				復習	
	第 26 回	内容	まとめ、日誌の返却、講評	予習	
				復習	
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	実習の評価面談、及び反省を通して、フィードバックする				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（ 30%）、作品・発表（ 20%）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（ 50%）				
教科書	『施設実習』（立花直樹他著者、ミネルヴァ書房）				
参考文献	『保育福祉小六法 2023 年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）				
補足事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。				

科目名	保育所実習指導Ⅱ		単位数	1	授業時間数	40	担当教員	おぐち せき こやま 小口・関・小山
ナンバリングコード	CHS12212		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	保育所実習に必要な知識や技術を学ぶ。保育所実習の目的、内容、方法、実習施設の機能を学ぶとともに、手続き書類の作成等について指導を行う。 実習に対する課題を立て、無地後の学習目標を明確にしていくことで今後の実習に対する意欲を高める。							
到達目標	1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解している。 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力が身についている。 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して検討できる。 4.保育士の専門性と職業倫理について理解している。 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1.2.3.4.5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	保育所実習指導Ⅱの目的と概要 事例から学ぶ 実習事例報告・検討会	予習	シラバスを確認する			
				復習	実習概要についてまとめる			
	第2回	内容	保育実習の振り返り及び課題について検討する	予習	保育実習Ⅰの振り返り、反省をまとめる			
				復習	事例報告をまとめ、課題をシートに記入する			
	第3回	内容	実習の意義と目的の理解・実習課題の明確化	予習	保育実習Ⅱの実習課題を考える			
				復習	実習課題をまとめる			
	第4回	内容	部分実習・責任実習指導計画作成の準備① 模擬授業①②③の準備(グループワーク)	予習	模擬授業①②③の内容を考える・調べる			
				復習	模擬授業の準備・部分実習案の作成			
	第5回	内容	部分実習・責任実習指導計画作成の準備① 模擬授業①の準備(グループワーク)	予習	模擬授業①の内容を考える・調べる			
				復習	模擬授業①の準備・部分実習案の作成			
	第6回	内容	模擬授業①	予習	模擬授業①の準備・部分実習案の作成			
				復習	模擬授業①の振り返りを行う			
	第7回	内容	部分実習・責任実習指導計画作成の準備② 模擬授業②の準備(グループワーク)	予習	模擬授業②の内容を考える・調べる			
				復習	模擬授業②の準備・部分実習案の作成			
	第8回	内容	模擬授業②	予習	模擬授業②の準備・部分実習案の作成			
				復習	模擬授業②の振り返りを行う			
	第9回	内容	部分実習・責任実習指導計画作成の準備③ 模擬授業③の準備(グループワーク)	予習	模擬授業③の内容を考える・調べる			
				復習	模擬授業③の準備・部分実習案の作成			
	第10回	内容	模擬授業③	予習	模擬授業③の準備・部分実習案の作成			
				復習	模擬授業③の振り返りを行う			
	第11回	内容	保育実習Ⅱに必要な書類の準備	予習	実習に必要な書類を用意する			
				復習	実習園に提出する書類を作成する			
	第12回	内容	模擬授業④⑤の準備(グループワーク)	予習	模擬授業④⑤の内容を考える・調べる			
				復習	模擬授業の準備・部分実習案の作成			
	第13回	内容	模擬授業④	予習	指導案を確認し、模擬授業の練習を行う			
				復習	模擬授業④の振り返りを行う			
	第14回	内容	模擬授業⑤	予習	指導案を修正し、模擬授業の練習を行う			
				復習	模擬授業⑤の振り返りを行う			
	第15回	内容	実習日誌の書き方① 目的と概要	予習	保育所実習Ⅰの日誌を確認する			
				復習	保育所実習Ⅱで求められていることを考える			
	第16回	内容	実習日誌の書き方② エピソード記録	予習	保育所実習Ⅰの日誌を確認する			
				復習	エピソード記録のワークに取り組む			
	第17回	内容	実習日誌の書き方③ エピソード記録を中心とした実習日誌の書き方	予習	保育所実習Ⅰの日誌を確認する			
				復習	エピソード記録のワークに取り組む			
	第18回	内容	実習前の心構え・実習における諸注意①	予習	心構え等をまとめる			
				復習	守秘義務・マナー等の再確認 持ち物確認			
第19回	内容	実習前の心構え・実習における諸注意②	予習	保育実習Ⅱの課題シートを確認する				
			復習	保育実習Ⅰの振り返りと保育実習Ⅱの課題の確認				

第20回	内容	保育所実習Ⅱを振り返る	予習	実習を振り返り、自己評価を行う
			復習	自己評価シートを記入する
第21回	内容	自己評価と実習の総括 グループワーク① パワーポイント発表練習	予習	実習を振り返り、自己評価を行う
			復習	グループワークで行ったことをまとめる
第22回	内容	自己評価と実習の総括 グループワーク② パワーポイント発表練習	予習	実習を振り返り、自己評価を行う
			復習	パワーポイントを作成する
第23回	内容	自己評価と実習の総括 グループワーク③ パワーポイント発表練習	予習	パワーポイントを修正する
			復習	パワーポイント発表練習を行う
第24回	内容	自己評価と実習の総括 発表	予習	パワーポイント発表練習を行う
			復習	発表後の感想をまとめる
第25回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する
第26回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する
第27回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する
第28回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する
第29回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する
第30回	内容	まとめ 日誌の返却 講評	予習	自己評価シートのまとめを書く
			復習	自己評価を考察する
予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。				
課題へのフィードバック	個人面談等で実習に関する評価を伝える。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題・指導案（50%）、発表（25%）、授業態度【積極的参加】（25%）			
教科書	ISBN 978-4-89347-398-1『保育実習(仮題)』萌文書林 2023年発行 『実習の手引き』（秋草学園短期大学・実習委員会）			
参考文献	『パターンと練習問題でだれでもかけるようになる!保育実習日誌・指導案』（浅井拓久也編著、明治図書） 『保育所保育指針』（厚生労働省、フレーベル館）			
補足事項				

科目名	教育実習 I	単位数	2	授業時間数	90	担当教員	おおくま しおぎき 大熊・塩崎
ナンバリングコード	EDU12105	授業形態	実習	実務経験	有		
授業の内容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必修科目である。これまで学んできた学校での理論を統合的に整理し、保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。教育実習 I（前期教育実習）では、保育活動に直接参加する前段階として、子どもや保育者の活動を見学・観察し、客観的に記録する見学・観察実習と、保育活動に加わり、体験を通して保育の営みについて学ぶ参加実習を行う						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義を理解し、課題を持ち実習に臨むことができている。 2. 幼稚園の機能や活動内容を理解し、幼稚園教育の場を統合的に理解している。 3. 実習を通し、社会人としてのマナー、保育者としての使命感を認識することができている。 						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・3・4・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	<p>○前期教育実習：見学・観察・参加実習</p> <p>幼稚園で生活する子どもや保育者の日々の営みについて、見学・観察をする。また、子どもの実態や保育内容、保育者の職務等について理解を深める。具体的には、以下の 5 つのねらいを持ち 10 日間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 一日の保育の流れを理解する。 (2) 子どもの生活実態と活動の様子を理解する。 (3) 保育者の職務内容や保育活動について理解する。 (4) 保育者としての自覚・態度を確認する。 (5) 今後の学習の目標や自己課題について確認する。 						
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>成績評価の方法： 実習園による評価（ 50 %）日誌（ 50 %）</p>						
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）						
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）						
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育実習指導 I」を履修し、準備をすると同時に実習生としてふさわしい言動を心がけること。 2. 実習関係書類の提出期限は厳守すること。 3. 「実習派遣規制」に基づき、実習の停止、中止等が行われる場合があるため注意すること。 						

科目名	教育実習Ⅱ	単位数	2	授業時間数	90	担当教員	おおくま いざわ 大熊・伊澤
ナンバリングコード	EDU12205	授業形態	実習	実務経験	有		
授業の内容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必修科目である。これまで学んできた学校での理論を統合的に整理し、保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。前期実習での学びを通し、後期実習では、幼稚園での子どもの生活や保育者の日々の営みについてさらに理解を深め、幼稚園教諭（保育者）として必要な技術を習得していく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義を理解し、課題を持ち実習に臨むことができている。 2. 幼稚園の機能や活動内容を理解し、幼稚園教育の場を統合的に理解している。 3. 実習を通し、社会人としてのマナー、保育者としての使命感を認識することができている。 						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1、2、3、5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授業計画	<p>○後期教育実習：参加・指導実習</p> <p>前期実習での体験、大学で学んだ理論や技術を基に、幼稚園教育の場を統合的に理解する。また、実習生が主体となって指導する実践体験を積み重ねることにより、保育者論や指導技術の向上を図る。具体的には以下の3つのねらいを持ち、10日間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園の機能や活動内容を理解する。 (2) 大学で学んだ理論や技術と実践との関連性を確認する。 (3) 社会人としてのマナー、保育者としての使命感等を認識する。 						
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>成績評価の方法： 実習園による評価（40%）、実習日誌評価（40%）、実習へ取り組む姿勢（20%）</p>						
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）						
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館						
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育実習指導Ⅱ」を履修し、準備をすると同時に実習生としてふさわしい言動を心がけること。 2. 実習関係書類の提出期限は厳守すること。 3. 「実習派遣規制」に基づき、実習の停止、中止等が行われる場合があるため注意すること。 						

科目名	教育実習指導 I		単位数	1	授業時間数	60	担当教員 おおくま しおさき 大熊・塩崎
ナバリンクコード	EDU12106	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	教育実習と並行して行われる授業であり、教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。前期教育実習の各段階における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。						
到達目標	1. 前期教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持っている。 2. 前期教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 3. 前期教育実習の事前事後指導を通し、後期教育実習に向けて必要な、保育者としての資質・能力を身につけている。						
学位授与方針	幼児教育学科(1. 2. 3) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	幼稚園教育の意義の理解	予習	幼稚園教育要領を読んでおく		
				復習	配布資料を読み返す		
	第2回	内容	教育実習の目的の理解	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく		
				復習	教育実習の目的についてまとめる		
	第3回	内容	前期教育実習の目的の理解	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく		
				復習	実習の手引きと配布資料を読み復習する		
	第4回	内容	前期教育実習参加の心得	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく		
				復習	手引き・配布資料をみながら復習をする		
	第5回	内容	実習担当資料作成指導① 担当資料について	予習	自分の住んでいる地域の幼稚園について調べる		
				復習	授業での説明を基に、幼稚園を調べる		
	第6回	内容	実習担当資料作成指導② 担当資料の作成	予習	先輩の報告書を読み、自分の行きたい園を考える		
				復習	担当資料の作成を行う		
	第7回	内容	実習内容指導① 幼稚園の一日の流れ	予習	担当資料に記入した園のディリープログラムを調べる		
				復習	配布資料と自分の調べたディリープログラムを見直し幼稚園の一日の流れについて理解を深める		
	第8回	内容	実習内容指導② 参加・観察実習の留意点	予習	実習の手引きの教育実習部分を読み直しておく		
				復習	配布資料と手引きを読み返す		
	第9回	内容	実習内容指導③ 実習中の心構え	予習	実習の手引きの該当部分を読んでくる		
				復習	配布資料・手引きをみて自分の心構えをまとめる		
	第10回	内容	実習内容指導④ 実習中のマナー・身支度	予習	実習中のマナーや身支度について考えまとめておく		
				復習	配布資料を読み返し、今から実施できることを箇条書きにまとめる		
	第11回	内容	実習内容指導⑤ 守秘義務について	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく		
				復習	実習の手引きを読み返し守秘義務について理解する		
	第12回	内容	実習生調査書作成指導① 記入上の注意	予習	自分の長所・短所を箇条書きにしておく		
				復習	記入上の注意を読み返す		
	第13回	内容	実習生調査書作成指導② 自己評価・資格・健康状態等	予習	自分の持つ資格などを確認しておく		
				復習	実習生調査書(下書き)の抱負以外を記入する		
	第14回	内容	実習生調査書作成指導③ 抱負	予習	実習への心構えや想いを整理しておく		
				復習	実習への抱負を文章にしてみる		
	第15回	内容	実習生調査書作成指導④ 作成・提出	予習	実習生調査書(下書き)の抱負の見直しを行う		
				復習	作成したものの見直しを行う		
	第16回	内容	実習担当発表と今後の流れについて	予習	前期の内容を復習する		
				復習	自分の配当先を確認し実習園の概要を調べる		
	第17回	内容	オリエンテーションについて	予習	実習園の概要の見直し、場所などを確認しておく		
				復習	オリエンテーションへの準備を行う		
	第18回	内容	教育実習日誌の作成指導① 教育実習日誌とは	予習	実習園の概要などをまとめたものに目を通しておく		
				復習	配布資料を読み返す		
第19回	内容	教育実習日誌の作成指導② 実習園の概況・環境等	予習	実習日誌の書式全体に目を通す			
			復習	実習園の概況など記入できる部分を記入する			

第20回	内容	教育実習日誌の作成指導③ 実習課題とは	予習	前期教育実習において学びたいことを箇条書きにしておく
			復習	実習課題をまとめる
第21回	内容	実習報告会	予習	先輩への質問を箇条書きにしておく
			復習	報告会の振り返りを記入する
第22回	内容	教育実習日誌の作成指導④ 保育の記録:一日の流れ	予習	幼稚園の一日についての配布資料を読み返す
			復習	一日の流れについての出された課題を行う
第23回	内容	教育実習日誌の作成指導⑤ 保育の記録:振り返り	予習	振り返りの書式(日誌)に目を通しておく
			復習	配布資料を読み返す
第24回	内容	部分実習指導案の作成指導	予習	前期教育実習の段階について手引きや配布資料を見返しておく
			復習	部分実習指導案を作成する
第25回	内容	直前指導・最終確認	予習	日誌の必要な部分を記入する
			復習	最終チェックの項目を自分で確認し実習への準備を進める
第26回	内容	前期教育実習の振り返り:自己評価	予習	実習日誌を完成し実習園への提出などを行う
			復習	自分自身の評価を記入する
第27回	内容	前期教育実習の振り返り:グループワーク	予習	実習の振り返りを自分の言葉でまとめておく
			復習	振り返りを共有した感想などをまとめる
第28回	内容	前期教育実習評価	予習	評価面談にむけて実習の振り返りを行う
			復習	園からの評価を受け、後期への課題を考える
第29回	内容	前期教育実習の総括	予習	学校への日誌提出に向け、最終確認する
			復習	これまでの振り返りを行う
第30回	内容	後期教育実習に向けて	予習	後期実習に向けて主活動の内容を調べてくる
			復習	後期実習に向けて春休みの課題を行う
予習に要する学習時間:概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間:概ね 90分を目安とする。				
課題へのフィードバック	評価面談にて実習の評価を伝え、後期実習につなげていく。			
成績評価	試験期間における定期試験:実施()する/(○)しない 成績評価の方法:レポート・課題(90%)、授業態度【積極的参加】(10%)			
教科書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』(小櫃智子他2名、わかば社) 『実習の手引き』(秋草学園短期大学・実習委員会)			
参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省)			
補足事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明, 提出書類の作成を行うので, 原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延, 授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており, 実習派遣できなくなるので十分に留意すること。 3. 必要な資料は授業内で適宜、配布するので、毎週持参すること。			

科目名	教育実習指導Ⅱ		単位数	1	授業時間数	60	担当教員 おおくま いざわ 大熊・伊澤
ナンバリングコード	EDU12206		授業形態	演習	実務経験		
授業方式	○対面○・遠隔・その他()						
授業の内容	教育実習Ⅱと並行して行われる授業であり、後期教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、後期教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。後期実習における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。						
到達目標	1. 後期教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持っている。 2. 後期教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 3. 実習の事前事後指導を通し、保育者としての資質・能力を身につけている。						
学位授与方針	幼児教育学科(1、2、3) 地域保育学科() 文化表現学科()						
授業計画	第1回	内容	実習生調査書の書き方と記入	予習	実習生調査書への記入項目について事前に考えておく		
				復習	記入内容について確認する		
	第2回	内容	個人情報保護について 実習課題を考える	予習	手引きの該当部分を読み込んでおく 前期実習の日誌等をもとに前期実習の振り返りを行う		
				復習	個人情報保護について自身の日々の行動についての振り返りを行う 実習課題を再考する		
	第3回	内容	後期実習について 責任実習について	予習	手引きの該当部分を読み込んでおく		
				復習	後期実習や責任実習についてのまとめを行う		
	第4回	内容	実習園オリエンテーションについて 実習指導案について	予習	指導案の立案について下調べをしておく		
				復習	指導案を立案する意義と目的についてまとめる		
	第5回	内容	保育の記録の書き方のポイントについて	予習	前期実習で記入した保育の記録の仕方について振り返りを行う		
				復習	前期実習で記入した保育の記録の修正点等を探る		
	第6回	内容	保育の記録の事例をもとにした実際の書き方について	予習	前回の授業内容をもとに基本的な保育の記録の書き方について整理をする		
				復習	実習に向けての健康管理法について考える		
	第7回	内容	部分実習指導案について	予習	指導案の記入方法についての振り返りを行う		
				復習	指導案例を作成する		
	第8回	内容	保育の記録と指導案の関係について	予習	保育の記録と指導案への記載内容について確認しておく		
				復習	保育の記録と指導案の共通点と相違点をまとめる		
	第9回	内容	実習日誌のチェック お礼状の書き方	予習	実習日誌の確認を行う お礼状の書き方について調べておく		
				復習	お礼状を書く練習をする		
	第10回	内容	実習概要報告書の作成	予習	実習の振り返りを行う		
				復習	作成した実習概要報告書の確認を行う		
	第11回	内容	実習の振り返りを行う(1)	予習	実習の振り返りを行う		
				復習	改めて実習の成果や課題をまとめる		
	第12回	内容	実習の振り返りを行う(2) グループワーク	予習	実習の振り返りを行う		
				復習	改めて実習の成果や課題をまとめる		
	第13回	内容	振り返りのワーク(1)	予習	実習の振り返りを行う		
				復習	課題を仕上げる		
	第14回	内容	振り返りのワーク(2)	予習	実習の振り返りを行う		
				復習	課題を仕上げる		
	第15回	内容	振り返りのワーク(3)	予習	実習の振り返りを行う		
				復習	課題を仕上げる		
	第16回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる		
				復習	評価を受けて、省察する。		
	第17回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる		
				復習	評価を受けて、省察する。		
	第18回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる		
				復習	評価を受けて、省察する。		
	第19回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる		
				復習	評価を受けて、省察する。		

	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。
課題へのフィードバック	個別面談にて実習に関する評価を伝える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（60%）、授業態度【 主体的取組 】（40%）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
補足事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明、提出書類の作成を行うので、原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延、授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣できなくなるので十分に留意すること。

【幼児教育学科第一部・二部】

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

(シラバスリンク)

https://www.akikusa.ac.jp/akitan/pdf/infant1_resume/yk_syllabus_2024.pdf

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	小口偉・関維子	104
2	施設実習	2	実習	志濃原亜美・三好力	105
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	小口偉・小山玲子・関維子	106
4	教育実習Ⅰ	2	実習	大熊美佳子・塩崎みづほ	113
5	教育実習Ⅱ	2	実習	大熊美佳子・伊澤永修	114
	計	10			

注) 「実務経験のある教員等による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。必修科目、選択科目又は自由科目の別を問わない。